

KIER DISCUSSION PAPER SERIES

KYOTO INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH

Discussion Paper No. 1008

“公的年金とマクロ経済・財政の相互関係分析のためのモデル構築”

上田淳二 寺地祐介 森田茂伸

2010年6月



KYOTO UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

公的年金とマクロ経済・財政の相互関係分析のためのモデル構築¹

上田 淳二²

寺地 祐介

森田 茂伸

要 旨

本稿では、公的年金の給付と負担の将来推計に関する先行研究を踏まえた上で、公表データ及び現行の公的年金制度を可能な限り反映して、他の部分均衡分析や一般均衡シミュレーションの一部分として用いることができる簡易な年金財政モデルを構築している。

特に、物価及び賃金の変動に伴う年金給付額への影響について、厚生労働省による年金財政検証と整合的に、マクロ経済スライドの適用期間の厳密な定式化を含め、デフレが継続する環境や、物価及び賃金が異なる動きをする環境下での年金給付額の短期的な変動を適切に分析することができるモデル構築を行っており、物価・賃金の変動に関する様々なシナリオの下でのシミュレーションに活用することが考えられる。

¹ 本稿は、「財政経済の将来展望のためのマクロ計量モデルの高度化・拡張に関する共同研究」（平成 22 年度）における現時点での研究成果に基づくものであるが、本稿の内容は、筆者の所属する組織の見解を示すものではない。

² 上田淳二（京都大学経済研究所准教授 ueda-junji@kier.kyoto-u.ac.jp）、寺地祐介（京都大学経済研究所研究員）、森田茂伸（財務省大臣官房総合政策課）

公的年金とマクロ経済・財政の相互関係分析のためのモデル構築³

上田 淳二⁴

寺地 祐介

森田 茂伸

第1節 はじめに

公的年金制度に基づく所得移転は、わが国の経済・財政の中で非常に大きな割合を占めており、2008年度のSNAベースでの年金給付額（社会保障給付のうちの公的年金）は46兆2,800億円と、一般政府の総支出の25%程度、家計可処分所得の15%程度を占めている。また、年金のための社会保険料も、2008年度のSNAベースで、本人負担15兆3,168億円、雇主負担13兆6,461億円と、それぞれ所得税や法人税の税収に匹敵する金額となっている。

したがって、マクロ経済及び財政の短期の変動や中長期の将来展望を考える際に、年金財政を考慮することは必要不可欠であり、とりわけ人口の高齢化の進展がわが国の経済・財政全般に与える影響を見極める上で、公的年金とマクロ経済・財政の相互関係を踏まえたシミュレーション分析の実施は重要な課題である。

公的年金の財政に関する将来推計については、政府が少なくとも5年ごとに国民年金・厚生年金の財政に係る収支についてその現況及び財政均衡期間における見通し（「財政の現況及び見通し」）を作成しなければならないと定められており⁵、直近では2009年2月に、「国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し—平成21年財政検証結果—」（以下、「年金財政検証」）が公表されている⁶。

これまで、年金財政については、厚生労働省の年金財政検証以外にも、八田・小口（1999）を嚆矢とする「OSUモデル」、深尾・金子・中田・蓮見（2006）以降の「RIETIモデル」等を用いたシミュレーションが研究者によって実施されてきた。それらの内容については、蓮見・中田（2009）で概観されているが、公的年金に関する現行制度を踏まえつつ、一般に公表されている情報を利用して厚生労働省によるシミュレーション結果を再現した上で、様々な前提条件を変更した場合の年金財政への影響を分析することを目的としたものであったと言える⁷。

³ 本稿は、「財政経済の将来展望のためのマクロ計量モデルの高度化・拡張に関する共同研究」（平成22年度）における現時点での研究成果に基づくものであるが、本稿の内容は、筆者の所属する組織の見解を示すものではない。

⁴ 上田淳二（京都大学経済研究所准教授 ueda-junji@kier.kyoto-u.ac.jp）、寺地祐介（京都大学経済研究所研究員）、森田茂伸（財務省大臣官房総合政策課）

⁵ 国民年金法第4条の3及び厚生年金保険法第2条の4の規定による。

⁶ 平成21年財政検証結果については、以下のホームページに資料及びバックデータが掲載されている。<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/nenkin/nenkin/zaisei-kensyo/index.html>

⁷ 同様のものとして、北浦ほか（2009）、畑農（2009）の第5章がある。

今回の厚生労働省の年金財政検証では、シミュレーションで用いられた「年金数理モデル」のバックデータ及びプログラムが、初めてホームページ上で公開され、年金財政に関する様々な前提に基づく部分均衡的な分析は、厚生労働省の年金数理モデルを用いて実施することが可能となっている。実際に、異なる前提に基づく年金財政のシミュレーションが実施され始めており、蓮見・中田（2009）では、将来の経済（経済成長率及び金利）の前提を世代重複モデルによって作成した上で、その前提の下で、年金数理モデルを用いて年金財政のシミュレーションが実施されており、山本・金山・大塚・杉田（2010）では、厚生年金について、支給開始年齢の引上げや、年金給付算定方式の変更による年金財政シミュレーションを、年金数理モデルを用いて実施した結果が示されている⁸。

一方、Darby and Melitz（2008）等では、公的年金等の社会保障給付が、経済の短期的な変動に対して安定化機能を発揮する可能性が議論されているが、その分析や検証のためには、経済の変動が年金給付額や保険料に影響を与え、さらにそれが経済に対してフィードバックすることを考慮した一般均衡的な枠組みが必要となる。その場合、大規模かつ複雑な年金数理モデルをそのまま用いることは容易ではない。

一般均衡的なアプローチに基づいて経済と公的年金の給付・負担との関係を考える取組みとしては、バックワード型の期待形成を前提とした一般均衡モデルである増淵ほか（2002）による社会保障モデルと、それを基礎とした内閣府の経済財政モデル（直近版は内閣府（2009））、動学的な一般均衡モデルである世代重複モデルを用いた研究（上村（2004）、井堀・別所（2008）等）がある。これらの研究では、年金財政の仕組みをある程度大胆に抽象化した上で、経済・財政と年金の相互関係を考慮したシミュレーションが実施されている。

本稿の目的は、これらの先行研究を踏まえつつ、経済状況の変動による年金給付額・負担額に与える影響について、公表されているデータ及び現行の制度を可能な限り反映して、現在のマクロ的な公的年金の給付水準をある程度まで正確に再現した上で、他の部分均衡分析や一般均衡シミュレーションの一部として用いることができる簡易な年金財政モデルを構築することである。特に、物価及び賃金の変動に伴う年金給付額への影響について、マクロ経済スライドの適用期間の厳密な定式化を含め、デフレが継続する環境や、物価及び賃金が異なる動きをする環境下での年金給付額の短期的な変動を適切に分析できるモデルを構築していることが、本稿の新たな貢献である。

本モデルは、「改定基準」、「給付」、「保険料」、「財政」の4つのサブブロックから構成される。以下、第2節から第5節までの各節で、各サブブロックの内容について説明する。

第2節の「改定基準」サブブロックでは、物価や賃金の変動に対応した年金給付額の変

⁸ 厚生労働省が2009年5月に発表した「財政検証関連資料」では、①将来にわたる国民年金保険料納付率の変化が最終的な所得代替率に及ぼす影響の試算、②機械的に名目賃金上昇率の前提を変更した場合の試算、③機械的に労働力率の前提を変更した場合の将来推計の結果が公表されている。

動（スライド）を決定するためのスライド率について、「給付」ブロックで必要とされる変数を作成する。具体的には、基礎年金、厚生年金のそれぞれについて、新規裁定者（65～67歳）と既裁定者（68歳以上）に適用される改定基準を、マクロ経済スライドによる調整を行う場合と行わない場合それぞれについて作成する。

第3節の「給付」サブブロックでは、基礎年金、厚生年金、共済年金の各制度について、2009年の年金財政検証と同じベースでの将来の給付費を、外生的に与えられる人口・物価・賃金に基づいて推計する。具体的には、各制度の年齢階層（60～94歳の各年齢及び95歳以上）ごとに、受給権者数と物価や賃金の変動を反映した受給権者一人当たりの平均給付単価を計算し、両者の積によって、各年齢階層の年金給付を計算し、その和によってマクロ的な給付総額を計算する。

第4節の「保険料」サブブロックでは、20歳未満・20歳から59歳・60歳以上の3つのグループについて、国民年金の1号から3号の被保険者数、厚生年金の2号・3号被保険者数を計算した上で、国民年金・厚生年金の被保険者一人当たり保険料単価と被保険者数から、各制度の保険料収入を計算する。

第5節の「財政」サブブロックでは、「給付」サブブロックで求められた給付額と、「保険料」サブブロックで求められた保険料収入に基づき、年金財政検証と同一のベースで、基礎年金、国民年金、厚生年金、共済年金の各制度の財政収支及び積立金残高を計算する。

最後の第6節では、モデル構築に当たって捨象した点及び今後の課題を述べるとともに、本モデルを用いる意義があると考えられるシミュレーションの方向性を示す。

第2節 「改定基準」サブブロック

公的年金の給付水準は、物価や賃金の変動に対応して変動（スライド）する仕組みが設けられており、給付水準の変動を示す毎年度のスライド率（以下、「改定基準」と呼ぶ）の計算に用いられるのが、「名目手取り賃金変動率」と「物価変動率」である。新規裁定者（65～67歳）の年金給付水準を決定するための改定基準として用いられる名目手取り賃金変動率は、データの現実的な利用可能性から、前年（暦年）の物価変動率に、5年度前から2年度前までの実質賃金上昇率及び可処分所得割合変動率を乗じたものとして定義される。

$$\begin{aligned} \text{名目手取り賃金変動率} &= \frac{1 \text{ 暦年前の消費者物価指数}}{2 \text{ 暦年前の消費者物価指数}} \\ &\times \left(\frac{0.910 - 3 \text{ 年前(9月時点)の厚生年金保険料率}/2}{0.910 - 4 \text{ 年前(9月時点)の厚生年金保険料率}/2} \right) \\ &\times \left(\frac{2 \text{ 年度前の標準報酬額等平均} \div 2 \text{ 年度前の消費者物価指数}}{5 \text{ 年度前の標準報酬額等平均} \div 5 \text{ 年度前の消費者物価指数}} \right)^{\frac{1}{3}} \end{aligned}$$

また、既裁定者（68 歳以上）の年金給付額の水準を決定するための改定基準として用いられる物価変動率は、前年（暦年）の消費者物価指数のその前年に対する比率として定義される。

$$\text{物価変動率} = \frac{1 \text{ 暦年前の消費者物価指数}}{2 \text{ 暦年前の消費者物価指数}}$$

さらに、2004 年度の年金制度改革では、長期の年金財政の均衡を保つために、年金の給付額について必要な調整を行うための「マクロ経済スライド」（以下、本稿では「マクロスライド」）が導入されている。具体的には、財政均衡期間（今後概ね 100 年間）にわたって年金財政の均衡を保つことが見込まれない場合に、定められた「調整期間」中の改定基準は、マクロスライドによる「調整率」を乗じることによって、伸びを抑制することとされている。

調整率の大きさは、公的年金の被保険者数の減少を反映する要素と、平均寿命の伸びを勘案した要素（係数 0.997）⁹の積として定義されている。この調整率の値そのものが 1 を超える値となる（公的年金被保険者数が増加する）場合には、調整率を乗じないこととされているが、本モデルの中では、調整率は 1 を上回らない値であることを前提とする。

$$\text{調整率} = \min \left(1, 0.997 \times \left(\frac{2 \text{ 年前の公的年金被保険者数}}{5 \text{ 年前の公的年金被保険者数}} \right)^{\frac{1}{3}} \right)$$

但し、この調整率の適用は、年金の給付額が前年度と比較して名目額で下回らない範囲内（調整率を乗じた後の改定基準が 1 以上となる範囲内）に限ることとされているため、経済状況によって、上記の調整率が完全に適用されないケースも生じ得る¹⁰。図 1 に、調整期間内における調整率の適用についての厚生労働省の考え方が示されているが、名目手取り賃金変動率（もしくは物価変動率）が 1 を下回る場合にはマクロスライド調整は全く行われず、調整率を乗じた名目手取り賃金変動率（もしくは物価変動率）が 1 を下回る場合には、調整後の改定基準が 1 になることとされている。

これらを踏まえ、図 1 で示されている考え方にしたがって、マクロスライドの調整率の適用範囲を考慮した名目手取り賃金変動率及び物価変動率を、以下では、「マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率」、「マクロスライド調整済み物価変動率」と呼ぶ。それぞれ

⁹ この係数は、65 歳時点での平均余命の伸びの見込み値 0.3% を勘案して設定された値である。

¹⁰ 例えば、国民年金法第 27 条の 4 第 1 項の但し書き及び第 27 条の 5 第 1 項の但し書きにおいては、「当該基準による改定により当該年度の改定率が当該年度の前年度の改定率を下回ることとなるときは、一を基準とする」とされている。

れの値は、経済状況に応じて、モデルの中で以下のように計算する。

マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率

$$= \begin{cases} \text{名目手取り賃金変動率} \\ \text{if 名目手取り賃金変動率} < 1 \\ 1 \\ \text{if 名目手取り賃金変動率} \geq 1 \text{ and 調整率} \times \text{名目手取り賃金変動率} < 1 \\ \text{調整率} \times \text{賃金変動率} \\ \text{otherwise} \end{cases}$$

マクロスライド調整済み物価変動率

$$= \begin{cases} \text{物価変動率} \\ \text{if 物価変動率} < 1 \\ 1 \\ \text{if 物価変動率} \geq 1 \text{ and 調整率} \times \text{物価変動率} < 1 \\ \text{調整率} \times \text{物価変動率} \\ \text{otherwise} \end{cases}$$

毎年度の給付水準の改定基準は、これらの「マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率」及び「マクロスライド調整済み物価変動率」を用いて計算する。物価及び賃金がともに上昇し、賃金上昇率が物価上昇率を上回る状態（いわゆる「通常の状態」）の下で、新規裁定者の年金給付水準は「マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率」によって改定され、既裁定者の年金給付水準は「マクロスライド調整済み物価変動率」により改定される。

但し、物価上昇率が名目手取り賃金上昇率を上回るような状況（実質賃金変動率がマイナスとなる状況）においては、図2のように改定基準の特例が設けられている。これは、現役世代の負担力の伸び（賃金上昇率）を上回る年金額の引上げは不適切である等の考え方に基づくものとされている。これらの特例を踏まえれば、新規裁定者の給付水準の改定基準は、図3の通りとなり、モデルの中では以下のように計算する。

新規裁定者の年金給付水準の「改定基準」

$$= \begin{cases} \text{マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率} \\ \text{if 名目手取り賃金変動率} > 1 \\ 1 \\ \text{if 名目手取り賃金変動率} \leq 1 \text{ and 物価変動率} > 1 \\ \max[\text{名目手取り賃金変動率}, \text{物価変動率}] \\ \text{if 名目手取り賃金変動率} \leq 1 \text{ and 物価変動率} \leq 1 \end{cases}$$

既裁定者の給付水準の改定基準は、図4の通りとなり、モデルの中では以下のように計算する。

既裁定者の年金給付水準の「改定基準」

$$= \begin{cases} \text{物価変動率} & \text{if 物価変動率} \leq 1 \\ 1 & \text{if 賃金変動率} \leq 1 \text{ and 物価変動率} > 1 \\ \min[\text{マクロスライド調整済み賃金変動率}, \text{マクロスライド調整済み物価変動率}] & \text{if 賃金変動率} > 1 \text{ and 物価変動率} > 1 \end{cases}$$

以上が基本的な改定基準の計算方法であるが、当面の年金給付水準の決定に当たっては、マクロスライド調整の適用が開始されない「物価スライド特例措置」が適用されており、調整期間が開始するまでの間の実際の改定基準の計算のためには、以下で計算される、マクロスライド調整を行わない改定基準を用いることが必要となる。

$$\text{新規裁定者・マクロスライドなしの改定基準} = \begin{cases} \text{賃金変動率} & \text{if 賃金変動率} > 1 \\ 1 & \text{if 賃金変動率} \leq 1 \text{ and 物価変動率} > 1 \\ \max[\text{賃金変動率}, \text{物価変動率}] & \text{if 賃金変動率} \leq 1 \text{ and 物価変動率} \leq 1 \end{cases}$$

$$\text{既裁定者・マクロスライドなしの改定基準} = \begin{cases} \text{物価変動率} & \text{if 物価変動率} \leq 1 \\ 1 & \text{if 賃金変動率} \leq 1 \text{ and 物価変動率} > 1 \\ \min[\text{賃金変動率}, \text{物価変動率}] & \text{if 賃金変動率} > 1, \text{ and 物価変動率} > 1 \end{cases}$$

マクロスライドの適用期間の終期については、財政検証を行った上で、財政均衡期間の終了時（概ね100年後）に積立金が給付の1年分確保することができるように年金給付額の調整を行うために、政令で開始年度及び終了年度を定めることとされており¹¹、年金財政検証において、調整期間の終了年度の見通しを作成して公表することとされている。

本モデルのシミュレーションでは、2009年の年金財政検証の基本ケースの調整期間をそのまま用いて、基礎年金部分については2038年度、報酬比例部分については2019年度までのマクロスライド調整を実施することとしているが、人口や物価・賃金等の前提条件を変更する場合には、年金財政計算における手法にしたがって、国民年金・厚生年金のそれぞれについて、財政均衡期間の終了時における積立金を1年分確保するために必要な調整

¹¹ 国民年金法第16条の2、厚生年金保険法第34条において、それぞれ「調整期間」の定めが設けられている。

期間を、繰り返し計算によって求める必要がある。

なお、調整期間については、別途、次の年金財政検証までの5年間に、男性の平均的な手取り賃金（標準報酬額に相当する額から公租公課の額を控除した額）に対する所得代替率¹²が50%を下回ることが見込まれる場合には、調整期間の終了について検討を行い、「調整期間の終了その他の措置を講ずる」とともに、「給付及び費用負担の在り方について検討を行い、所要の措置を講ずる」こととされている¹³。したがって、所得代替率が50%となる時点で調整期間を終了するシミュレーションを実施することも考えられる。その判断に用いるために、モデルの中で、所得代替率を以下のように計算する。

マクロスライド調整前の所得代替率

$$= \frac{\text{新規裁定者の基礎年金フルペンション} \times 2 + \text{新規裁定者の標準的な厚生年金額(報酬比例部分)}}{\text{厚生年金男性被保険者の平均的な手取り賃金額}}$$

なお、新規裁定者の厚生年金（報酬比例部分）の標準的な年金額は、夫が平均的収入（平均標準報酬36.0万円）で40年間就業し、妻がその期間全て専業主婦であった世帯の給付水準（2006年度120.7万円）を、新規裁定者の改定基準で改定して計算する。また、厚生年金男性被保険者の平均的な手取り賃金は、2007年度の厚生年金男性被保険者の平均標準報酬額等の実績値を経済前提の賃金上昇率で延伸したものに可処分所得割合を乗じて計算する。

所得代替率が0.5を下回る時点でマクロ経済スライドを停止するシミュレーションを実施する場合には、以下の式から計算される「修正済み調整率」の値を、マクロスライドの調整率の値として用いる必要がある。調整率の下限値は、所得代替率が0.5を下回らないようにするための値である。

$$\text{修正済み調整率} = \begin{cases} \text{調整率} & \text{if 調整率} > \text{調整率の下限値} \\ \text{調整率の下限値} & \text{if 調整率} < \text{調整率の下限値} < 1 \\ 1 & \text{otherwise} \end{cases}$$

$$\text{調整率の下限値} = \frac{0.5}{\text{マクロ経済スライド調整前の所得代替率}}$$

¹² 所得代替率の分子として用いられる年金給付額は、老齢基礎年金の二人分の金額（40年加入の場合）と、当該年度の現役世代の平均的な賃金水準で厚生年金に40年間加入した場合に得られる老齢厚生年金の以下の金額を合算して計算される（平成十六年改正法附則第2条第1項）。

¹³ 平成十六年度改正法附則第2条。

第3節 「給付」サブブロック

「給付」サブブロックでは、受給権者数及び年金の給付水準を踏まえ、マクロ的な年金給付総額を計算する。

以下では、まず、老齢基礎年金について、各受給権者の給付水準の決定方法を概観した上で、物価・賃金の変動を踏まえ、年齢階層別の受給権者比率と一人当たり給付水準のデータを用いて、マクロ的な基礎年金の給付総額を推計する手法について説明する。次に、老齢厚生年金（退職共済年金も同様）について、各受給権者の給付水準の決定方法を概観した上で、物価・賃金の変動を踏まえた改定基準と、年齢階層別の受給権者比率及び一人当たり給付水準データを用いて、マクロ的な厚生年金・共済年金の給付総額を推計する手法を説明する。

3-1. 老齢基礎年金の給付水準の決定方法

国民年金法の本則（第27条）では、老齢基礎年金（新法）の額について、2004年度の老齢基礎年金のフルペンション額¹⁴を新規裁定者・既裁定者ともに780,900円と設定した上で、これに毎年度改定される「改定率」¹⁵の水準を乗じることで、2005年度以降のフルペンション額が決定され、さらにそれに各受給権者の加入期間¹⁶を乗じることによって給付額が決定される仕組みとなっている。また、別途、60歳からの繰上げ支給、65歳を超えてからの繰下げ支給も可能となっており、それぞれ年金支給額が繰上げ期間、繰下げ期間に応じた率で減額・増額される。

フルペンション額は、以下で述べるように、今後、年齢によって異なる可能性があり、かつ毎年度変動し得るため、モデルの中では、60～94歳の各年齢及び95歳以上の36階層（以下、「年齢階層」と呼ぶ）について、毎年度のフルペンション額の変数を設けることとしている（95歳以上については、95歳以上の各年齢のフルペンション額の人口による加重平均値）。以下では、現行法の本則に基づく老齢基礎年金のフルペンション額の水準を、老齢基礎年金の「本来水準」と呼ぶ。

本来水準は、2005年度以降、毎年度改定される「改定率」を780,900円に乘じることで計算され、65～67歳までの者に適用される改定率（以下、「新規裁定者の改定率」と呼ぶ）の水準は、「新規裁定者の改定基準」を用いて、基本的に「名目手取り賃金変動率」を基準に改定され、68歳以上の各年齢の者にそれぞれ適用される改定率の水準¹⁷は、「既裁

¹⁴ 加入期間480ヶ月の場合の基礎年金の1年間の給付額。

¹⁵ 「改定率」は、2004年度の年金給付水準と比較した各年度の給付水準を示す指数であり、改定率（指数）を毎年度変更（改定）する率の大きさが「改定基準」である。

¹⁶ 正確には、加入可能期間（通常は480ヶ月）に対する加入月数の比率。

¹⁷ 今後、新たに68歳になる者の年金給付水準は、65～67歳の間に賃金スライドが適用された改定率を反映することになるため、各年齢（生年）によって、物価変動率と名目手取り

定者の改定基準」を用いて、基本的に「物価変動率」を基準に改定される¹⁸。

但し、年金の給付水準については、経過措置の規定により、本来水準の年金給付額が改正前の国民年金法等の規定によって計算した額に満たない場合は、改正前の国民年金法等の規定によって計算された金額が年金給付額となる仕組みとなっている¹⁹。2004年度における実際の老齢基礎年金のフルペンション額は794,500円であり、本来水準（780,900円）よりも高い水準にある。これは、過去の一定期間（2000～2002年度）、物価下落に対して、本来下がるべき年金額の水準を特例的に据え置く「物価スライド特例措置」が講じられたことを反映しており（図5参照）、以下では、これを老齢基礎年金の「特例水準」と呼ぶ。実際のフルペンション額は、特例水準と本来水準を比較し、どちらか高い方となる。

老齢基礎年金の特例水準については、特別な改定ルールが設けられており、新規裁定者・既裁定者いずれについても、物価が上昇しても特例水準の年金額は据え置かれる一方、物価が直近の基準年の物価水準²⁰を下回った場合にのみ、その分だけ下方に引き下げることとされている。したがって、今後、物価や賃金が上昇し、本来水準のみが上昇した結果、本来水準の年金額が特例水準の年金額を上回ることとなれば、本来水準の年金額が実際に支給されることとなる。

また、本来水準と特例水準の乖離の大きさ（本来水準が特例水準を下回る幅）は、通称「たまり」と呼ばれており、「たまり」が存在する間は、本来水準（実際の年金額ではない）の改定に当たっても、マクロスライド調整は行われなかったこととされている²¹。したがって、マクロスライド調整期間の開始時点は、今後の物価・賃金変動率等に対応して、本来水準と特例水準がどのように推移するかによって決定されることとなる²²。なお、本来水準の金額は、今後年齢に応じて異なることがあり得るため、「たまり」の解消が、必ずしも全ての年齢階層について同じ年に実現するとは限らない。

モデルの中では、まず、老齢基礎年金の特例水準を計算する。特例水準は、物価が上昇

賃金変動率の乖離度合いに応じて、既に68歳以上である者の改定率とは異なる水準の改定率が適用される。なお、2004年度の時点ですでに68歳以上である者については、フルペンション780,900円に対する改定率「1」が、その後の物価変動率を改定基準としてスライドするため、フルペンション額は年齢によって異なる。

¹⁸ 本来水準の改定率の改定は、国民年金法第27条の2から第27条の5の規定による。

¹⁹ 平成十六年国民年金法改正法附則第7条に、年金給付額の計算に関する経過措置の規定が設けられている。

²⁰ 2004年の年金制度改革時点では2003年の水準とされていたが、2005年の物価水準が2003年の水準を下回ったため、現在は2005年の水準が基準年となっている。

²¹ マクロ経済スライドが適用される「調整期間」の開始年度は、国民年金法及び厚生年金保険法の本則上、政令で開始年度を定めることとされており、国民年金法施行令及び厚生年金保険法施行令では、調整期間の開始年度は2005年度と定められているが、別途、法律の附則において、マクロ経済スライドによる調整は「たまり」が存在する間は実施しない旨が規定されている（平成十六年国民年金法改正法附則第12条の「改定率の改定の特例」の規定）。

²² 2009年2月の年金財政検証の経済中位の前提の下では、2012年度に調整期間が開始するとの見通しとなっている。

しても据え置かれる一方、物価水準（消費者物価指数）が 2005 年水準を下回った場合には下方に引き下げられるため、まず比較対照のための「参照特例水準」（物価変動を完全に反映した年金額の水準）を、足下の特例水準（2004 年度 794,500 円、2006 年度 792,100 円）から毎年の物価変動率を乗じて計算した上で、参照特例水準が、1 年前の特例水準を下回った場合にのみ、特例水準を参照特例水準の水準にまで切り下げる。

$$\text{特例水準} = \begin{cases} \text{参照特例水準} & \text{if 参照特例水準} \leq \text{1年前の特例水準} \\ \text{1年前の特例水準} & \text{if 参照特例水準} > \text{1年前の特例水準} \end{cases}$$

次に、「たまり」が解消されていないければ、本来水準はマクロスライド調整が適用されずに改定される一方、「たまり」が解消されれば、本来水準はマクロスライド調整が適用されて改定されるため、前年度の本来水準に対して、マクロスライド調整を適用して改定した水準、適用しないで改定した水準を、それぞれ「本来水準候補」と考え、特例水準との比較によって本来水準を決定する。なお、「たまり」が解消された年度において、マクロスライドを完全適用した結果、年金額が特例水準を下回るようになってしまう場合には、そうならないようにマクロスライドを部分的に適用することとされている²³。

新規裁定者の本来水準候補は、前年の新規裁定者の本来水準に、それぞれ新規裁定者の改定基準（マクロスライド調整あり・なし）を乗じて計算する。また、既裁定者である各年齢階層の本来水準候補は、前年度の 1 歳下の本来水準に、それぞれ既裁定者の改定基準（マクロスライド調整あり・なし）を乗じて計算する。95 歳以上については、前年度の 94 歳の本来水準と、95 歳以上の本来水準に既裁定者の改定基準を乗じて、加重平均をとった値として計算する（本来水準の初期値は、いずれの年齢階層でも 2004～2005 年度が 780,900 円、2006 年度が 778,600 円である）。

そのようにして得られた本来水準候補と、特例水準を毎年度比較することによって、各年齢階層の本来水準及び実際の年金額が決定される。本来水準は、3 つの水準を比較し、それぞれ以下のように決定される。

- ①マクロスライドあり本来水準候補 < マクロスライドなし本来水準候補 ≦ 特例水準
： マクロスライドなし本来水準候補
- ②マクロスライドあり本来水準候補 ≦ 特例水準 < マクロスライドなし本来水準候補
： 特例水準

²³ マクロスライドの適用によって、改定基準が 1 を下回らない範囲内で調整が行われるように調整率が修正されるだけでなく、スライドの適用によって特例水準を下回らない範囲内でのみ調整される（平成十六年国民年金法改正法附則第 12 条第 2 項）。

- ③特例水準 < マクロスライドあり本来水準候補 < マクロスライドなし本来水準候補
： マクロスライドあり本来水準候補

その上で、実際の各年齢階層のフルペンション額の水準は、特例水準と本来水準のいずれか高い方として決定される。

3-2. 基礎年金の給付総額

モデルの中では、「基礎年金」の給付総額として、年金財政検証の「基礎年金財政見通し」に示される「基礎年金給付費」の金額を考える。この金額は、新法（昭和 60 年改正後の国民年金法）に基づく狭義の基礎年金給付費（老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金に要する給付）に加えて、旧法による年金給付のうち、基礎年金に相当する給付に要する費用である「基礎年金相当給付費」（以下、「みなし基礎年金給付費」）を含むものである。なお、みなし基礎年金給付費は、基礎年金財政見通しにおける「基礎年金交付金」の金額と等しい。

1986 年度以降の基礎年金給付費の推移は、図 6 の通りであり、受給者の増加に伴い増加する傾向を示している。2007 年度の給付費の内訳は、図 7 の通りである。モデルでは、これらを老齢基礎年金（新法）、障害年金＋遺族年金（新法）、みなし基礎年金の 3 つに分けて推計を行う。

事業年報データによれば、2007 年度時点で、60～94 歳及び 95 歳以上の各年齢階層の老齢基礎年金（新法）の受給権者数及びその人口に対する比率（受給権者比率）は、図 8 の通りとなっている。このうち、60～64 歳は繰上げ受給者の比率であり、82 歳以上は旧法受給権者であるため比率はゼロとなっている。若い世代ほど受給権者比率が高くなる傾向にあり、全体の受給権者比率は、将来に向けて徐々に上昇していくことが考えられる。

モデルの中では、67 歳以下の受給権者比率については、現行の水準で将来に向けて一定と仮定し、新規裁定がほぼ終了する 68 歳以上の受給権者比率については、生年のコーホートについて一定であることを仮定して、各年齢階層の受給権者比率が前年度の 1 歳下の受給権者比率の値に等しくなるとの定式化としている。

また、各年齢階層の受給権者一人当たり平均給付額のフルペンション額に対する比率（「対フルペンション比率」）を事業年報データから計算すると、2007 年度時点で図 9 の通りとなっている。年齢階層による対フルペンション比率の相違は、年齢階層によって、①平均加入期間の相違、②繰上げ支給・繰下げ支給の割合の相違、③振替加算の適用の相違があることなどによるものと考えられる。モデルの中では、受給権者比率と同様、67 歳以下の対フルペンション比率については現行の水準で将来に向けて一定と仮定し、68 歳以上の対フルペンション比率については、生年のコーホートについて一定であることを仮定し、各年齢階層の対フルペンション比率が前年度の 1 歳下の対フルペンション比率の値に等し

くると定式化する。

その上で、各年齢階層の老齢基礎年金（新法）の給付総額を、人口（外生）、受給権者比率、フルペンション額（3-1で計算した額）、対フルペンション比率の4つの変数の積によって計算し、その和によってマクロ的な給付総額を計算する。

新法の遺族基礎年金と障害基礎年金は、モデルの中で、各年度の老齢基礎年金（新法）の推計結果の金額の一定比率として計算する。この比率の値は、年金財政検証のシミュレーション結果（基本ケース）の「老齢基礎年金（新法・旧法）」に対する「障害基礎年金（新法・旧法）+遺族基礎年金（新法・旧法）」の各年度の比率を用いる。

基礎年金制度発足時（1986年4月1日）にすでに60歳以上であった者は、旧法の各年金制度（国民年金・厚生年金・共済年金）に基づく給付を受けることとされているが、そのうち基礎年金に相当する金額は、「みなし基礎年金」と位置づけられ、基礎年金勘定からではなく各年金制度から給付され、その財源が基礎年金勘定から各制度の勘定（国民年金勘定、厚生年金勘定、各共済組合）に対して「基礎年金交付金」として移転される。その将来の金額は、年金財政検証のシミュレーション結果（基本ケース）において、各制度に対する「基礎年金交付金」の金額が示されているため、その値からスライド適用前の金額を算出した上で、モデル内の物価変動率を用いてスライドさせて計算する。

実際にモデルを用いて2009年の年金財政検証と同様の前提に基づいてシミュレーションを実施した基礎年金給付費の推計結果は、2007年度時点では年金財政検証の値とほぼ等しくなるが、将来に向けて、年金財政検証の数値を少しずつ下回っていく。これは、現在の被保険者（まだ受給権者になっていない者）における加入比率（受給権者比率）及び加入期間の上昇を反映することができていないためと考えられる。そのため、将来のシミュレーションに当たっては、受給権者比率・対フルペンション比率について一定の補正を外生的に行うことによって、同一の前提の下では、将来にわたって年金財政検証とほぼ同様の給付額が計算されるようにする（補正後のシミュレーション結果は図10の通り）。

3-3. 老齢厚生年金の給付水準の決定方法

老齢厚生年金の給付水準（報酬比例部分）は、厚生年金保険法の本則（第43条）において、被保険者であった全期間の「平均標準報酬額」の1000分の5.481に相当する額に、被保険者期間の月数を乗じて得た額とされている。平均標準報酬額は、各受給権者が現役時代に受け取った賃金の累積値の平均水準を示すものであり、現役時代の実際の賃金（標準報酬月額と標準賞与額）に、受給権者の年齢に応じて過去の年度ごとに定められた「再評価率」を乗じて得た金額の平均値として計算される。また、1000分の5.481は、「給付乗率」であり、どの程度の給付水準とすべきかとの政策判断に基づいて決定されるパラメータである²⁴。

²⁴ 給付乗率については、これまでの年金制度改革において累次にわたって引下げが行われ

物価・賃金の変動に応じた年金給付額の変更は、2004年度の年金制度改革以降、平均標準報酬額を計算するために用いられる「再評価率」を改定して行われる仕組みとなっている。65～67歳の者の平均標準報酬額の計算に用いられる再評価率は、第43条の2の規定に基づき、「名目手取り賃金変動率」を基本とした「新規裁定者の改定基準」で改定され、68歳以上の平均標準報酬額の計算に用いられる再評価率は、第43条の3の規定に基づき、「物価変動率」を基本とした「既裁定者の改定基準」で改定される。

以上が、本則に基づく給付額の決定方式であるが、実際には、2004年改正後の規定に基づき計算した年金額（本来水準）が、改正前（2000年改正及び1994年改正）の規定に基づき計算した年金額（改正前の水準）より低い場合には、従前の額を保障する経過措置が設けられている。具体的には、個々の受給権者について、2004年、2000年、1994年のそれぞれの改正の規定に基づいた年金額を計算し、最も高い額を支給することとされている。それぞれの水準について、被保険者期間中の平均標準報酬の計算方法及び適用される給付乗率、さらに経済状況に応じた給付水準の改定方法は、以下のように整理される。

ア) 2004年改正水準

以下の①と②の額の合算。

- ① 総報酬制導入前（2003年3月まで）の被保険者であった期間分
平均標準報酬月額×新給付乗率／1000×被保険者期間の月数
- ② 総報酬制導入後（2003年4月以降）の被保険者であった期間分
平均標準報酬額×新給付乗率／1000×被保険者期間の月数

- 平均標準報酬月額の算出に際しては、2004年再評価率を使用（再評価率は経済状況に応じて毎年度改定される）。
- 給付乗率は、生年月日に応じた値を使用（平成十二年改正法附則第20条）。

イ) 2000年改正水準

以下の③と④を合算した上で、「従前額改定率」（2009年度は1.007）を乗じる。

- ③ 総報酬制導入前（2003年3月まで）の被保険者であった期間分
平均標準報酬月額×旧給付乗率／1000×被保険者期間の月数
- ④ 総報酬制導入後（2003年4月以降）の被保険者であった期間分
平均標準報酬額×旧給付乗率／1000×被保険者期間の月数

- 平均標準報酬月額の算出に際しては、1994年再評価率を使用（再評価率は改定されない）。

ているが、すでに裁定を受けた受給権者には、過去の給付乗率がそのまま適用されるため、既裁定者については年齢階層によって乗率が異なっている。

- 給付乗率は、生年月日に応じた値を使用（平成十二年改正法附則第 21 条）。
- 「従前額改定率」は、経済状況に応じて、本則の給付水準の既裁定者の改定基準（物価変動率を基準とする）にしたがって改定される（平成十二年改正法附則第 21 条第 3 項、第 4 項）。具体的には、2006 年度の従前額改定率（1.001）を、厚生年金保険法第 43 条の 3 第 1 項、第 2 項にしたがって改定することとされている

ウ) 1994 年改正の水準

以下の⑤と⑥を合算した上で、「1994 年水準の改定率」を乗じる。

- ⑤ 総報酬制導入前（2003 年 3 月まで）の被保険者であった期間分
平均標準報酬月額×旧給付乗率／1000×被保険者期間の月数
- ⑥ 総報酬導入後（2003 年 4 月以降）の被保険者であった期間分
平均標準報酬額×旧給付乗率／1000×被保険者期間の月数

- 平均標準報酬月額の算出に際しては、1994 年再評価率を使用（再評価率は改定されない）。
- 給付乗率は、生年月日に応じた値を使用（平成十二年改正法附則第 21 条）。
- 「1994 年水準の改定率」は、2009 年度時点で、「1.031」（1994 年から 2000 年までに実施された実際の物価スライド率）×「0.985」（2009 年時点における「1994 年水準の改定率」）と規定されており、今後物価が 2005 年の水準をさらに下回った場合には、マイナス改定される。

1994 年水準と 2000 年水準を比較すると、算定の基礎となる平均標準報酬額は同額であり、再評価率も変化しないため将来においても同一の値となるが、1994 年水準は、2000 年～2002 年にかけて消費者物価指数の下落（▲1.7%）を反映しない「物価特例措置」を適用している分だけ水準が高い一方、今後の物価上昇は反映しない。そのため、今後物価が上昇すれば、2000 年水準が 1994 年水準を上回ることとなる。それまでの間、給付水準は、物価変動率や名目手取り賃金変動率には連動せず、物価特例水準に連動して動くこととなるため、モデル内で適用される改定基準については、後述のように、物価スライド特例水準指数と本来水準指数を比較することによってこれを織り込むこととしている。

また、2000 年水準と 2004 年水準を比較すると、前者の計算には旧給付水準（5%引き下げる以前の給付乗率）が用いられるため、現時点においては給付水準が高く、給付水準（従前額改定率）も物価変動率を基準に改定されるが、再評価率は 1994 年水準で固定されている。一方、2004 年水準は、新規裁定者に対して賃金スライドによる再評価率の改定が行われるため、今後賃金が増加していけば、新規裁定者については 2004 年水準が 2000 年水準（あるいは 1994 年水準）を上回ることとなる。

さらに、老齢厚生年金についても、老齢基礎年金と同様に、第 43 条の 4 及び 43 条の 5

の規定に基づき、調整期間においては、再評価率及び従前額改定率の改定基準に、マクロスライドによる調整率を乗じることとされている。しかし、老齢基礎年金の物価特例措置と同様に、2000～2002年に実施された物価下落分を据え置く特例措置を考慮した従前額保証水準を表す指数と、本来の給付水準を表す指数²⁵の大小関係を比較し、前者が後者を上回っている間はマクロスライド調整を適用しないこととされている（平成十六年改正法附則第31条）。

これらの仕組みを反映し、モデルの中では、各年齢階層の本来水準指数候補（マクロ経済スライドあり、なし）をそれぞれ計算し、物価スライド特例水準指数との大小を比較した上で、本来水準指数の水準及び実際の改定基準の計算に用いられる指数の水準（適用指数水準）を決定する。各年齢階層の改定基準は、適用指数水準の対前年度比率によって計算する。これによって、「たまり」（物価スライド特例水準指数と本来水準指数との差）が解消されていなければ、物価スライド特例水準指数の変化率が老齢厚生年金の給付水準の改定基準となり、「たまり」が解消されれば、マクロスライド調整が適用された本来水準の改定基準が実際の改定基準となる²⁶。

3-4. 厚生年金の給付総額

本モデルでは、「厚生年金」の給付総額として、年金財政検証の「厚生年金の財政見直し」で示される「給付費」の金額を考える。この金額は、厚生年金基金が代行している部分を含めた厚生年金制度全体の支給額のうち、みなし基礎年金（旧法に基づく老齢・障害・遺族給付額のうち、基礎年金に相当する給付額で、昭和36年度以降の被保険者期間に対応するものであり、基礎年金勘定から受け取る基礎年金交付金を財源として、厚生年金勘定から支出される）を含まないものである。

なお、厚生年金については、給付総額を示す各種の統計が存在しており、それらの概念と対象範囲を整理し、2007年度の金額を示したものが図11である。基礎年金と同様に、各年齢階層の受給権者比率及び一人当たり平均給付水準を用いて推計を行うため、モデルで

²⁵ 平成十六年度、平成十七年度、平成十九年度及び平成二十年度の国民年金制度及び厚生年金保険制度並びに国家公務員共済組合制度の改正に伴う厚生労働省関係法令に関する経過措置に関する政令（平成16年9月29日政令第298号）第11条の規定による。この指数は、2000年改正後の1999年度に本来水準を「1」として計算されるもので、政令の規定では、従前額保証水準を表す指数（物価スライド特例水準指数）は、2006年度の0.9999から物価下落の場合にのみその下落を反映することとされ、本来の給付水準を表す指数（本来水準指数）は、2004年度の0.990から、新規裁定者、既裁定者それぞれの再評価率の改定基準を（マクロ経済スライドなしで）適用して改定することとされている。

²⁶ 「たまり」が解消された年度において、マクロスライドを完全適用した結果、本来水準指数が物価スライド特例水準指数を下回ることになる場合には、そうならないようにマクロスライドを部分的に適用するとの規定が設けられている点は、老齢基礎年金と同様であり、モデルでもそれを踏まえた仕組みとしている。

は、年金財政検証の基礎数データを用いて、受給者ベースでの給付総額の推計を行った上で、給付費の概念に合わせた調整を行うこととする。基礎数データに基づく 2007 年度の受給者ベースでの給付費の内訳は、図 12 の通りであり、受給者比率や一人当たりの平均給付額の相違を踏まえ、モデルでは、老齢厚生年金について、①65 歳以上の老齢相当給付（定額部分を除く）、②65 歳以上の通算老齢相当給付（定額部分を除く）、③60～64 歳の特別支給（老齢相当）、④60～64 歳の特別支給（通算老齢相当）、⑤旧法定額部分に分けて推計を行い、それらの合計値を用いて、⑥障害年金＋遺族年金の金額を推計する。

① 老齢相当給付

老齢相当給付は、基本的に、老齢厚生年金の加入期間が 25 年以上ある受給権者が受け取る厚生年金の給付を指す。長期間のフルタイム勤務経験者が受給権者となるため、男女別で受給権者の人口比率は大きく異なり、年金財政検証の基礎数データから得られる 2007 年度の男女別・年齢階層別の受給権者比率、各年齢階層の受給権者一人当たり平均給付額²⁷（全額支給停止額を含まない）は図 13 の通りである。モデルにおける将来の各年齢階層の受給権者比率及び受給権者一人当たり平均給付額は、老齢基礎年金と同様に、67 歳以下は一定、68 歳以上は前年度の 1 歳下の値と等しくなるように定式化している。また、平均給付額については、物価特例水準を踏まえた改定基準を用いて改定する。

これらを用いて、男女別の各年齢階層の人口に、受給権者比率を乗じ、受給権者一人当たりの平均給付額をそれぞれの改定基準でスライドさせた金額との積をとることによって、各年齢階層の給付総額を計算し、その和によって全体の給付総額を計算する。

② 通算老齢相当給付

通算老齢相当給付は、老齢厚生年金の加入期間は 25 年を下回るが、他の年金制度に加入期間があるために年金の受給権を有している者が受け取る厚生年金の給付を指す（老齢基礎年金の受給権を有していれば、厚生年金の被保険者期間が 1 年以上あれば、老齢厚生年金を受け取ることができる）。老齢年金の給付水準は、受給権者の累積標準報酬額（現役時代の給与水準と厚生年金の加入期間を反映）に連動するため、通老相当給付は、老齢相当の給付よりも一人当たり平均受給額が低くなる。2007 年度の男女別・年齢階層別の受給権者比率、受給権者一人当たり平均給付額は図 14 の通りであり、女性の受給権者比率が高く、また、一人当たり平均給付額が老齢相当給付よりもかなり低いことが分かる。

給付総額の計算方法は、老齢相当給付と同様である。

²⁷ 年金財政検証の基礎数データの各年齢階層の年金給付額について、在職年金の給付額に各年齢階層の「在老給付率」の数値を乗じることによって、全額支給停止分を除いた上で、「報酬比例部分」「加給年金」「経過的加算」の和をとり、受給権者数で割って算出している。通算老齢、特別支給についても同様である。

③ 特別支給（老齢相当）

老齢厚生年金は、本則では 65 歳以上に支給することとされているが、60 歳から支給開始年齢を段階的に引き上げる措置がとられているため、当分の間、60～64 歳の間についても老齢厚生年金の支給が行われることとなっており、「特別支給」と呼ばれている。これは、「定額部分」と「報酬比例部分」から構成され、生年に応じて、図 15 で示されている期間に支給される。支給開始年齢は、定額部分から徐々に引き上げられることとされており、その後に報酬比例部分の支給開始年齢が引き上げられ、男性については 2025 年度以降、女性については 2030 年度以降、65 歳未満には老齢年金が支給されないこととなる。

老齢相当給付の受給権者について、年金財政検証の基礎数データから、2007 年度時点での各年齢階層の受給権者比率及び受給権者一人当たり平均給付額を示したものが図 16 である。60～62 歳の男性と、60 歳の女性の一人当たり平均給付額が小さいのは、すでに定額部分の支給が行われていないためである。

将来期間については、各年齢階層の受給権者比率及び一人当たり平均給付額（定額部分及び報酬比例部分）を一定（新規裁定者の改定基準でスライド）とした上で、支給開始年齢の引き上げを反映したダミー変数を設定し、給付総額の推計を行う。

④ 特別支給（通算老齢相当）

通算老齢相当の 60～64 歳について、各年齢階層の受給権者比率及び一人当たり平均給付額を示したものが図 17 である。これについても、老齢相当の特別支給と同様の手法によって将来推計を行う。

⑤ 旧法定額部分（みなし基礎年金を除く）

新法老齢厚生年金の受給権者は、新法老齢基礎年金を別途受給する（基礎年金勘定から支出される）が、新法に移行する時点ですでに受給権者であった者は、老齢基礎年金相当額を含んだ旧法老齢厚生年金を受給する（厚生年金勘定から支出される）。このうち、老齢基礎年金に相当する定額部分は、「みなし基礎年金」と呼ばれ、モデルの中では、前述の基礎年金の箇所推計が行われる（年金財政検証における厚生年金の給付費には含まれない）。

但し、旧法給付の定額部分のうち、昭和 36 年 4 月 1 日以前の被保険者期間に対応する部分については、みなし基礎年金には含まれず、年金財政検証の厚生年金の給付費に含まれるため、モデルの中で別途推計を行う必要がある。モデルでは、年金財政検証の結果から作成したスライド調整前の毎年度の給付額を外生変数として取扱い、既裁定者の改定基準を用いてスライドさせる。すでに高齢の受給権者のみが対象であるため、時間の経過とともに給付額も縮減していく。

⑥ 障害厚生年金・遺族厚生年金

モデルの中では、①～⑤の和として得られた老齢厚生年金の金額に対して、一定の比率

(2007年度時点の比率)を乗じることによって、障害厚生年金と遺族厚生年金の合計額(みなし基礎年金を除く)を推計する。

①～⑥の合計値が、年度末の受給者ベースの給付総額であり、そこから一部支給停止額等を除くために一定の比率(2007年度実績値との比率)を乗じる。モデルを用いて、年金財政検証と同一の前提に基づいて厚生年金の給付費を推計すると、2007年度については、実績値をほぼ正確に再現しているが、その後、時間の経過とともに下方への乖離が生じる。これは、老齢厚生年金について、経済に占める雇用者比率の上昇に伴い、長期的に被保険者の加入割合が上昇する傾向にあり、将来的に、女性を中心として加入期間の増加が見込まれるが、本モデルの計算方法ではその影響が織り込まれていないためと考えられる。年金財政検証の将来の受給者数の見通しと比較しても、老齢相当給付の受給者数が過少、通算老齢相当給付の受給者数が過大に推計されているため、将来シミュレーションに当たっては、年金財政検証の将来推計と整合的となるように、将来の受給権者割合について、一定の補正を行うこととしている(補正後のシミュレーション結果は図18の通り)。

3-5. 共済年金の給付総額

共済年金については、国家公務員共済組合、地方公務員共済組合、私学職員共済組合の三つの制度の合計値について、厚生年金と同様の手法に基づき、年金財政検証の基礎数データから得られる各年齢階層の受給権者比率と、受給権者一人当たり平均給付額を用いて、マクロの給付総額を推計する。将来推計の結果は、厚生年金と同様、時間の経過とともに下方に乖離が生じており、将来の受給権者比率について一定の補正を行うこととしている。

第4節 保険料サブブロック

このサブブロックでは、公的年金の各制度の被保険者数を計算した上で、保険料単価を乗じて、各制度の保険料収入及びマクロ的な保険料総額を計算する。

4-1. 国民年金の被保険者数

公的年金被保険者は、全て国民年金の被保険者であり、第1号、第2号、第3号のいずれかの被保険者に該当する。第2号被保険者は、被用者保険への加入者であり、第3号被保険者は、被用者保険に加入している個人の被扶養配偶者であり、それらのいずれにも該当しない者が第1号被保険者である。

公的年金全体の被保険者数の計算は、以下の式に基づいて行う。

$$\text{公的年金被保険者数} = \text{現役世代人口} \times \text{被保険者数対人口比率}$$

現役世代は 20 歳以上 59 歳以下であり、被保険者対人口比率は、年金財政検証における将来の各制度の被保険者数と人口の比率を用いる（したがって、人口の前提が同一であれば、モデルの被保険者数は年金財政検証の数値（図 19）と完全に一致する）。

① 第 1 号被保険者

国民年金第 1 号被保険者数は、公的年金の被保険者総数から、第 2 号・第 3 号被保険者数を除いて計算する。その上で、その内訳を構成する任意加入被保険者数、1/4 免除・1/2 免除・3/4 免除・全額免除被保険者数、全額納付被保険者数、未納・未加入者数、基礎年金拠出金算定対象外の被保険者数をそれぞれ計算する。

このうち、任意加入被保険者以外の者に対する 1/4 免除・1/2 免除・3/4 免除・全額免除被保険者の比率については、年金財政検証の基礎率を用いることとし、全額納付被保険者比率と未納・未加入者比率については、基礎率の数値がないため、年金財政検証における将来期間の被保険者数及び第 1 号拠出金算定対象者数推計結果を利用して、新たにデータ系列を作成している。具体的には、年度ごとに、全額納付被保険者数と未納・未加入者数を以下のように計算する。

$$\text{全額納付被保険者数} = \text{第 1 号拠出金算定対象者数} - \text{一部免除被保険者数}$$

$$\begin{aligned} \text{未納・未加入者数} &= \text{第 1 号被保険者数} \\ &\quad - \text{第 1 号拠出金算定対象者数} \\ &\quad - \text{全額免除被保険者数} \end{aligned}$$

この数を各年度の第 1 号被保険者数で除して、それぞれの比率のデータ系列を作成する。また、モデルの中で、拠出金算定対象外の被保険者数は、以下の式で計算する。

$$\begin{aligned} \text{拠出金算定対象外被保険者数} &= \text{全額免除被保険者数} \\ &\quad + \text{未納・未加入者数} \end{aligned}$$

② 第 2 号被保険者数

第 2 号被保険者の総数は、男女別、3 つの年齢階層（20 歳未満、20 歳以上 59 歳以下、60 歳以上）別の被保険者数の合計として計算する。男女別・年齢階層別の被保険者数は、それぞれの人口に対する第 2 号被保険者数比率を用いて計算する。第 2 号被保険者比率は、年金財政検証の被保険者数推計結果から、年度ごとの性別・コーホート別被保険者数を計算し、将来人口推計の性別・年齢階層別人口で除して作成する。

③ 第3号被保険者数

第3号被保険者は、被用者年金加入者の20歳以上60歳未満の被扶養配偶者であるため、男女別に、20～59歳人口に対して、第3号被保険者比率を乗じて計算する。男女別の第3号被保険者比率は、第2号被保険者比率と同様に、年金財政検証の被保険者数推計結果から得られる第3号被保険者数を将来人口推計の対象人口で除してデータ系列を作成する。

4-2. 国民年金保険料

国民年金の保険料は、第1号被保険者が支払う保険料であり、被保険者数と保険料単価の積と、付加保険料収入の合計によって計算される。

被保険者数については、全額免除被保険者数を除いた上で、一部免除被保険者に対しては、免除率を差し引いた保険料単価を用いる。付加保険料納付者数の計算に用いる付加保険料納付者比率は、事業年報のデータに基づき、付加保険料納付者数を、第1号被保険者数から一部免除被保険者数を差し引いた被保険者数で除した値を求めた上で、将来にわたって一定と仮定する。

保険料単価及び付加保険料単価は、保険料基準値に、保険料改定率を乗じて計算する。保険料基準値は、国民年金法第87条で規定される各年度の値（2017年度に月額16,900円となるまで各年度増加）を使用する。付加保険料基準値は、国民年金法第87条の2に示されている値（月額400円）を使用する。いずれも、2004年の価格水準で表示されたものであるため、実際の保険料は、これに保険料改定率を乗じる必要がある。保険料改定率は、国民年金法第87条に基づき、以下のように計算する。

$$\begin{aligned} \text{保険料改定率} &= 1 \text{年前の保険料改定率} \times \frac{2 \text{ 暦年前の消費者物価指数}}{3 \text{ 暦年前の消費者物価指数}} \\ &\quad \times \left(\frac{3 \text{ 年度前の標準報酬額等平均} / 3 \text{ 年度前の消費者物価指数}}{6 \text{ 年度前の標準報酬額等平均} / 6 \text{ 年度前の消費者物価指数}} \right)^{\frac{1}{3}} \end{aligned}$$

4-3. 厚生年金被保険者数

国民年金の第2号・第3号の被保険者数を用いて、男女別・年齢階層別（20歳未満、20～59歳、60歳以上）の厚生年金被保険者数、第3号被保険者数のうちの厚生年金被保険者の扶養配偶者数を算出する。具体的には、男女別・年齢階層別の国民年金第2号、第3号の被保険者数それぞれに対して、厚生年金の被保険者比率、扶養配偶者比率を乗じて計算する。厚生年金被保険者比率及び扶養配偶者比率は、年金財政検証の被保険者数推計結果をもとに、各年度の男女別・年齢階層別の厚生年金被保険者数・国民年金第3号被保険者のうち厚生年金被保険者の扶養配偶者数を、国民年金第2号被保険者数・第3号被保険者

数で除してデータ系列を作成する。

4-4. 厚生年金保険料

厚生年金の保険料収入の計算に用いられる毎年度の保険料率は、以下の式を用いて計算する。

$$\text{保険料率} = \frac{5 \times 1 \text{年前の規定保険料率} + 7 \times \text{規定保険料率}}{12}$$

規定保険料率は、厚生年金保険法第 81 条（2017 年 9 月以降 18.3%の水準にまで上昇する旨を規定）で定められた保険料率であり、保険料率が上昇する場合には、各年度 9 月以降に適用される。したがって、実際の毎年度の保険料収入計算のためには、各年度の厚生年金の保険料率は 4 月から 8 月まで適用される前年度の規定保険料率と、9 月から 3 月まで適用される当年度の規定保険料率の加重平均値を使用する。

保険料収入は、保険料率、厚生年金被保険者の平均賃金、厚生年金被保険者数の積によって計算する。その上で、シミュレーション結果が年金財政検証の厚生年金保険料収入の将来推計と一致するように、乖離を調整する。

4-5. 共済年金被保険者数及び掛金

共済年金の被保険者数と、国民年金第 3 号被保険者数のうちの共済年金被保険者の扶養配偶者数は、国民年金の第 2 号・第 3 号の被保険者数から、厚生年金被保険者数、第 3 号被保険者のうちの厚生年金被保険者の扶養配偶者数をそれぞれ差し引いて計算する。共済年金の掛金率は、厚生年金と同様に、以下の式を用いて計算する。

$$\text{掛金率} = \frac{5 \times 1 \text{年前} \cdot \text{規定掛金率} + 7 \times \text{規定掛金率}}{12}$$

掛金収入は、掛金率と、共済年金被保険者の平均賃金、共済年金被保険者数の積によって計算する。その上で、シミュレーション結果が年金財政検証の共済年金保険料収入の将来推計と一致するように、乖離を調整する。

第 5 節 財政サブブロック

財政サブブロックでは、公的年金各制度の給付及び保険料収入を踏まえ、年金財政検証

ベースでの財政状況（財政収支と積立金残高の変動、国庫負担額の見通し）を計算する。また、経済・財政の一般均衡シミュレーションに用いられるマクロ的な公的年金給付総額・保険料総額（国民経済計算（SNA）ベース）の値を計算する。

なお、年金財政検証の支出・収入に計上される給付・保険料は、公的年金制度に関する実際の会計上の収支（国の年金特別会計及び共済組合）や、SNA の支出・収入と一対一で対応するものではない。図 20 は、2008 年度のデータに基づき、公的年金制度の会計上の収支及び SNA ベースの金額を示したものであり、それぞれについて乖離の調整が必要となる。

5-1. 基礎年金財政

年金財政検証で示されている「基礎年金の財政見通し」は、図 21 の通りである。基礎年金給付費は、新法基礎年金の給付費（基礎年金勘定から支出される金額）と、旧法受給者のみなし基礎年金（各制度に対して基礎年金交付金として支出される金額）を含むものである。このうち、特別国庫負担による負担分を除いた金額が、「拠出金算定対象額」であり、各公的年金制度からの基礎年金拠出金を受け入れることによって、基礎年金財政の収支が均衡する仕組みとなっている。

モデルでは、給付サブブロックで計算された基礎年金給付費から、拠出金算定対象額を計算する。拠出金算定対象額の基礎年金給付費に対する比率は、年金財政検証のシミュレーション結果における各年度の給付額と算定対象額の比率を外生で与える。

5-2. 国民年金財政

年金財政検証で示されている国民年金の財政見通しは図 22 の通りである。支出のうち、「給付費」は国民年金の受給権者に対する基礎年金以外の独自給付（付加年金・寡婦年金等）であるが、その金額は僅少で、支出の大部分は基礎年金拠出金である。実際の国民年金勘定では、旧法受給者に対する基礎年金相当給付費（みなし基礎年金）の支出も行われているが、それに見合っ同額の収入（基礎年金勘定からの基礎年金交付金）が措置されるため、財政見通しには支出・収入両方に含まれないこととされている。

収入は、保険料収入と国庫負担、運用収入とその他収入である。保険料収入は、保険料サブブロックで計算されたものを利用する。その他収入は、年金財政検証で示されている将来の推計値をそのまま利用する。

国庫負担は、国民年金法第 85 条の第 1 項に定められた基礎年金の拠出金算定対象額の 2 分の 1 相当額に、第 2 項及び第 3 項で規定される「特別国庫負担」を加えて計算する。特別国庫負担は、保険料免除期間を有する者に係る老齢基礎年金の給付に要する費用、20 歳前障害に係る障害基礎年金の給付に要する費用の 40%分等である。

運用収入は以下のように計算される。

$$\begin{aligned} \text{運用収入} &= \text{前年度積立金残高} \times \text{運用利回り} \\ &+ (\text{保険料収入} + \text{国庫負担額} - \text{支出合計}) \times \left((1 + \text{運用利回り})^{\frac{1}{2}} - 1 \right) \end{aligned}$$

支出は、基礎年金拠出金と独自給付、その他支出である。その他支出は、年金財政検証で示されている将来の推計値をそのまま利用する。基礎年金拠出金は、基礎年金財政で計算される基礎年金拠出金算定対象額に、国民年金の負担率を乗じた額に、特別国庫負担を加えて計算する。国民年金の負担率は以下のように計算する。

$$\text{国民年金負担率} = \frac{\text{第1号被保険者数} - \text{拠出金算定対象外被保険者数}}{\text{20歳以上59歳以下} \cdot \text{公的年金被保険者数}}$$

独自給付は、将来の基礎年金給付費に対する比率を年金財政検証から計算し、外生変数として与えて計算する。

収入と支出の差額によって財政収支が計算され、積立金の増減が計算される。図 23 及び図 24 は、それぞれ国民年金の財政収支と積立金について、モデルのシミュレーション結果と年金財政検証の結果との比較を行ったものである。積立金については、本モデルのシミュレーションの結果として得られる 2009 年度の値と、年金財政検証における 2009 年度の値との間に乖離が生じるため、その乖離を埋めるための調整を行う。

5-3. 福祉年金

福祉年金は、1961 年度の国民年金発足時点で、既に高齢であったために、年金を受け取ることができない世代への救済措置として国民年金制度の発足と同時に創設され、その費用は全額国庫負担とされ、年金特別会計の福祉年金勘定から支出される。2007 年度時点で、受給権者数は 2.5 万人程度、給付費は 84 億円と少ない。給付額、給付単価、受給権者数を、以下の式から計算する。

$$\begin{aligned} \text{福祉年金} \cdot \text{給付額} &= \text{給付単価} \times \text{受給権者数} \\ \text{福祉年金} \cdot \text{給付単価} &= 1 \text{ 年前の給付単価} \times \text{既裁定者の改定基準} \\ \text{福祉年金} \cdot \text{受給権者数} &= 1 \text{ 年前の受給権者数} \times \text{生存率} \end{aligned}$$

足下の給付単価及び受給権者数は事業年報のデータを利用し、生存率については、2006 年と 2007 年の受給権者数の比率を将来に向けて一定と仮定する。

5-4. 厚生年金財政

年金財政検証で示されている厚生年金の財政見通しは図 25 の通りである。支出は、給付費、基礎年金拠出金、その他支出で、収入は保険料収入、国庫負担、運用収入、その他収入である。実際の厚生年金勘定では、旧法受給者に対する基礎年金相当給付費（みなし基礎年金）の支出も行われているが、それに見合った同額の収入（基礎年金勘定からの基礎年金交付金）が措置されるため、財政見通しには支出・収入両方に含まれない。一方、厚生年金勘定の支出・収入には含まれない厚生年金基金による代行部分に係る支出・収入（免除保険料）等が含まれている。

収入のうち、保険料収入は、保険料サブブロックで計算された値を用い、その他収入は年金財政検証の値をそのまま外生的に与える。国庫負担は、基礎年金の拠出金算定対象額の2分の1相当額に、旧法厚生年金の一部に対する負担額（昭和36年4月1日以前の被保険者期間に係る給付費の20%等）を加えたものとして計算する。運用収入は国民年金と同様の方法で算出する。

支出は、給付費と基礎年金拠出金、その他支出である。その他支出は、年金財政検証で示されている将来の推計値をそのまま利用する。給付費は、給付サブブロックで計算された年金財政検証ベースの給付費（みなし基礎年金を含まない）を用いる。基礎年金拠出金は、基礎年金財政で計算される基礎年金拠出金算定対象額に、厚生年金の負担率を乗じて計算する。

$$\text{厚生年金負担率} = \frac{\text{20歳以上59歳以下} \cdot \text{厚生年金被保険者数} + \text{厚生年金被保険者の扶養配偶者数}}{\text{20歳以上59歳以下} \cdot \text{公的年金被保険者数}}$$

収入と支出の差額によって財政収支が計算され、積立金の増減が計算される。図 26 及び図 27 は、それぞれ厚生年金の財政収支と積立金について、モデルのシミュレーション結果と年金財政検証の結果との比較を行ったものである。国民年金と同様に、厚生年金の積立金についても、年金財政検証における2009年度時点での値との乖離が小さくなるよう調整を行う。

5-5. 共済年金財政

共済年金については、国家公務員共済組合（国共済）、地方公務員共済組合（地共済）、私立学校教職員共済制度（私学共済）それぞれについて財政検証が実施されている。このうち、国共済と地共済については財政単位の一元化が図られている。国共済・地共済及び私学共済の年金財政検証は、図 28 で示されている。

支出は、給付費、基礎年金拠出金、その他支出から構成され、収入は掛金収入、国庫・公経済負担、追加費用（国共済・地共済）、運用収入、基礎年金交付金、その他収入から構成される。共済年金の財政検証においては、給付費に旧法受給者に対する基礎年金相当給付費（みなし基礎年金）が含まれている。追加費用とは、国共済（昭和34年）、地共済（昭和37年）の制度発足以前の恩給公務員期間等に係る給付費について、当時の事業主としての国・地方公共団体が負担する費用（「整理資源」とも呼ばれる）である。

収入のうち、保険料収入は、保険料サブブロックで計算された値を用い、その他収入は2007年度の値を将来にわたって一定として外生的に与える。国庫・公経済負担は、基礎年金の拠出金算定対象額の2分の1相当額として、国・地方公共団体のそれぞれの負担額を計算する。運用収入は、国民年金と同様の方法で計算する。追加費用については、2008年度の実績値を、ほとんど対象者がいなくなる2060年度にかけて線形で減少させた値を外生で与える。

支出のうち、その他支出は、2007年度の値を将来にわたって一定として外生的に与える。給付費は、給付サブブロックで計算された年金財政検証ベースの給付費に、みなし基礎年金を加えた金額を用いる。基礎年金拠出金は、国共済・地共済について、基礎年金財政で計算される基礎年金拠出金算定対象額に、国民年金・厚生年金と同様に計算される負担率を乗じて計算し、私学共済については、拠出金算定対象額の総額から国民年金・厚生年金・国共済・地共済の基礎年金拠出金を差し引いて計算する。収入と支出の差額によって財政収支が計算され、積立金の増減が計算される。

5-6. SNA ベースの公的年金給付等

SNA ベースの一般政府の支出規模を考える際には、社会保障基金の現金による社会保障給付の規模が重要となる。SNA ベースの現金による社会保障給付は、本モデルで計算する各公的年金制度の給付費のうち、厚生年金基金による代行部分を含まず、農業者年金基金等による給付費を含むことから、モデル内で、これに該当する給付額を別途作成する。

第6節 モデル及びシミュレーション実施上の課題

6-1. モデルの課題

年金財政検証では、将来の受給権者数及び加入期間について、被保険者数と関連づけて計算する仕組みとされているが、本モデルでは全体をコンパクトにするため、両者の関連性はモデル内では捨象している。国民年金の納付率の変化や、産業構造及び雇用形態の変化に伴う各年金制度の加入率の変化が将来の受給権者数や加入期間に影響を与える可能性

を検証するためには、加入期間と給付のリンクを織り込むことが必要となる²⁸。

その上で、社会保険制度の被保険者数について、「年金」の被保険者数の見通しと、「医療」「介護」「生活保護」の対象者について、整合性のとれた経済及び財政の見直しを行うことも、今後の重要な課題と考えられる。

また、増淵ほか（2002）及び内閣府（2009）の経済財政モデルでは、在職者と退職者の年金給付額を切り分けることにより、高齢者の労働参加率の変化による年金給付額への影響を分析することが行われている。このような分析を可能とするために、在職者と退職者を区分して取り扱うことも考えられる。

6-2. シミュレーションの課題

年金の給付額は、既裁定者について物価変動率、新規裁定者について名目手取り賃金変動率を参照して毎年度改定が行われる仕組みとなっているため、実質賃金が上昇する局面では、その上昇が既裁定者の年金給付額に反映されないことで、若年者の賃金水準に対する年金支給額の実質的な引下げが行われる仕組みとなっている。また、マクロスライド調整により、調整期間においては、物価上昇率よりも年金支給額の上昇を抑制する仕組みも設けられている。

他方、実質賃金が下落している局面では、実質賃金の下落を年金支給額に反映することには一定の制約がある。例えば、実質賃金が下落し、名目賃金が上昇している局面では、実質賃金の下落分を反映した支給額の削減が行われるが、実質賃金が下落し、名目賃金も下落している局面では、実質賃金の下落分は反映されない（物価変動率がプラスであればゼロ改定、マイナスであれば物価変動率のみを反映する）。

このような仕組みは、「年金改定率については、ゼロないし物価変動率を下限とする」という考え方（2002年12月社会保障審議会）を踏まえたものであり、その背景には、「物価下落の要素以外での年金の名目額の引下げについては、財産権に制約を加えることとなるので、憲法上許容されるか否かについての慎重な検討が必要である」（2002年7月・社会保障審議会年金部会（第6回）資料）といった考え方があるものと考えられるが、実際に若年者の賃金変動率がマイナスとなる局面において、どのような改定基準とすべきかについて、必ずしも十分な議論は行われていない。

また、改定基準の設定に当たっては、利用可能なデータの制約から、物価変動率については1年前の暦年の数値を用い、実質賃金変動率については、過去5～2年度前までの標準報酬額の一人当たり平均値の3年度の平均伸び率を用いることとされており、物価変動率と実質賃金変動率について、同一時点のものが用いられることにはなっていない。そのため、「物価上昇・実質賃金下落」という組合せが生じたケースについて、実質賃金の下落が

²⁸ 北浦ほか（2009）、畑農（2009）第5章では、被保険者割合の変化による受給者の加入期間の変化への影響を踏まえたモデル化が行われている。

適切に年金支給額への反映が行われない可能性も考えられる。実際に、過去 30 年間（1979～2008 年度）において、実質賃金上昇率がマイナスとなった年度を見ると、1980 年度、1992～1993 年度、1997 年度以降の 12 年間のうち 9 年間となっている。したがって、1997 年度以降は、実質賃金変動率がマイナスとなることが頻発している。逆に、1997 年度以降で、実質賃金上昇率がプラスとなったのは、2000 年度、2005～2006 年度の 3 年間のみである。

もちろん、長期的に実質賃金変動率の低下を想定することは現実的ではなく、年金給付額の水準が賃金に対して上昇した場合には、マクロスライドの調整期間を延長することで、将来の給付水準の引き下げが行われる仕組みとなっているが、短期的に、年金支給額の対賃金比率（所得代替率）が上昇するため、世代間の所得再分配が、年金財政検証で想定しているよりも、現時点の若年者世代に対してより厳しくなることも考えられる。デフレが継続した場合には、マクロスライド調整期間の開始時期が先延ばしになることによる影響が生じることにも留意が必要であり、5～10 年間程度の中期にわたる年金給付額の見通しについて、物価・賃金の変動による影響を様々なシナリオの下で分析することは、重要な課題と考えられる。

また、公的年金の支給総額が経済・財政に占める規模は相当に大きい一方で、現行の改定率ルールでは、経済の変動に対して、必ずしも瞬時に連動するわけではないため、実質的に年金給付水準が counter-cyclical な動きを示すことが考えられる。例えば、景気悪化時に年金支給額（及び国庫負担額）が瞬時に下方に改定されるわけではないため、名目 GDP に対する比率は上昇する。景気変動の影響を控除した構造的財政収支を考える際には、改定ルールを踏まえた一時的な収支変動について、定量的な分析を行うことも必要であり、その際には、物価・賃金の変動による年金給付への変動への影響を、制度にしたがって推計できる本モデルを活用する意義があると考えられる。

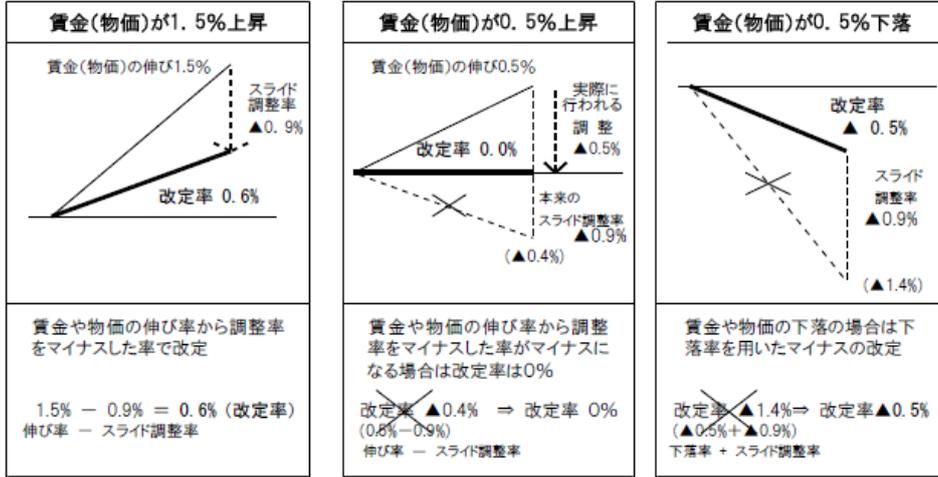
(以上)

参考文献

- 厚生労働省 (2009) 「国民年金及び厚生年金に係る財政の現況及び見通し—平成 21 年財政検証結果—」.
- 厚生労働省 (2010) 「平成 21 年財政検証結果レポート」.
- 社会保障審議会年金数理部会 (2009) 「平成 19 年度公的年金財政状況報告」.
- 社会保険庁 (2009) 「厚生年金保険・国民年金事業年報 (年金編) 平成 19 年度」
- 八田達夫・小口登良 (1999) 『年金改革論』日本経済新聞社.
- 深尾光洋, 金子能宏, 中田大悟, 蓮見亮 (2006) 「年金制度をより持続可能にするための原理・原則と課題」, *RIETI Discussion Paper Series*, 06-J-012.
- 蓮見亮, 中田大悟 (2009) 「少子高齢化、ライフサイクルと公的年金財政」, *JCER Discussion Paper*, No.123.
- 北浦修敏, 杉浦達也, 森田健作, 坂本達夫 (2009) 「社会保障モデルとシミュレーション結果」, *KIER Discussion Paper*, No.811.
- 畑農鋭矢 (2009) 『財政赤字と財政運営の経済分析：持続可能性と国民負担の視点』有斐閣.
- 山本克也, 金山峻, 大塚昇, 杉田知格 (2010) 「厚生年金保険のシミュレーション分析」, 国立社会保障・人口問題研究所(編), 『社会保障の計量モデル分析』, pp233-253.
- 増淵勝彦, 松谷萬太郎, 吉田元信, 森藤拓 (2002) 「社会保障モデルによる社会保障制度の分析」, *ESRI Discussion Paper Series*, No.9.
- 内閣府計量分析室 (2009) 「経済財政モデル (2008 年度版)」.
- 井堀利宏, 別所俊一郎 (2008) 「少子高齢化と人口減少がマクロ経済・財政に与える影響」、財務総合政策研究所, 『人口動態の変化と財政・社会保障制度のあり方に関する研究会報告書』, pp23-50.
- 上村敏之 (2004) 「少子高齢化社会における公的年金改革と期待形成の経済厚生分析」, 『国民経済』, 第 167 号, pp1-17.
- Darby, Julia and Jacques Melitz (2008) "Social spending and automatic stabilizers in the OECD," *Economic Policy*, Vol.23, Issue 56, pp715-756.

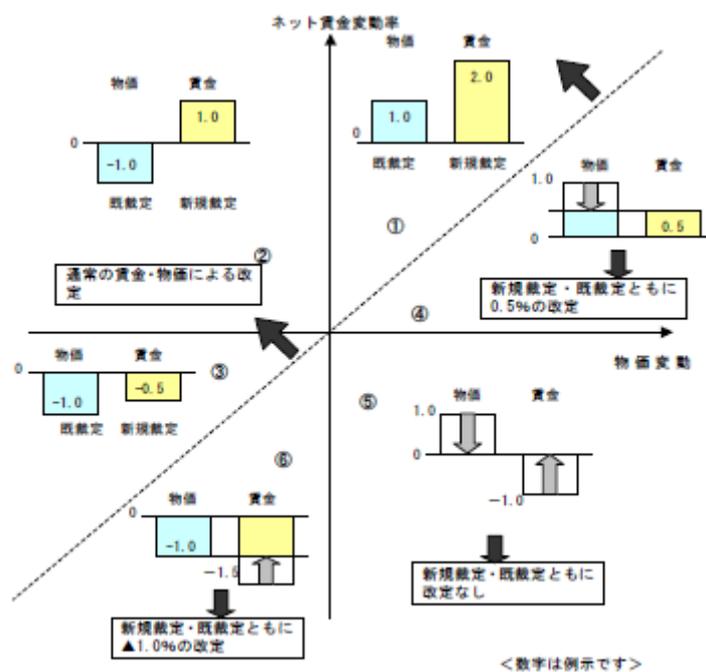
【図1】 マクロ経済スライドの調整期間内における調整率の適用について

具体的な事例



(出所) 社会保険庁「国民年金のあらまし」

【図2】賃金変動率と物価変動率の大小関係を踏まえた改定率・再評価率の改定基準決定



(1) 賃金の伸びが物価の伸びより大きい場合、通常の改定（①、②、③）

→ 新規裁定＝賃金による改定、既裁定＝物価による改定。

(2) 賃金・物価ともにプラスの伸びで、賃金の伸び<物価の伸び、の場合（④）

→ 現役の負担力の伸びを上回る年金額の引上げは不適切なので、既裁定も賃金の伸びに合わせる。

(3) 賃金のみがマイナスの場合（⑤）

→ 既裁定の年金額が新規裁定の年金額より高くなるのは不適切だが、名目額を割り込んで既裁定を新規裁定に合わせるのは不適切なので、新規裁定、既裁定ともに改定なし。

(4) 賃金・物価ともにマイナスで賃金の下落が大きい場合（⑥）

→ 既裁定の年金額が新規裁定の年金額を上回るのは不適切だが、既裁定の年金を実質価値を割り込んで名目額を引き下げるのは不適切なので、新規裁定を既裁定に合わせる。

（出所）厚生労働省「平成21年財政検証結果レポート」 P108

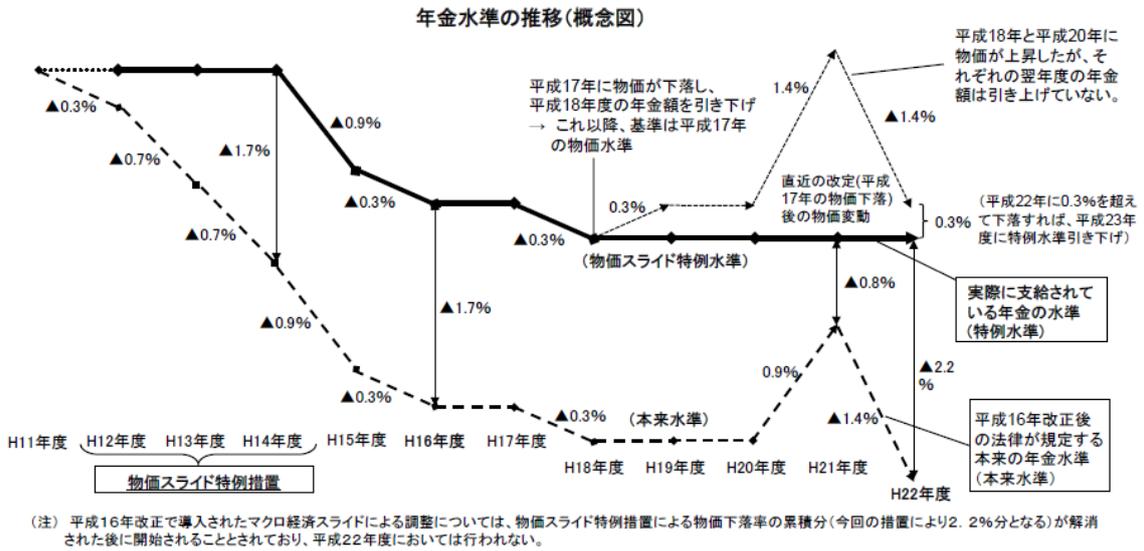
【図3】新規裁定者の改定率・再評価率の改定基準

	貸金変動率 > 1	貸金変動率 ≤ 1
物価変動率 > 1	調整済み貸金変動率	1
物価変動率 ≤ 1	貸金変動率	max {貸金変動率, 物価変動率}

【図4】既裁定者の改定率・再評価率の改定基準

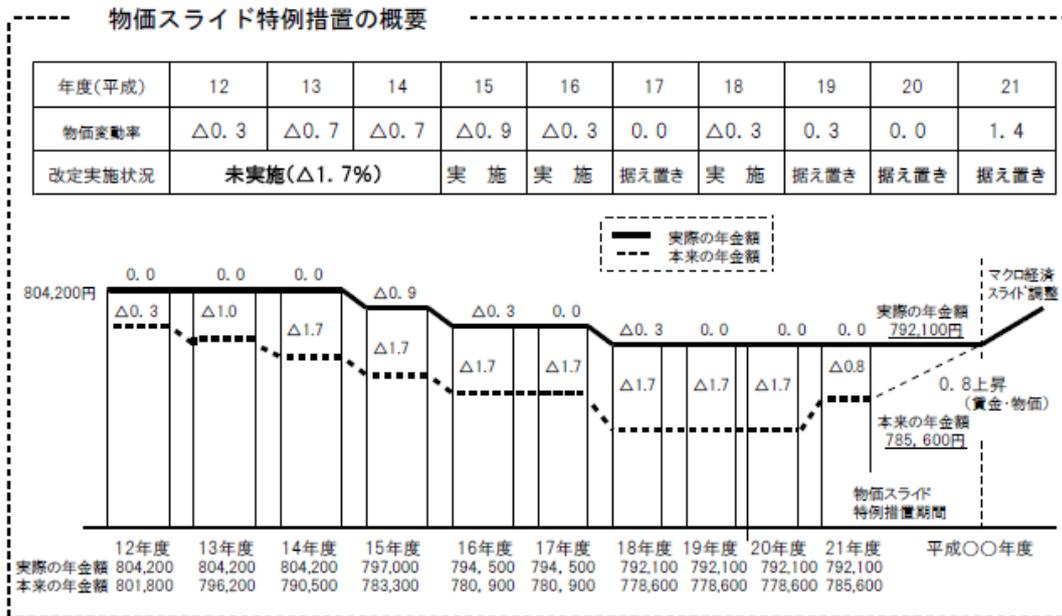
	貸金変動率 > 1	貸金変動率 ≤ 1
物価変動率 > 1	min {調整済み貸金変動率, 調整済み物価変動率}	1
物価変動率 ≤ 1	物価変動率	物価変動率

【図5】物価スライド特例措置による「特例水準」と「本来水準」



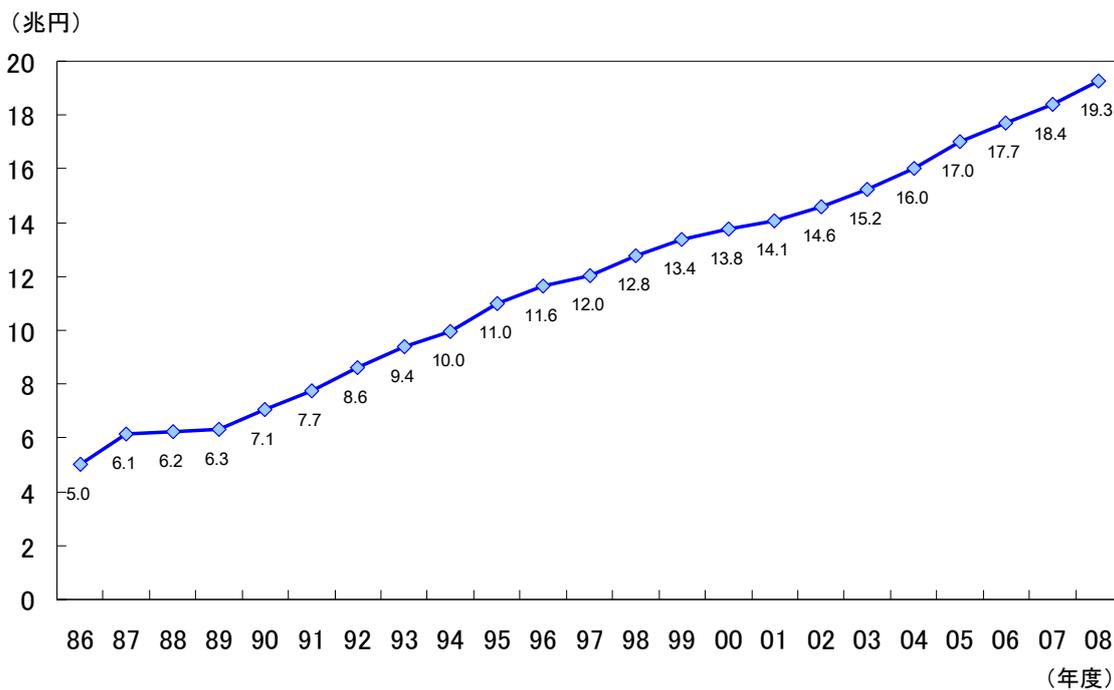
(出所) 厚生労働省ホームページ

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000003zh7-img/2r98520000003zip.pdf>)



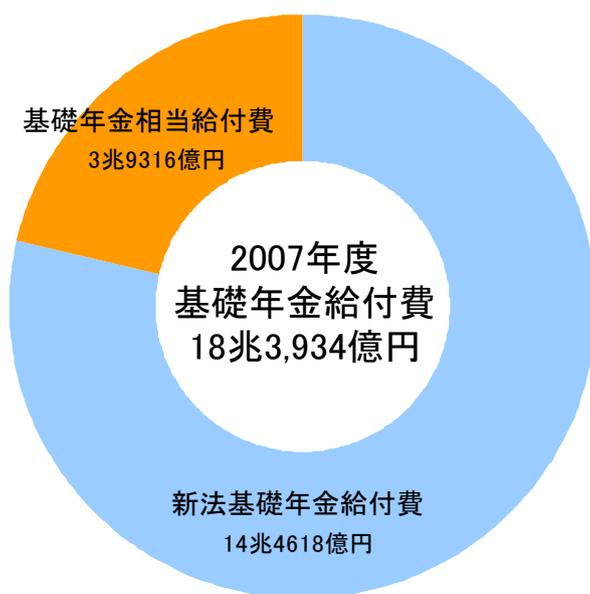
(出所) 社会保険庁「国民年金のあらまし」

【図6】基礎年金給付費の推移



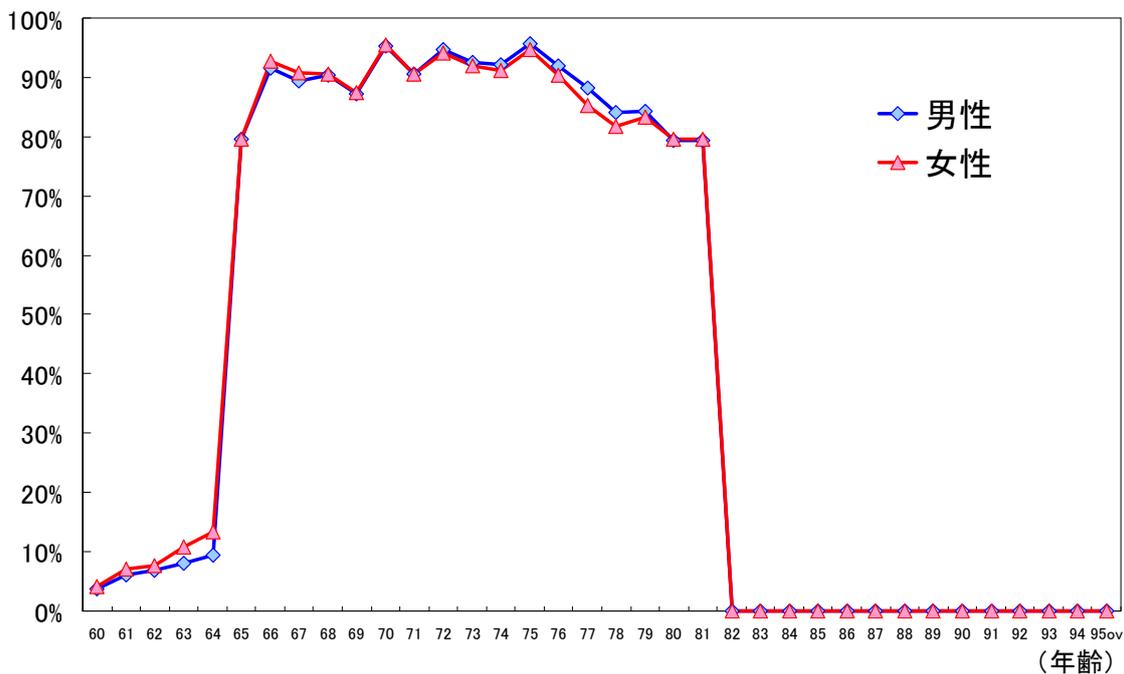
(出所) 社会保障審議会年金数理部会「平成19年度公的年金財政状況報告」
第40回社会保障審議会年金数理部会(2010年5月27日)提出資料

【図7】基礎年金給付費の内訳



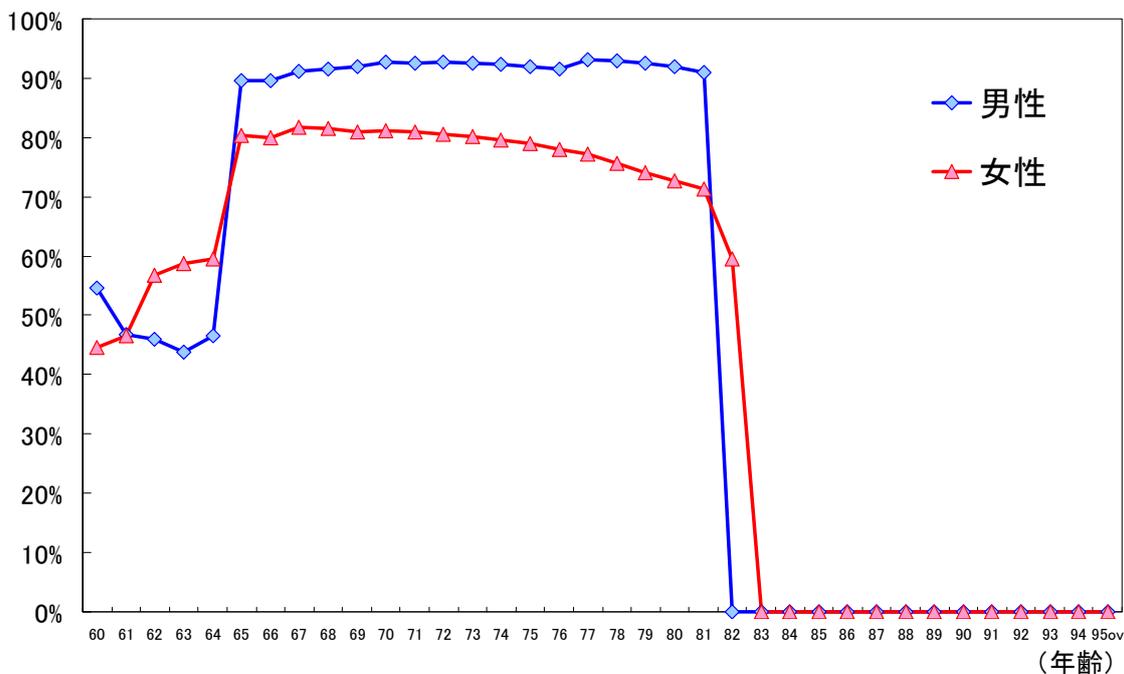
(出所) 社会保障審議会年金数理部会「平成19年度公的年金財政状況報告」

【図8】 老齢基礎年金（新法）の受給権者比率（2007年度）



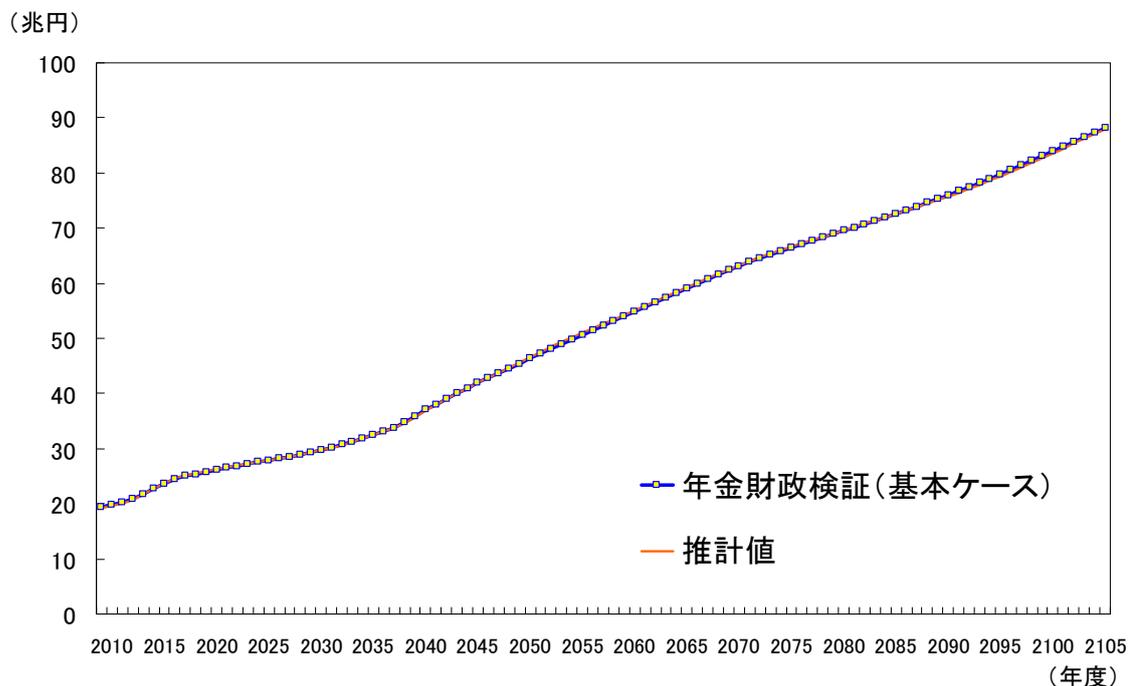
(出所) 社会保険庁「国民年金・厚生年金事業年報（平成19年度）」

【図9】 老齢基礎年金の対フルペンション比率（2007年度）



(出所) 社会保険庁「国民年金・厚生年金事業年報（平成19年度）」

【図10】基礎年金給付費のシミュレーション結果



(出所) 厚生労働省「平成21年財政検証」

【図11】厚生年金の給付総額の概念整理

		年金特別会計 厚生年金勘定給付費	年金総額 (受給権者)	年金総額 (受給者)	実績推計 ^(注1) 給付費
給付費(2007年度)		22.3兆円	25.8兆円	24.4兆円	21.4兆円
資料出所		財務省 決算データ	社会保険庁 事業年報	社会保険庁 事業年報	厚生労働省 社会保障審議会 年金数理部会
概念整理	みなし基礎年金給付費 1.6兆円(2007年度) ^(注2)	含む 〔 当年度分は概算 過年度精算分を含む〕	含む	含む	含まない
	支給停止額	全額支給停止・ 一部支給停止 ともに含まない	含む	全額支給停止 は含まない	全額支給停止・ 一部支給停止 ともに含まない
	基金代行部分 1.2兆円(2007年度)	含まない	含む	含む	含む

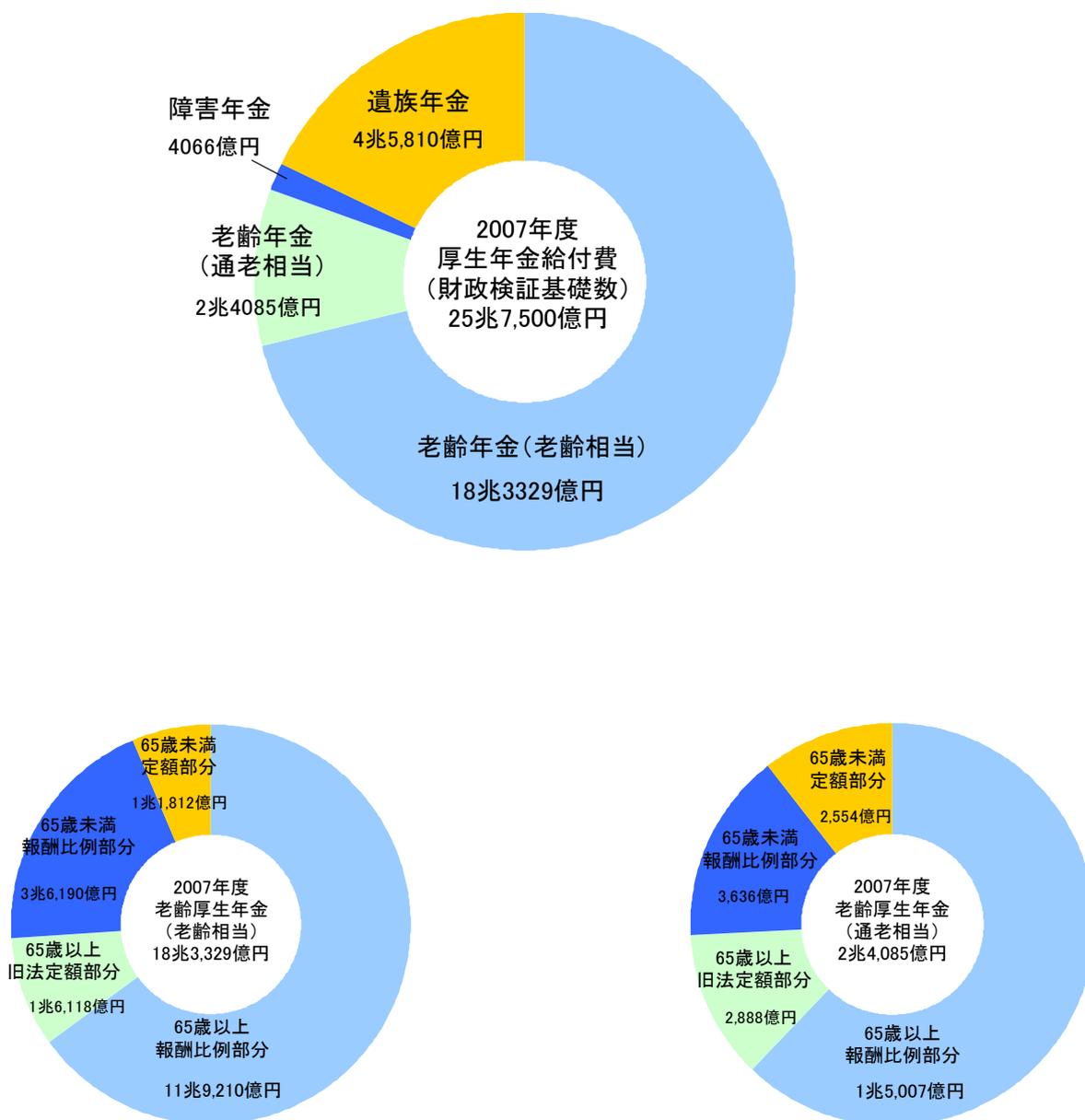
(注1) 実績推計とは、厚生年金勘定の給付費実績を加工し、年金財政検証とベースを合わせた値。(具体的には、基礎年金交付金(1.9兆円)と職域等費用負担金(0.3兆円)を控除し、厚生年金基金の代行分(1.2兆円)と政府負担金(0.1兆円)を加えた値)

(注2) みなし基礎年金給付費は、確定値ベース。なお、年金特別会計厚生年金勘定の2007年度決算では1.9兆円。

(注) 社会保険庁「国民年金・厚生年金事業年報(平成19年度)」

社会保障審議会年金数理部会「平成19年度公的年金財政状況報告」

【図12】厚生年金給付費の内訳（受給権者ベース（財政検証基礎数））

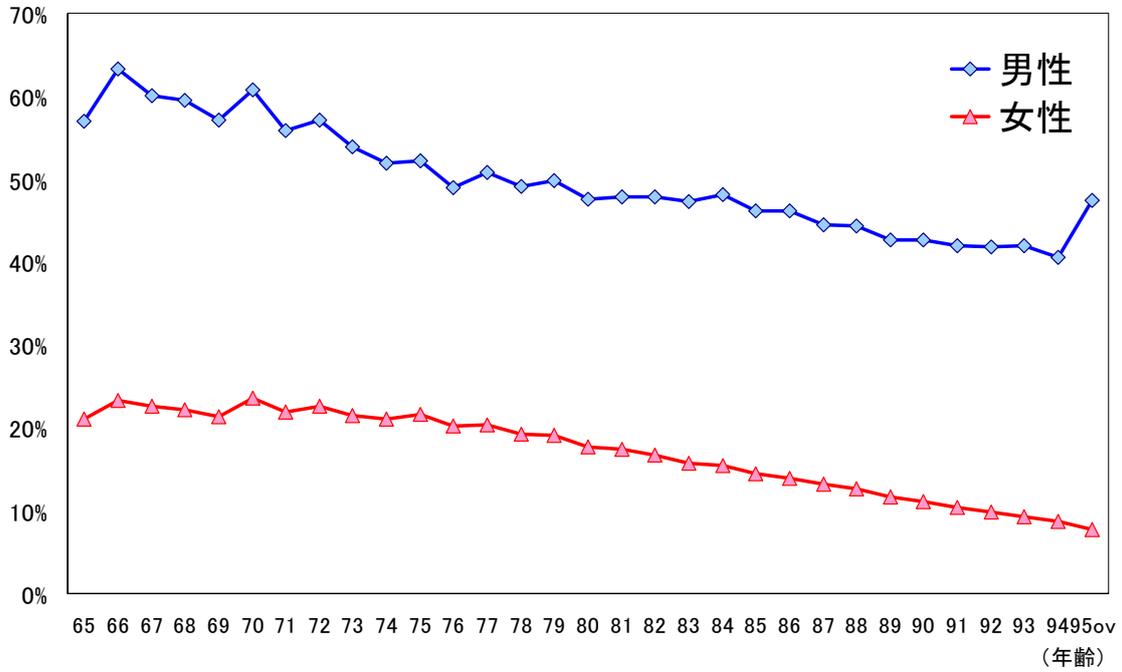


(注1) 基礎年金給付費は除く
(注2) みなし基礎年金給付費は含む

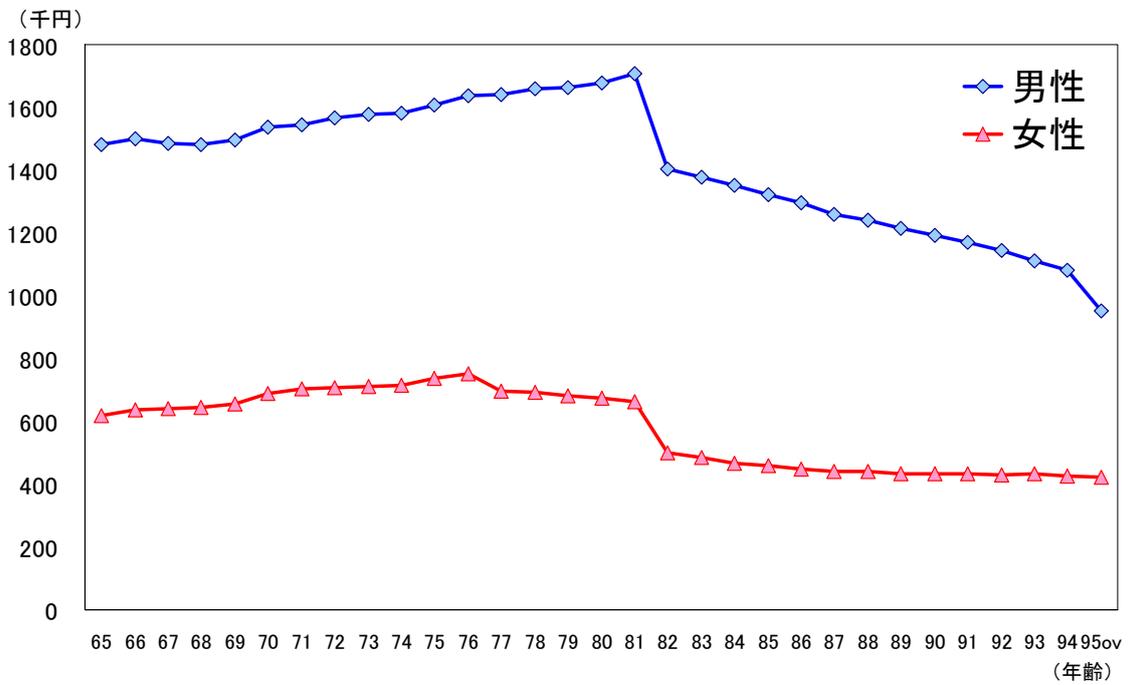
(出所) 厚生労働省
「平成21年財政検証バックデータ」

【図13】 老齢厚生年金（老齢相当）の受給権者比率・一人当たり平均給付額

①受給権者比率



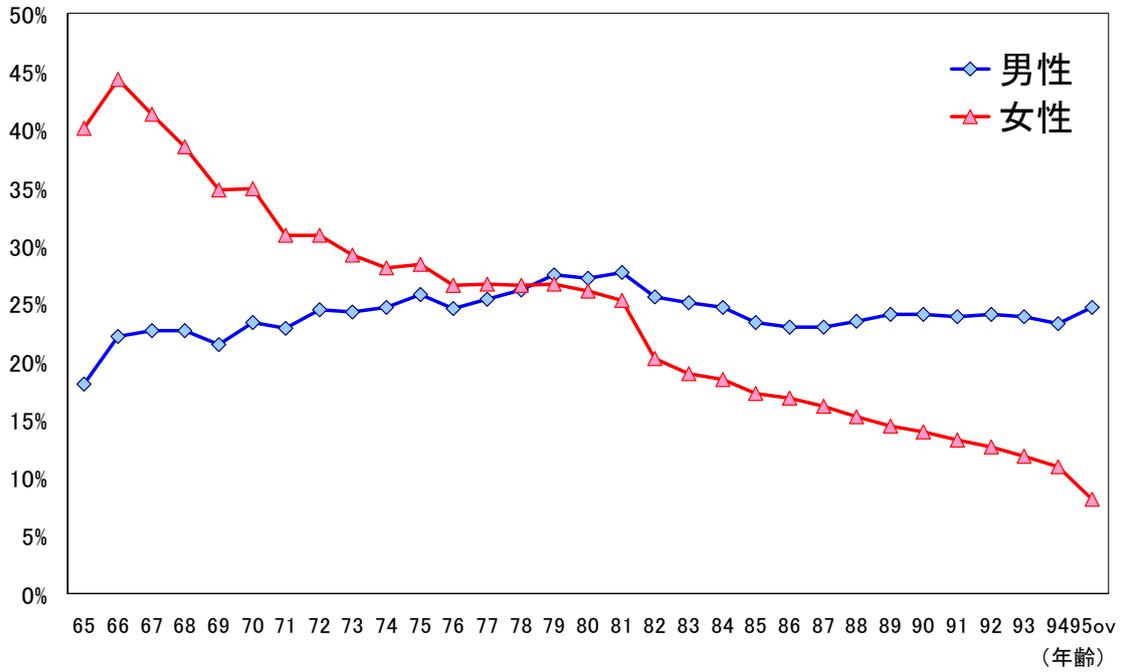
②一人当たり平均給付額



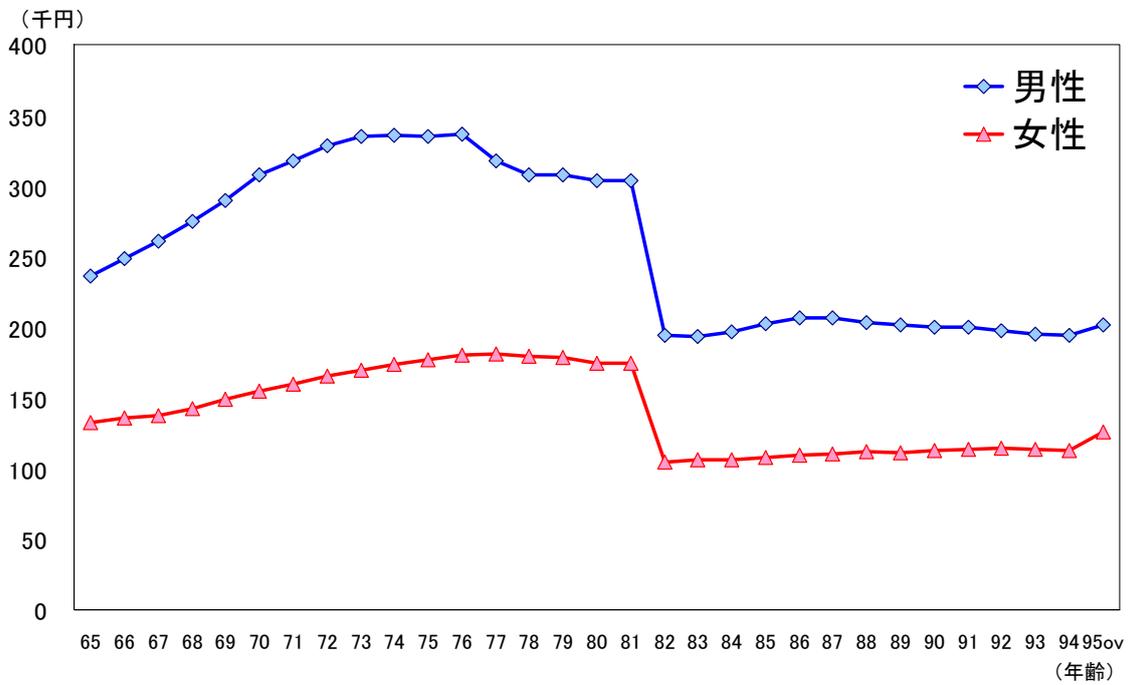
(出所) 厚生労働省「平成21年財政検証バックデータ」

【図14】 老齢厚生年金（通老相当）の受給権者比率・一人当たり平均給付額

①受給権者比率

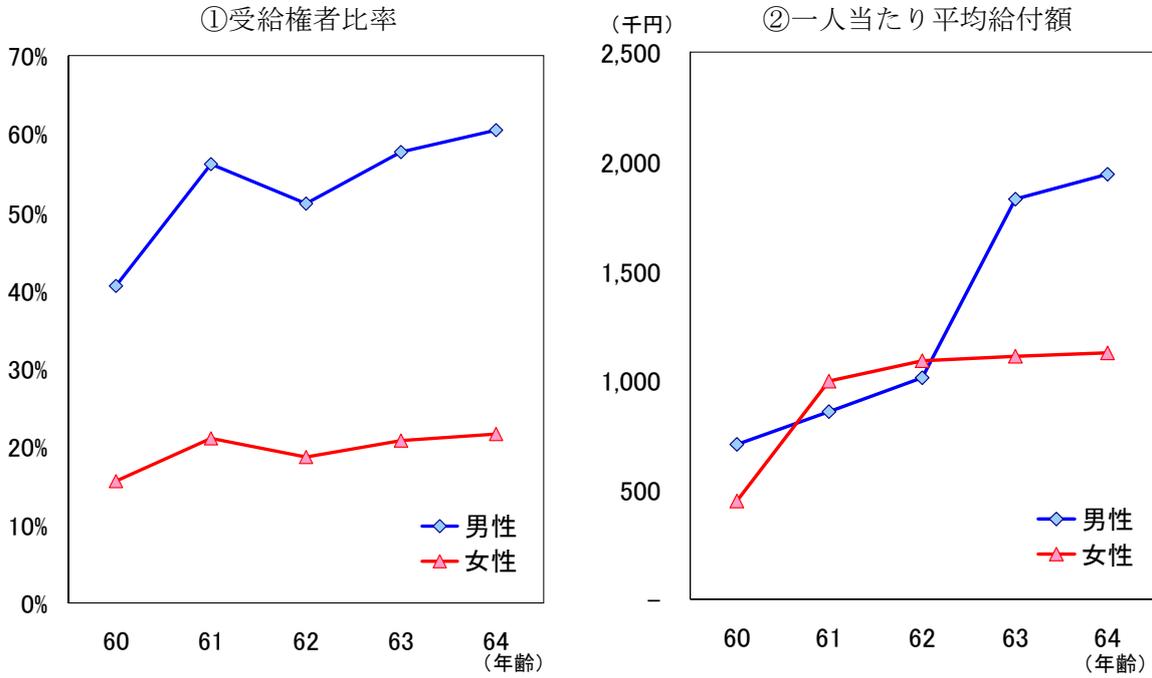


②一人当たり平均給付額



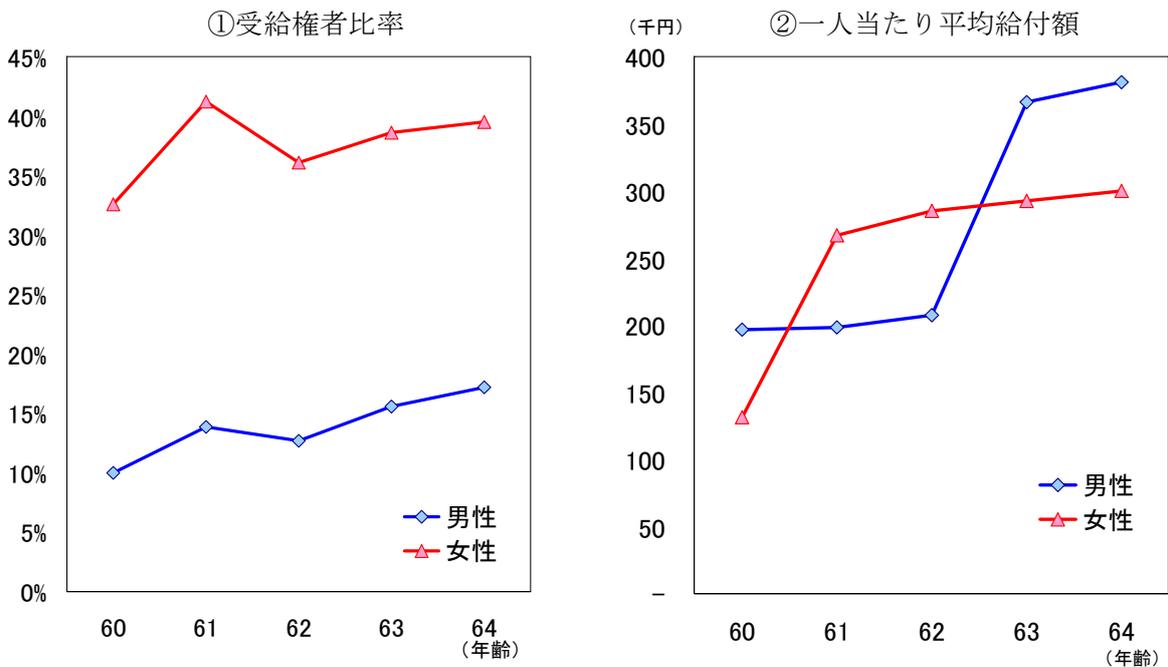
(出所) 厚生労働省「平成21年財政検証バックデータ」

【図 1 6】 特別支給の老齢厚生年金（老齢相当）の受給権者比率・一人当たり平均給付額



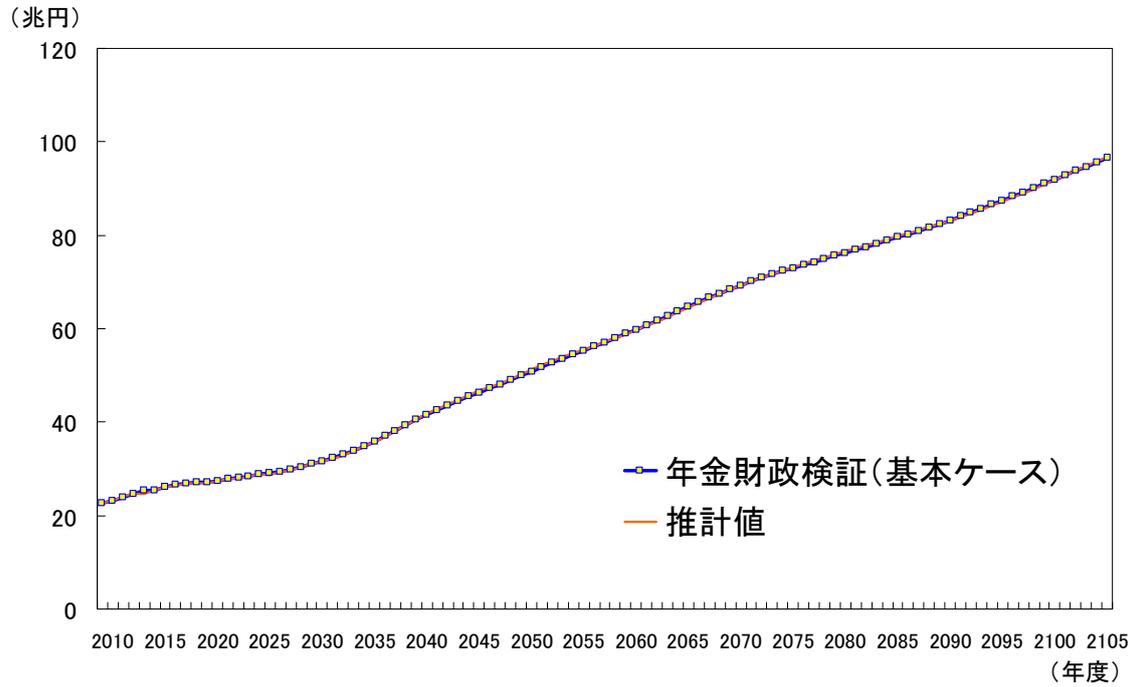
(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証バックデータ」

【図 1 7】 特別支給の老齢厚生年金（通老相当）の受給権者比率・一人当たり平均給付額



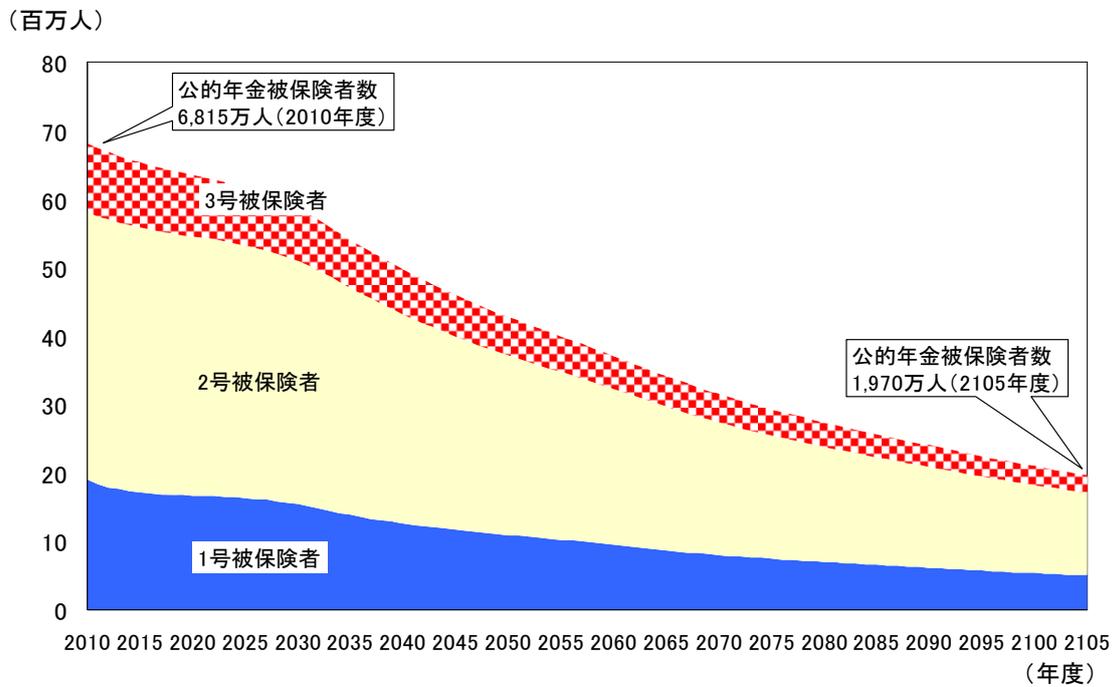
(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証バックデータ」

【図18】厚生年金給付費のシミュレーション結果



(出所) 厚生労働省「平成21年財政検証」

【図19】公的年金被保険者数の推移



(出所) 厚生労働省「平成21年財政検証」

【図20】 公的年金制度の会計ベースの値と SNA ベースの値

①会計上ベースの値

国民年金 (年金特別会計 国民年金勘定)		【決算】	
保 険 料	17,470	給 付 費	15,779
国 庫 負 担	18,558	基 礎 年 金 抛 出 金	41,218
運 用 収 入	1,093	そ の 他	1,346
基 礎 年 金 交 付 金	14,863		
積 立 金 より 受 入	1,737		
独 法 福 祉 医 療 機 構 納 付 金	353		
そ の 他	71		
	54,144		58,344

(億円)

厚生年金 (年金特別会計 厚生年金勘定)		【決算】	
保 険 料	226,905	給 付 費	226,870
国 庫 負 担	54,323	基 礎 年 金 抛 出 金	133,162
運 用 収 入	17,682	そ の 他	1,046
基 礎 年 金 交 付 金	18,797		
国 共 済 連 合 会 等 抛 出 金 収 入	328		
積 立 金 相 当 額 納 付 金	0		
職 域 等 費 用 納 付 金	2,218		
解 散 厚 年 基 金 等 徴 収 金	3,486		
積 立 金 より 受 入	33,605		
独 法 福 祉 医 療 機 構 納 付 金	6,401		
そ の 他	472		
	364,217		361,078

(億円)

基礎年金 (年金特別会計 基礎年金勘定)		【決算】	
抛 出 金 等 収 入	192,558	基 礎 年 金 給 付 費	154,458
基 礎 年 金 抛 出 金	187,365	基 礎 年 金 交 付 金	38,067
特 別 国 庫 負 担 相 当 額	5,194	そ の 他	0
運 用 収 入	172		
そ の 他	15,718		
	208,448		192,526

(億円)

国家公務員共済 (国家公務員共済事業年報)		【決算】	
保 険 料	10,432	給 付 費	16,736
国 庫 ・ 公 経 済 負 担	1,747	基 礎 年 金 抛 出 金	4,493
追 加 費 用	3,538	年 金 保 険 者 抛 出 金	27
運 用 収 入	1,712	そ の 他	702
基 礎 年 金 交 付 金	1,350		
財 政 調 整 抛 出 金 収 入	714		
そ の 他	33		
	19,527		21,958

(億円)

地方公務員共済 (地方公務員共済事業年報)		【決算】	
保 険 料	30,188	給 付 費	43,917
公 的 負 担	4,630	基 礎 年 金 抛 出 金	11,995
追 加 費 用	9,445	年 金 保 険 者 抛 出 金	221
運 用 収 入	5,242	財 政 調 整 抛 出 金	714
基 礎 年 金 交 付 金	2,912	そ の 他	1,996
そ の 他	100		
	52,516		58,843

(億円)

私学共済 (私学共済制度事業要覧)		【決算】	
保 険 料	3,190	給 付 費	2,508
国 庫 負 担	637	基 礎 年 金 抛 出 金	1,691
運 用 収 入	513	年 金 保 険 者 抛 出 金	80
基 礎 年 金 交 付 金	146	そ の 他	593
そ の 他	76		
	4,561		4,872

(億円)

②SNA ベース

(国民経済計算年報付表9、10)	
国民年金・基礎年金	
保 険 料	17,470
厚生年金	
保 険 料	226,905
船員保険(年金給付)	
保 険 料	135
国家公務員共済	
保 険 料	10,432
地方公務員共済	
保 険 料	30,218
その他共済	
保 険 料	4,027
基金	
保 険 料	442
給 付 費	170,294
給 付 費	225,899
給 付 費	68
給 付 費	16,709
給 付 費	43,748
給 付 費	4,268
給 付 費	1,814
合 計	462,800

(億円)

(出所) 財務省「平成20年度決算書」
 財務省「国家公務員共済組合事業統計年報」
 総務省「地方公務員共済組合等事業年報」
 日本私立学校振興・共済事業団
 「私学共済制度統計要覧」
 内閣府「国民経済計算」

【図 2 1】基礎年金の財政見通し（基本ケース）

年度	(平成16年度価格)					
	① 基礎年金 給付費 (名目額)	② 基礎年金 国庫負担 (名目額)	③ 拠出金 算定 対象額	④ 拠出金 算定 対象者数	⑤ 拠出金単価 (月額) (③÷④)÷12	⑥ 保険料相当額 (月額) ⑤×(1-国庫負担割合)
平成 (西暦)	兆円	兆円	兆円	百万人	円	円
21 (2009)	19.4 (19.4)	9.9 (9.9)	19.1	58.3	27,318	13,659
22 (2010)	19.7 (19.8)	10.0 (10.1)	19.3	57.8	27,905	13,952
23 (2011)	20.3 (20.3)	10.3 (10.3)	20.0	57.4	28,983	14,491
24 (2012)	21.0 (20.9)	10.7 (10.6)	20.7	57.1	30,150	15,075
25 (2013)	21.5 (21.8)	10.9 (11.1)	21.1	56.8	30,925	15,463
26 (2014)	21.7 (22.7)	11.0 (11.5)	21.3	56.6	31,389	15,695
27 (2015)	21.8 (23.6)	11.1 (12.0)	21.4	56.4	31,601	15,800
32 (2020)	21.4 (26.2)	10.9 (13.3)	21.0	55.1	31,754	15,877
37 (2025)	20.2 (27.9)	10.3 (14.2)	19.8	53.2	30,958	15,479
42 (2030)	19.0 (29.8)	9.7 (15.2)	18.7	50.1	31,013	15,507
52 (2040)	18.5 (37.0)	9.5 (19.0)	18.0	42.2	35,650	17,825
62 (2050)	18.1 (46.4)	9.3 (23.8)	17.6	36.4	40,300	20,150
72 (2060)	16.7 (54.8)	8.6 (28.2)	16.2	31.4	43,104	21,552
82 (2070)	15.0 (63.1)	7.7 (32.4)	14.6	26.7	45,580	22,790
92 (2080)	12.9 (69.5)	6.6 (35.7)	12.6	23.3	44,869	22,435
102 (2090)	11.0 (76.0)	5.7 (39.0)	10.7	20.4	43,730	21,865
112 (2100)	9.5 (83.9)	4.9 (43.1)	9.3	17.8	43,195	21,598
117 (2105)	8.8 (88.3)	4.5 (45.4)	8.6	16.8	42,700	21,350

(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

【図 2 2】国民年金の財政見通し（基本ケース）

年度 (西暦)	保険料月額 (注1) 円	収入合計				支出合計			収支 差引残 兆円	年度末 積立金 兆円	年度末 積立金 (21年度価格) 兆円	積立 度合
		兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円				
2009	14,700	4.8	2.2	2.4	0.1	4.7	0.1	4.5	0.1	10.0	10.0	2.1
2010	14,980	4.9	2.2	2.5	0.2	4.7	0.1	4.5	0.2	10.2	10.1	2.1
2011	15,260	4.9	2.2	2.5	0.2	4.7	0.1	4.5	0.1	10.3	10.3	2.2
2012	15,540	4.9	2.2	2.5	0.2	4.8	0.1	4.6	0.1	10.4	10.5	2.1
2013	15,820	5.1	2.3	2.6	0.2	5.0	0.1	4.8	0.1	10.5	10.3	2.1
2014	16,100	5.4	2.4	2.7	0.3	5.2	0.1	5.0	0.1	10.7	10.2	2.0
2015	16,380	5.7	2.5	2.8	0.3	5.4	0.1	5.2	0.2	10.9	10.0	2.0
2020	16,900	6.6	2.9	3.2	0.5	6.1	0.1	5.9	0.5	13.0	10.6	2.0
2025	16,900	7.3	3.2	3.5	0.6	6.6	0.1	6.4	0.7	16.3	11.7	2.4
2030	16,900	8.0	3.4	3.8	0.8	7.1	0.1	6.9	0.9	20.6	13.1	2.8
2040	16,900	9.5	3.6	4.7	1.2	8.7	0.1	8.5	0.8	29.9	14.9	3.4
2050	16,900	11.5	4.0	6.0	1.5	10.9	0.0	10.8	0.5	36.6	14.2	3.3
2060	16,900	13.3	4.4	7.2	1.6	13.0	0.0	12.9	0.3	40.6	12.3	3.1
2070	16,900	14.7	4.8	8.2	1.6	14.8	0.0	14.7	-0.2	40.8	9.7	2.8
2080	16,900	16.0	5.4	9.1	1.5	16.4	0.0	16.2	-0.4	37.8	7.0	2.3
2090	16,900	17.3	6.1	9.9	1.3	17.9	0.0	17.8	-0.6	33.0	4.8	1.9
2100	16,900	18.7	6.7	10.9	1.0	19.7	0.0	19.6	-1.0	25.1	2.8	1.3
2105	16,900	19.5	7.2	11.5	0.8	20.7	0.0	20.6	-1.2	19.5	1.9	1.0

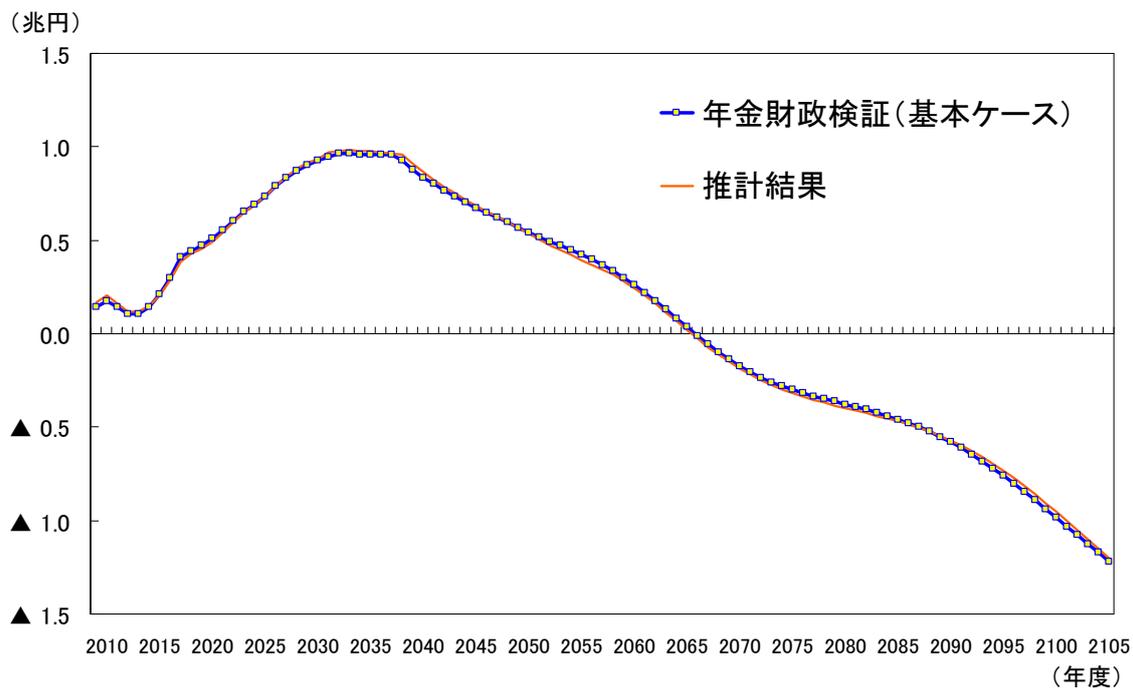
(注 1) 保険料月額は国民年金法第 8 7 条第 3 項に規定されている保険料の額（平成 16 年度価格）。

(注 2) 「積立度合」とは、前年度末積立金の当年度の支出合計に対する倍率である。

(注 3) 「21 年度価格」とは、賃金上昇率により、平成 21(2009)年度の価格に換算したものである。

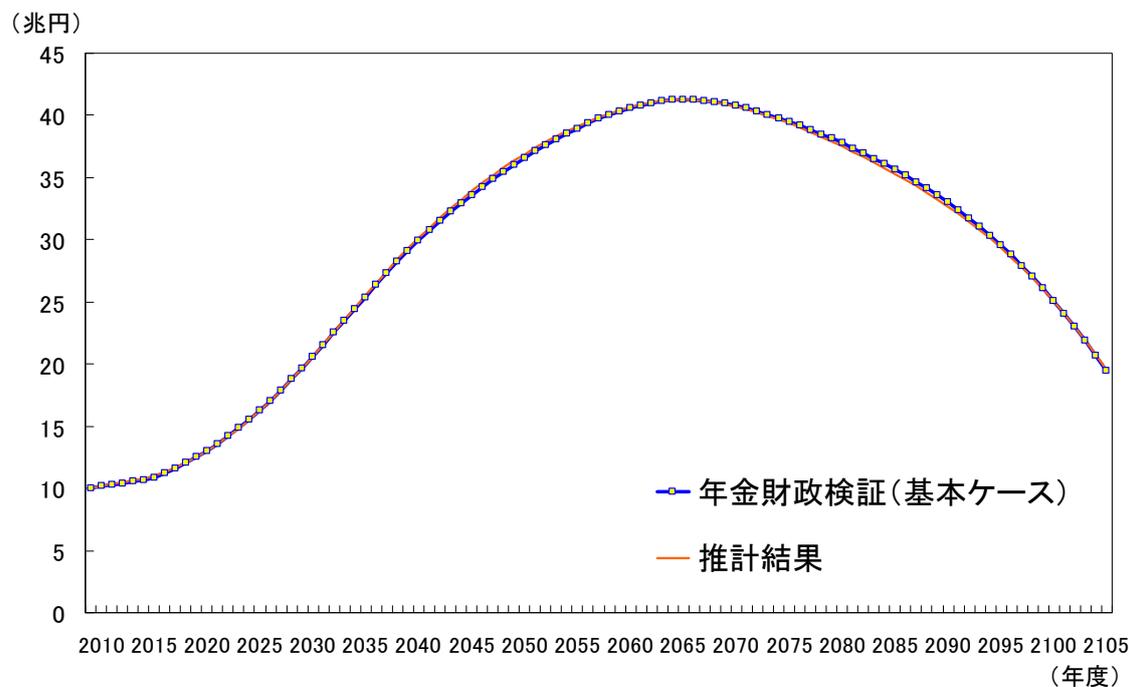
(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

【図 2 3】 国民年金財政収支のシミュレーション結果



(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

【図 2 4】 国民年金積立金残高のシミュレーション結果



(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

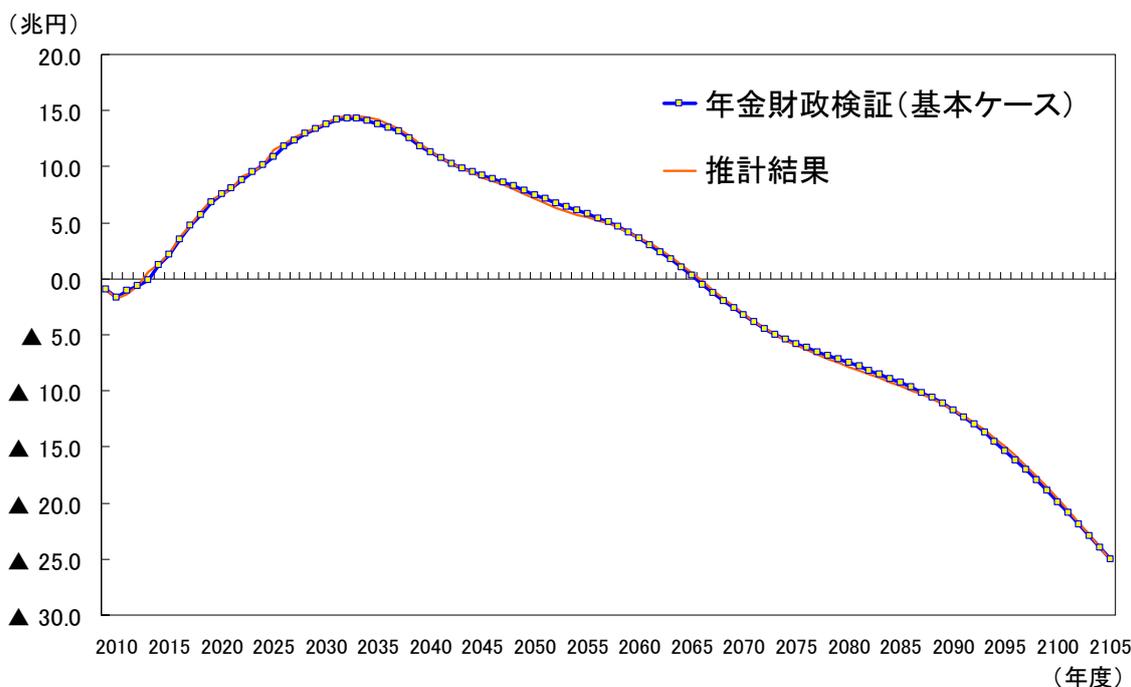
【図 2 5】厚生年金の財政見通し（基本ケース）

年度 (西暦)	保険料率	収入合計				支出合計			収支 差引残	年度末 積立金	年度末 積立金 (21年度価格)	積立 度合
		兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円				
2009	15.704	34.9	23.8	7.2	2.1	35.8	22.6	13.1	-0.9	144.4	144.4	4.1
2010	16.058	35.0	24.7	7.4	2.5	36.7	23.1	13.5	-1.7	142.6	141.1	3.9
2011	16.412	36.7	26.2	7.5	2.7	37.8	23.8	13.9	-1.1	141.6	141.7	3.8
2012	16.766	38.5	27.6	7.8	2.8	39.2	24.7	14.4	-0.7	140.9	141.3	3.6
2013	17.120	40.4	28.9	8.1	3.1	40.4	25.3	15.0	-0.1	140.8	138.3	3.5
2014	17.474	42.5	30.3	8.4	3.6	41.3	25.5	15.7	1.2	142.0	135.4	3.4
2015	17.828	44.8	31.7	8.7	4.1	42.6	26.2	16.3	2.1	144.2	132.5	3.3
2020	18.300	53.3	36.9	9.4	6.8	45.7	27.5	18.1	7.6	172.5	140.6	3.6
2025	18.300	59.5	40.8	9.9	8.6	48.6	29.2	19.2	10.9	219.9	158.5	4.3
2030	18.300	66.1	44.5	10.4	11.1	52.3	31.7	20.5	13.8	284.2	181.0	5.2
2040	18.300	78.5	49.1	12.8	16.5	67.3	41.6	25.5	11.2	417.1	207.5	6.0
2050	18.300	90.4	54.1	16.0	20.2	82.9	50.9	31.9	7.5	507.7	197.3	6.0
2060	18.300	101.2	59.8	18.8	22.5	97.6	59.9	37.6	3.6	562.5	170.8	5.7
2070	18.300	109.6	65.2	21.7	22.6	112.8	69.3	43.4	-3.3	561.3	133.1	5.0
2080	18.300	116.7	72.4	23.9	20.3	124.2	76.2	47.8	-7.5	502.5	93.1	4.1
2090	18.300	123.9	81.2	26.1	16.6	135.6	83.2	52.3	-11.7	406.4	58.8	3.1
2100	18.300	129.9	90.7	28.9	10.3	149.8	92.0	57.8	-19.9	247.2	28.0	1.8
2105	18.300	132.4	96.2	30.4	5.8	157.5	96.6	60.8	-25.1	132.4	13.2	1.0

(注 1) 「積立度合」とは、前年度末積立金の当年度の支出合計に対する倍率である。
 (注 2) 「21 年度価格」とは、賃金上昇率により、平成 21(2009)年度の価格に換算したものである。
 (注 3) 厚生年金基金の代行部分を含む、厚生年金全体の財政見通しである。

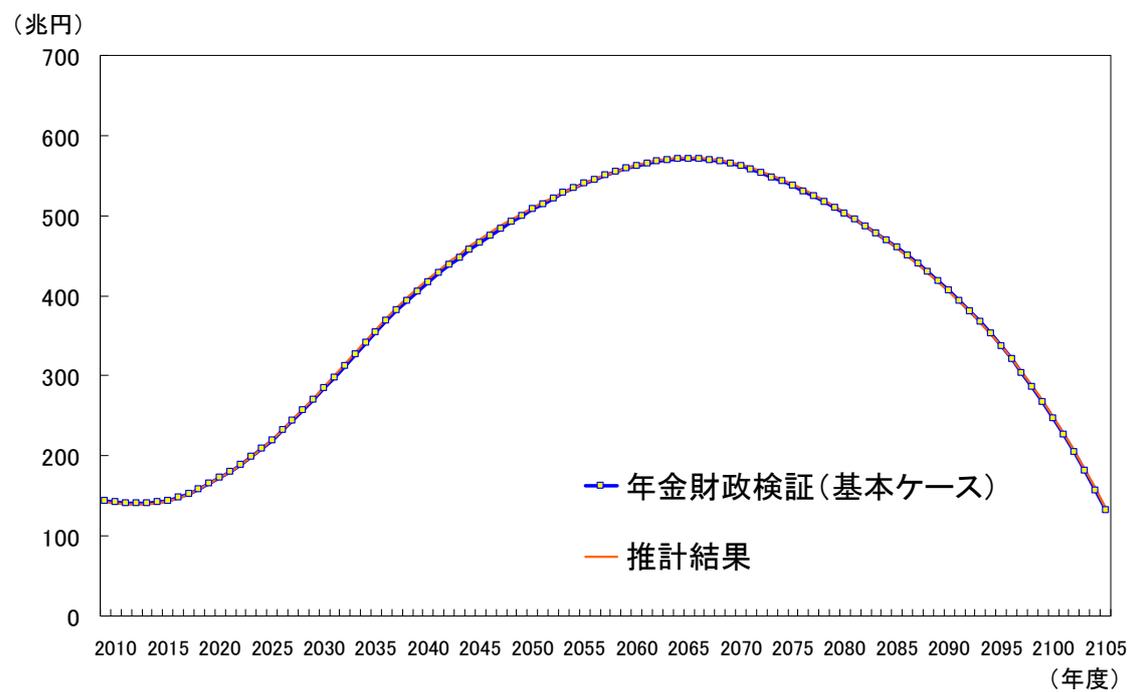
(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

【図 2 6】厚生年金財政収支のシミュレーション結果



(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

【図 2 7】 厚生年金積立金残高のシミュレーション結果



(出所) 厚生労働省「平成 21 年財政検証」

【図 2 8】 共済年金の財政見通し

①国共済＋地共済

年度 (西暦)	保険料率	収入合計				支出	収支 差引残	年度末 積立金	積立 度合
		掛金	負担金	運用収入					
	%	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	
2010	15.508	78,128	20,966	48,744	8,417	79,806	▲ 1,678	470,958	6.2
2011	15.862	79,679	21,803	49,023	8,854	80,816	▲ 1,137	469,821	6.1
2012	16.216	79,343	22,701	47,367	9,274	82,343	▲ 3,000	466,821	5.9
2013	16.570	81,274	23,536	47,599	10,139	83,135	▲ 1,861	464,959	5.8
2014	16.924	84,150	24,358	47,856	11,935	84,113	37	464,996	5.7
2015	17.278	86,690	25,201	48,187	13,303	86,049	641	465,638	5.6
2020	19.048	99,466	29,950	49,584	19,932	88,245	11,221	501,689	5.6
2025	19.800	107,621	34,083	50,765	22,773	90,870	16,751	575,170	6.2
2030	19.800	114,908	36,868	51,552	26,488	95,189	19,719	669,123	6.8
2035	19.800	123,305	39,198	53,435	30,671	102,325	20,979	773,855	7.4
2045	19.800	141,973	43,427	60,014	38,532	122,869	19,104	968,521	7.7
2055	19.800	159,910	47,246	66,963	45,700	144,942	14,968	1,144,824	7.8
2065	19.800	175,359	51,380	74,519	49,461	172,723	2,637	1,232,167	7.1
2075	19.800	187,910	57,107	83,000	47,802	197,825	▲ 9,916	1,184,556	6.0
2085	19.800	197,863	63,818	91,975	42,069	217,445	▲ 19,582	1,037,018	4.9
2095	19.800	202,568	70,465	101,432	30,671	241,056	▲ 38,487	743,821	3.2
2105	19.800	203,633	79,468	113,579	10,586	265,308	▲ 61,675	232,286	1.1

(出所) 地方公務員共済組合連合会「長期給付に要する費用の再計算について」より作成

②私学共済

年度 (西暦)	掛金率	収入	支出	収支 差引残	年度末 積立金	積立 度合
	%	億円	億円	億円	億円	
2010	12.584	5,137	4,781	356	34,864	7.4
2011	12.938	5,368	4,907	461	35,325	7.3
2012	13.292	5,613	5,266	346	35,672	6.8
2013	13.646	5,918	5,404	514	36,186	6.7
2014	14.000	6,310	5,544	766	36,952	6.6
2015	14.354	6,686	5,732	954	37,906	6.5
2020	16.124	8,579	6,284	2,294	46,796	7.1
2025	17.894	10,054	6,745	3,309	61,220	8.6
2030	19.400	11,561	7,492	4,069	80,409	10.2
2040	19.400	13,968	10,436	3,533	119,419	11.1
2050	19.400	16,167	14,547	1,620	145,287	9.9
2060	19.400	17,426	17,734	▲ 308	150,111	8.5
2070	19.400	18,324	19,686	▲ 1,362	140,192	7.2
2080	19.400	19,215	20,982	▲ 1,768	124,446	6.0
2090	19.400	19,790	22,621	▲ 2,831	101,699	4.6
2100	19.400	20,137	24,682	▲ 4,544	64,201	2.8
2105	19.400	20,270	25,798	▲ 5,528	38,586	1.7

(出所) 日本私立学校振興・共済事業団「レター」Vol.72, 2010年3月号より作成

方程式リスト

'1) 改定基準サブブロック

'A 改定に利用する変数の計算

'●名目手取り賃金変動率の作成

'国民年金法第27条の2に基づいて、標準報酬月額平均(sp_w)・厚生年金保険料率(sp_\$qe)・物価変動率(sp_rp)をもとに計算。

$$sp_rw = ((sp_w(-2) / sp_w(-5)) / (e_cpi(-2) / e_cpi(-5)))^{(1 / 3)} * (0.910 - sp_\$qe(-3) / 2) / (0.910 - sp_\$qe(-4) / 2) * sp_rp$$

'●物価変動率(暦年)の作成

$$sp_rp = e_cpicy(-1) / e_cpicy(-2)$$

'●マクロスライド調整率の作成

'国民年金法第27条の4に基づいて、公的年金被保険者数(sp_y)をもとに計算(マクロスライド調整率が1を超えることは想定しない)。

$$sp_rm = @recode((sp_y(-2) / sp_y(-5))^{(1 / 3)} * 0.997 > 1, 1, (sp_y(-2) / sp_y(-5))^{(1 / 3)} * 0.997)$$

'●改定率作成のためのスイッチ変数の作成

'名目手取り賃金変動率(sp_rw)が1を上回る場合に1、下回る場合に0となる。

$$sp_sw = @recode(sp_rw > 1, 1, 0)$$

'物価変動率(sp_rp)が1を上回る場合に1、下回る場合に0となる。

$$sp_sp = @recode(sp_rp > 1, 1, 0)$$

'B 基礎年金用改定基準

'●調整期間の反映

'調整期間における調整を反映した名目手取り賃金変動率を次のように計算。

'外生的に与えられた期間(sp_dms=1)においては、名目賃金変動率にマクロスライド調整率をかける。

$$sp_rw_m = sp_dms * (sp_sw * @recode(sp_rw * sp_rm > 1, sp_rw * sp_rm, 1) + (1 - sp_sw) * sp_rw) + (1 - sp_dms) * sp_rw$$

'1.名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率(マクロスライドはかけない)

'2.名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合

' (1) スライド調整済み名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合⇒スライド調整済み名目手取り賃金上昇率

' (2) スライド調整済み名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合⇒1

'調整期間における調整を反映した物価変動率を次のように計算。

'外生的に与えられた期間(sp_dms=1)においては、物価変動率にマクロスライド調整率をかける。

$$sp_rp_m = sp_dms * (sp_sp * @recode(sp_rp * sp_rm > 1, sp_rp * sp_rm, 1) + (1 - sp_sp) * sp_rp) + (1 - sp_dms) * sp_rp$$

'1.物価変動率が1を下回った場合 ⇒ 物価変動率(マクロスライドはかけない)

'2.物価変動率が1を上回った場合

' (1) スライド調整済み物価変動率が1を上回った場合 ⇒ スライド調整済み物価変動率

' (2) スライド調整済み物価変動率が1を下回った場合 ⇒ 1

'●改定率の改定基準の計算

'新規裁定者(65~67歳)の改定基準(sp_rz_m)

$$sp_rz_m = sp_sw * sp_rw_m + (1 - sp_sw) * (sp_sp * 1 + (1 - sp_sp) * @recode(sp_rw > sp_rp, sp_rw, sp_rp))$$

'国民年金法 第27条の4

'1: 名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合 ⇒ 調整済み賃金上昇率

'2: 名目手取り賃金上昇率が1を下回り、物価上昇率が1を上回った場合 ⇒ 1

'3: 名目手取り賃金上昇率、物価上昇率が共に1を下回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率と物価上昇率の高い方

'既裁定者(68歳以上)の改定基準(sp_rx_m)

$$sp_rx_m = (1 - sp_sp) * sp_rp + sp_sp * ((1 - sp_sw) * 1 + sp_sw * @recode(sp_rw_m > sp_rp_m, sp_rp_m, sp_rw_m))$$

'国民年金法 第27条の5

'1: 物価上昇率が1を下回った場合 ⇒ 物価上昇率

'2: 物価上昇率が1を上回り、名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合 ⇒ 1

'3: 物価上昇率、名目手取り賃金上昇率が共に1を上回った場合 ⇒ 調整済み賃金上昇率と調整済み物価上昇率の低い方

'マクロスライドをかけない場合の新規裁定者の改定基準 (sp_rz_xm)

$$sp_rz_xm = sp_sw * sp_rw + (1 - sp_sw) * (sp_sp * 1 + (1 - sp_sp) * @recode(sp_rw > sp_rp, sp_rw, sp_rp))$$

'国民年金法 第27条の2

'1: 名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率

'2: 名目手取り賃金上昇率が1を下回り、物価上昇率が1を上回った場合 ⇒ 1

'3: 名目手取り賃金上昇率、物価上昇率が共に1を下回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率と物価上昇率の高い方

'マクロスライドをかけない場合の既裁定者の改定基準 (sp_rx_xm)

$$sp_rx_xm = (1 - sp_sp) * sp_rp + sp_sp * ((1 - sp_sw) * 1 + sp_sw * @recode(sp_rw > sp_rp, sp_rp, sp_rw))$$

'国民年金法 第27条の3

'1: 物価上昇率が1を下回った場合 ⇒ 物価上昇率

'2: 物価上昇率が1を上回り、名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合 ⇒ 1

'3: 物価上昇率、名目手取り賃金上昇率が共に1を上回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率と物価上昇率の低い方

'C 厚生年金用改定基準

●調整期間の反映

調整期間における調整を反映した名目手取り賃金変動率を次のように計算。

'外生的に与えられた期間(sp_dmse=1)においては、名目賃金変動率にマクロスライド調整率をかける。

$$sp_rwe_m = sp_dmse * (sp_sw * @recode((sp_rw * sp_rm) > 1, sp_rw * sp_rm, 1) + (1 - sp_sw) * sp_rw) + (1 - sp_dmse) * sp_rw$$

'1.名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率 (マクロスライドはかけない)

'2.名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合

' (1) スライド調整済み名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合⇒スライド調整済み名目手取り賃金上昇率

' (2) スライド調整済み名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合⇒1

調整期間における調整を反映した物価変動率を次のように計算。

'外生的に与えられた期間(sp_dmse=1)においては、物価変動率にマクロスライド調整率をかける。

$$sp_rpe_m = sp_dmse * (sp_sp * @recode((sp_rp * sp_rm) > 1, sp_rp * sp_rm, 1) + (1 - sp_sp) * sp_rp) + (1 - sp_dmse) * sp_rp$$

'1.物価変動率が1を下回った場合 ⇒ 物価変動率 (マクロスライドはかけない)

'2.物価変動率が1を上回った場合

' (1) スライド調整済み物価変動率が1を上回った場合 ⇒ スライド調整済み物価変動率

' (2) スライド調整済み物価変動率が1を下回った場合 ⇒ 1

●再評価率の改定基準の計算

'新規裁定者の改定基準(sp_rze_m)

$$sp_rze_m = sp_sw * sp_rwe_m + (1 - sp_sw) * (sp_sp * 1 + (1 - sp_sp) * @recode(sp_rw > sp_rp, sp_rw, sp_rp))$$

'厚生年金保険法 第43条の4

'1: 名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合 ⇒ 調整済み賃金上昇率

'2: 名目手取り賃金上昇率が1を下回り、物価上昇率が1を上回った場合 ⇒ 1

'3: 名目手取り賃金上昇率、物価上昇率が共に1を下回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率と物価上昇率の高い方

'既裁定者の改定基準 (sp_rxe_m)

$$sp_rxe_m = (1 - sp_sp) * sp_rp + sp_sp * ((1 - sp_sw) * 1 + sp_sw * @recode(sp_rwe_m < sp_rpe_m, sp_rwe_m, sp_rpe_m))$$

'厚生年金保険法 第43条の5

'1: 物価上昇率が1を下回った場合 ⇒ 物価上昇率

'2: 物価上昇率が1を上回り、名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合 ⇒ 1

'3: 物価上昇率、名目手取り賃金上昇率が共に1を上回った場合 ⇒ 調整済み賃金上昇率と調整済み物価上昇率の低い方

'マクロスライドをかけない場合の新規裁定者の改定基準 (sp_rze_xm)

'新規裁定者

$$sp_rze_xm = sp_sw * sp_rw + (1 - sp_sw) * (sp_sp * 1 + (1 - sp_sp) * @recode(sp_rw > sp_rp, sp_rw, sp_rp))$$

'厚生年金保険法 第43条の2

'1: 名目手取り賃金上昇率が1を上回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率

'2: 名目手取り賃金上昇率が1を下回り、物価上昇率が1を上回った場合 ⇒ 1

'3: 名目手取り賃金上昇率、物価上昇率が共に1を下回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率と物価上昇率の高い方

'マクロスライドをかけない場合の既裁定者の改定基準 (sp_rxe_xm)

$$\text{sp_rxe_xm} = (1 - \text{sp_sp}) * \text{sp_rp} + \text{sp_sp} * ((1 - \text{sp_sw}) * 1 + \text{sp_sw} * @\text{recode}(\text{sp_rw} > \text{sp_rp}, \text{sp_rp}, \text{sp_rw}))$$

'厚生年金保険法 第43条の3

'1: 物価上昇率が1を下回った場合 ⇒ 物価上昇率

'2: 物価上昇率が1を上回り、名目手取り賃金上昇率が1を下回った場合 ⇒ 1

'3: 物価上昇率、名目手取り賃金上昇率が共に1を上回った場合 ⇒ 名目手取り賃金上昇率と物価上昇率の低い方

'所得代替率(sp_rbi)の計算

$$\text{sp_rbi} = (2 * (\text{sp_lbfz}/1000 + \text{sp_wez}) / ((0.910 - \text{sp_sqe} / 2) * \text{sp_w}))$$

$$\text{sp_wez} = \text{sp_wez}(-1) * \text{sp_rez}$$

'所得代替率が50%に到達した場合のマクロスライド調整率の修正のための参照値

$$\text{sp_rm_ref} = 0.5 / \text{sp_rbi}$$

'所得代替率が50%に到達した場合にマクロスライド調整を停止する場合の調整率

$$\text{sp_rm_adj} = @\text{recode}(\text{sp_rbi} > 0.5, \text{sp_rm}, @\text{recode}(\text{sp_rm_ref} < 1, \text{sp_rm_ref}, 1))$$

'2)給付サブブロック

'A 基礎年金 (みなし基礎年金を含む)

'①物価スライド特例を踏まえたフルペンション額の決定 (マクロスライド開始時期の決定を含む)

'(1)物価特例水準

$$\text{sp_lbf_sp_ref} = (\text{e_cpicy}(-1) / \text{e_cpicy}(-2)) * \text{sp_lbf_sp_ref}(-1)$$

$$\text{sp_lbf_sp} = @\text{recode}(\text{sp_lbf_sp}(-1) > \text{sp_lbf_sp_ref}, \text{sp_lbf_sp_ref}, \text{sp_lbf_sp}(-1))$$

'(2)本来水準候補 (マクロスライドなし)

$$\text{sp_lbfz_xm} = \text{sp_lbfz_o}(-1) * \text{sp_rz_xm}$$

$$\text{sp_lbf68_xm} = \text{sp_lbfz_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf69_xm} = \text{sp_lbf68_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf70_xm} = \text{sp_lbf69_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf71_xm} = \text{sp_lbf70_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf72_xm} = \text{sp_lbf71_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf73_xm} = \text{sp_lbf72_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf74_xm} = \text{sp_lbf73_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf75_xm} = \text{sp_lbf74_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf76_xm} = \text{sp_lbf75_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf77_xm} = \text{sp_lbf76_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf78_xm} = \text{sp_lbf77_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf79_xm} = \text{sp_lbf78_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf80_xm} = \text{sp_lbf79_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf81_xm} = \text{sp_lbf80_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf82_xm} = \text{sp_lbf81_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf83_xm} = \text{sp_lbf82_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf84_xm} = \text{sp_lbf83_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf85_xm} = \text{sp_lbf84_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf86_xm} = \text{sp_lbf85_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf87_xm} = \text{sp_lbf86_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf88_xm} = \text{sp_lbf87_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf89_xm} = \text{sp_lbf88_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf90_xm} = \text{sp_lbf89_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf91_xm} = \text{sp_lbf90_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf92_xm} = \text{sp_lbf91_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf93_xm} = \text{sp_lbf92_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf94_xm} = \text{sp_lbf93_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf95ov_xm} = \text{sp_lbf94_o}(-1) * \text{sp_rx_xm} * \text{sp_r95} + (1 - \text{sp_r95}) * \text{sp_lbf95ov_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

$$\text{sp_lbf95_xm} = \text{sp_lbf95_o}(-1) * \text{sp_rx_xm}$$

'(3)本来水準候補 (マクロスライドあり)

```

sp_lbfz_wm = sp_lbfz_o(-1) * sp_rz_m
sp_lbf68_wm = sp_lbfz_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf69_wm = sp_lbf68_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf70_wm = sp_lbf69_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf71_wm = sp_lbf70_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf72_wm = sp_lbf71_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf73_wm = sp_lbf72_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf74_wm = sp_lbf73_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf75_wm = sp_lbf74_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf76_wm = sp_lbf75_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf77_wm = sp_lbf76_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf78_wm = sp_lbf77_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf79_wm = sp_lbf78_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf80_wm = sp_lbf79_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf81_wm = sp_lbf80_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf82_wm = sp_lbf81_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf83_wm = sp_lbf82_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf84_wm = sp_lbf83_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf85_wm = sp_lbf84_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf86_wm = sp_lbf85_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf87_wm = sp_lbf86_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf88_wm = sp_lbf87_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf89_wm = sp_lbf88_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf90_wm = sp_lbf89_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf91_wm = sp_lbf90_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf92_wm = sp_lbf91_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf93_wm = sp_lbf92_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf94_wm = sp_lbf93_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbf95ov_wm = sp_lbf94_o(-1) * sp_rx_m * sp_r95 + (1 - sp_r95) * sp_lbf95ov_o(-1) * sp_rx_m
sp_lbfo_wm = sp_lbfo_o(-1) * sp_rx_m

```

'(4)本来水準

```

sp_lbfz_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbfz_xm , sp_lbfz_xm , @recode(sp_lbfz_wm>sp_lbf_sp , sp_lbfz_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf68_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf68_xm , sp_lbf68_xm , @recode(sp_lbf68_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf68_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf69_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf69_xm , sp_lbf69_xm , @recode(sp_lbf69_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf69_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf70_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf70_xm , sp_lbf70_xm , @recode(sp_lbf70_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf70_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf71_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf71_xm , sp_lbf71_xm , @recode(sp_lbf71_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf71_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf72_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf72_xm , sp_lbf72_xm , @recode(sp_lbf72_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf72_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf73_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf73_xm , sp_lbf73_xm , @recode(sp_lbf73_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf73_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf74_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf74_xm , sp_lbf74_xm , @recode(sp_lbf74_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf74_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf75_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf75_xm , sp_lbf75_xm , @recode(sp_lbf75_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf75_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf76_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf76_xm , sp_lbf76_xm , @recode(sp_lbf76_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf76_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf77_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf77_xm , sp_lbf77_xm , @recode(sp_lbf77_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf77_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf78_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf78_xm , sp_lbf78_xm , @recode(sp_lbf78_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf78_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf79_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf79_xm , sp_lbf79_xm , @recode(sp_lbf79_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf79_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf80_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf80_xm , sp_lbf80_xm , @recode(sp_lbf80_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf80_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf81_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf81_xm , sp_lbf81_xm , @recode(sp_lbf81_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf81_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf82_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf82_xm , sp_lbf82_xm , @recode(sp_lbf82_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf82_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf83_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf83_xm , sp_lbf83_xm , @recode(sp_lbf83_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf83_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf84_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf84_xm , sp_lbf84_xm , @recode(sp_lbf84_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf84_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf85_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf85_xm , sp_lbf85_xm , @recode(sp_lbf85_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf85_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf86_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf86_xm , sp_lbf86_xm , @recode(sp_lbf86_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf86_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf87_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf87_xm , sp_lbf87_xm , @recode(sp_lbf87_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf87_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf88_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf88_xm , sp_lbf88_xm , @recode(sp_lbf88_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf88_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf89_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf89_xm , sp_lbf89_xm , @recode(sp_lbf89_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf89_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf90_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf90_xm , sp_lbf90_xm , @recode(sp_lbf90_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf90_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf91_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf91_xm , sp_lbf91_xm , @recode(sp_lbf91_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf91_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf92_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf92_xm , sp_lbf92_xm , @recode(sp_lbf92_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf92_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf93_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf93_xm , sp_lbf93_xm , @recode(sp_lbf93_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf93_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf94_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf94_xm , sp_lbf94_xm , @recode(sp_lbf94_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf94_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbf95ov_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf95ov_xm , sp_lbf95ov_xm , @recode(sp_lbf95ov_wm>sp_lbf_sp , sp_lbf95ov_wm , sp_lbf_sp))
sp_lbfo_o = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbfo_xm , sp_lbfo_xm , @recode(sp_lbf94_wm>sp_lbf_sp , sp_lbfo_wm , sp_lbf_sp))

```

'(5)フルペンション

```

sp_lbfz = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbfz_o , sp_lbf_sp , sp_lbfz_o)
sp_lbf68 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf68_o , sp_lbf_sp , sp_lbf68_o)
sp_lbf69 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf69_o , sp_lbf_sp , sp_lbf69_o)
sp_lbf70 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf70_o , sp_lbf_sp , sp_lbf70_o)
sp_lbf71 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf71_o , sp_lbf_sp , sp_lbf71_o)
sp_lbf72 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf72_o , sp_lbf_sp , sp_lbf72_o)
sp_lbf73 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf73_o , sp_lbf_sp , sp_lbf73_o)
sp_lbf74 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf74_o , sp_lbf_sp , sp_lbf74_o)
sp_lbf75 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf75_o , sp_lbf_sp , sp_lbf75_o)
sp_lbf76 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf76_o , sp_lbf_sp , sp_lbf76_o)
sp_lbf77 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf77_o , sp_lbf_sp , sp_lbf77_o)
sp_lbf78 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf78_o , sp_lbf_sp , sp_lbf78_o)
sp_lbf79 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf79_o , sp_lbf_sp , sp_lbf79_o)
sp_lbf80 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf80_o , sp_lbf_sp , sp_lbf80_o)
sp_lbf81 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf81_o , sp_lbf_sp , sp_lbf81_o)
sp_lbf82 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf82_o , sp_lbf_sp , sp_lbf82_o)
sp_lbf83 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf83_o , sp_lbf_sp , sp_lbf83_o)
sp_lbf84 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf84_o , sp_lbf_sp , sp_lbf84_o)
sp_lbf85 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf85_o , sp_lbf_sp , sp_lbf85_o)
sp_lbf86 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf86_o , sp_lbf_sp , sp_lbf86_o)
sp_lbf87 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf87_o , sp_lbf_sp , sp_lbf87_o)
sp_lbf88 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf88_o , sp_lbf_sp , sp_lbf88_o)
sp_lbf89 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf89_o , sp_lbf_sp , sp_lbf89_o)
sp_lbf90 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf90_o , sp_lbf_sp , sp_lbf90_o)
sp_lbf91 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf91_o , sp_lbf_sp , sp_lbf91_o)
sp_lbf92 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf92_o , sp_lbf_sp , sp_lbf92_o)
sp_lbf93 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf93_o , sp_lbf_sp , sp_lbf93_o)
sp_lbf94 = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf94_o , sp_lbf_sp , sp_lbf94_o)
sp_lbf95ov = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbf95ov_o , sp_lbf_sp , sp_lbf95ov_o)
sp_lbfo = @recode(sp_lbf_sp>sp_lbfo_o , sp_lbf_sp , sp_lbfo_o)
sp_rbfo = sp_lbfo /sp_lbfo(-1)
sp_rbfo_adj = sp_rbfo_adj(-1) * sp_rbfo

```

'②新法基礎年金

'(1)年齢別受給権者対人口比率

```

sp_$mrb60_m = sp_$mrb60_m(-1)
sp_$mrb61_m = sp_$mrb61_m(-1)
sp_$mrb62_m = sp_$mrb62_m(-1)
sp_$mrb63_m = sp_$mrb63_m(-1)
sp_$mrb64_m = sp_$mrb64_m(-1)
sp_$mrb65_m = sp_$mrb65_m(-1)
sp_$mrb66_m = sp_$mrb66_m(-1)
sp_$mrb67_m = sp_$mrb67_m(-1) * sp_$mrb_add
sp_$mrb68_m = sp_$mrb68_m(-1)
sp_$mrb69_m = sp_$mrb69_m(-1)
sp_$mrb70_m = sp_$mrb70_m(-1)
sp_$mrb71_m = sp_$mrb71_m(-1)
sp_$mrb72_m = sp_$mrb72_m(-1)
sp_$mrb73_m = sp_$mrb73_m(-1)
sp_$mrb74_m = sp_$mrb74_m(-1)
sp_$mrb75_m = sp_$mrb75_m(-1)
sp_$mrb76_m = sp_$mrb76_m(-1)
sp_$mrb77_m = sp_$mrb77_m(-1)
sp_$mrb78_m = sp_$mrb78_m(-1)
sp_$mrb79_m = sp_$mrb79_m(-1)
sp_$mrb80_m = sp_$mrb80_m(-1)
sp_$mrb81_m = sp_$mrb81_m(-1)
sp_$mrb82_m = sp_$mrb82_m(-1)
sp_$mrb83_m = sp_$mrb83_m(-1)
sp_$mrb84_m = sp_$mrb84_m(-1)
sp_$mrb85_m = sp_$mrb85_m(-1)
sp_$mrb86_m = sp_$mrb86_m(-1)
sp_$mrb87_m = sp_$mrb87_m(-1)
sp_$mrb88_m = sp_$mrb88_m(-1)

```

sp_\$mhb89_m = sp_\$mhb88_m(-1)
 sp_\$mhb90_m = sp_\$mhb89_m(-1)
 sp_\$mhb91_m = sp_\$mhb90_m(-1)
 sp_\$mhb92_m = sp_\$mhb91_m(-1)
 sp_\$mhb93_m = sp_\$mhb92_m(-1)
 sp_\$mhb94_m = sp_\$mhb93_m(-1)
 sp_\$mhb95ov_m = sp_\$mhb94_m(-1) * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$mhb95ov_m(-1)

sp_\$mhb60_f = sp_\$mhb60_f(-1)
 sp_\$mhb61_f = sp_\$mhb61_f(-1)
 sp_\$mhb62_f = sp_\$mhb62_f(-1)
 sp_\$mhb63_f = sp_\$mhb63_f(-1)
 sp_\$mhb64_f = sp_\$mhb64_f(-1)
 sp_\$mhb65_f = sp_\$mhb65_f(-1)
 sp_\$mhb66_f = sp_\$mhb66_f(-1)
 sp_\$mhb67_f = sp_\$mhb67_f(-1) * sp_\$mhb_add
 sp_\$mhb68_f = sp_\$mhb67_f(-1)
 sp_\$mhb69_f = sp_\$mhb68_f(-1)
 sp_\$mhb70_f = sp_\$mhb69_f(-1)
 sp_\$mhb71_f = sp_\$mhb70_f(-1)
 sp_\$mhb72_f = sp_\$mhb71_f(-1)
 sp_\$mhb73_f = sp_\$mhb72_f(-1)
 sp_\$mhb74_f = sp_\$mhb73_f(-1)
 sp_\$mhb75_f = sp_\$mhb74_f(-1)
 sp_\$mhb76_f = sp_\$mhb75_f(-1)
 sp_\$mhb77_f = sp_\$mhb76_f(-1)
 sp_\$mhb78_f = sp_\$mhb77_f(-1)
 sp_\$mhb79_f = sp_\$mhb78_f(-1)
 sp_\$mhb80_f = sp_\$mhb79_f(-1)
 sp_\$mhb81_f = sp_\$mhb80_f(-1)
 sp_\$mhb82_f = sp_\$mhb81_f(-1)
 sp_\$mhb83_f = sp_\$mhb82_f(-1)
 sp_\$mhb84_f = sp_\$mhb83_f(-1)
 sp_\$mhb85_f = sp_\$mhb84_f(-1)
 sp_\$mhb86_f = sp_\$mhb85_f(-1)
 sp_\$mhb87_f = sp_\$mhb86_f(-1)
 sp_\$mhb88_f = sp_\$mhb87_f(-1)
 sp_\$mhb89_f = sp_\$mhb88_f(-1)
 sp_\$mhb90_f = sp_\$mhb89_f(-1)
 sp_\$mhb91_f = sp_\$mhb90_f(-1)
 sp_\$mhb92_f = sp_\$mhb91_f(-1)
 sp_\$mhb93_f = sp_\$mhb92_f(-1)
 sp_\$mhb94_f = sp_\$mhb93_f(-1)
 sp_\$mhb95ov_f = sp_\$mhb94_f(-1) * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$mhb95ov_f(-1)

(2)年齢別一人当たり給付費対フルペンション比率

sp_\$rbbf60_m = sp_\$rbbf60_m(-1)
 sp_\$rbbf61_m = sp_\$rbbf61_m(-1)
 sp_\$rbbf62_m = sp_\$rbbf62_m(-1)
 sp_\$rbbf63_m = sp_\$rbbf63_m(-1)
 sp_\$rbbf64_m = sp_\$rbbf64_m(-1)
 sp_\$rbbf65_m = sp_\$rbbf65_m(-1)
 sp_\$rbbf66_m = sp_\$rbbf66_m(-1)
 sp_\$rbbf67_m = sp_\$rbbf67_m(-1) * sp_\$rbbf_add
 sp_\$rbbf68_m = sp_\$rbbf67_m(-1)
 sp_\$rbbf69_m = sp_\$rbbf68_m(-1)
 sp_\$rbbf70_m = sp_\$rbbf69_m(-1)
 sp_\$rbbf71_m = sp_\$rbbf70_m(-1)
 sp_\$rbbf72_m = sp_\$rbbf71_m(-1)
 sp_\$rbbf73_m = sp_\$rbbf72_m(-1)
 sp_\$rbbf74_m = sp_\$rbbf73_m(-1)
 sp_\$rbbf75_m = sp_\$rbbf74_m(-1)
 sp_\$rbbf76_m = sp_\$rbbf75_m(-1)
 sp_\$rbbf77_m = sp_\$rbbf76_m(-1)
 sp_\$rbbf78_m = sp_\$rbbf77_m(-1)
 sp_\$rbbf79_m = sp_\$rbbf78_m(-1)

sp_rbbf80_m = sp_rbbf79_m(-1)
 sp_rbbf81_m = sp_rbbf80_m(-1)
 sp_rbbf82_m = sp_rbbf81_m(-1)
 sp_rbbf83_m = sp_rbbf82_m(-1)
 sp_rbbf84_m = sp_rbbf83_m(-1)
 sp_rbbf85_m = sp_rbbf84_m(-1)
 sp_rbbf86_m = sp_rbbf85_m(-1)
 sp_rbbf87_m = sp_rbbf86_m(-1)
 sp_rbbf88_m = sp_rbbf87_m(-1)
 sp_rbbf89_m = sp_rbbf88_m(-1)
 sp_rbbf90_m = sp_rbbf89_m(-1)
 sp_rbbf91_m = sp_rbbf90_m(-1)
 sp_rbbf92_m = sp_rbbf91_m(-1)
 sp_rbbf93_m = sp_rbbf92_m(-1)
 sp_rbbf94_m = sp_rbbf93_m(-1)
 sp_rbbf95ov_m = sp_rbbf94_m(-1) * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_rbbf95ov_m(-1)

sp_rbbf60_f = sp_rbbf60_f(-1)
 sp_rbbf61_f = sp_rbbf61_f(-1)
 sp_rbbf62_f = sp_rbbf62_f(-1)
 sp_rbbf63_f = sp_rbbf63_f(-1)
 sp_rbbf64_f = sp_rbbf64_f(-1)
 sp_rbbf65_f = sp_rbbf65_f(-1)
 sp_rbbf66_f = sp_rbbf66_f(-1)
 sp_rbbf67_f = sp_rbbf67_f(-1) * sp_rbbf_add
 sp_rbbf68_f = sp_rbbf68_f(-1)
 sp_rbbf69_f = sp_rbbf69_f(-1)
 sp_rbbf70_f = sp_rbbf70_f(-1)
 sp_rbbf71_f = sp_rbbf71_f(-1)
 sp_rbbf72_f = sp_rbbf72_f(-1)
 sp_rbbf73_f = sp_rbbf73_f(-1)
 sp_rbbf74_f = sp_rbbf74_f(-1)
 sp_rbbf75_f = sp_rbbf75_f(-1)
 sp_rbbf76_f = sp_rbbf76_f(-1)
 sp_rbbf77_f = sp_rbbf77_f(-1)
 sp_rbbf78_f = sp_rbbf78_f(-1)
 sp_rbbf79_f = sp_rbbf79_f(-1)
 sp_rbbf80_f = sp_rbbf80_f(-1)
 sp_rbbf81_f = sp_rbbf81_f(-1)
 sp_rbbf82_f = sp_rbbf82_f(-1)
 sp_rbbf83_f = sp_rbbf83_f(-1)
 sp_rbbf84_f = sp_rbbf84_f(-1)
 sp_rbbf85_f = sp_rbbf85_f(-1)
 sp_rbbf86_f = sp_rbbf86_f(-1)
 sp_rbbf87_f = sp_rbbf87_f(-1)
 sp_rbbf88_f = sp_rbbf88_f(-1)
 sp_rbbf89_f = sp_rbbf89_f(-1)
 sp_rbbf90_f = sp_rbbf90_f(-1)
 sp_rbbf91_f = sp_rbbf91_f(-1)
 sp_rbbf92_f = sp_rbbf92_f(-1)
 sp_rbbf93_f = sp_rbbf93_f(-1)
 sp_rbbf94_f = sp_rbbf94_f(-1)
 sp_rbbf95ov_f = sp_rbbf94_f(-1) * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_rbbf95ov_f(-1)

'(3)年齢別給付費

sp_bb60_m = n_pop60m * sp_mbb60_m * sp_lbfz * sp_rbbf60_m
 sp_bb61_m = n_pop61m * sp_mbb61_m * sp_lbfz * sp_rbbf61_m
 sp_bb62_m = n_pop62m * sp_mbb62_m * sp_lbfz * sp_rbbf62_m
 sp_bb63_m = n_pop63m * sp_mbb63_m * sp_lbfz * sp_rbbf63_m
 sp_bb64_m = n_pop64m * sp_mbb64_m * sp_lbfz * sp_rbbf64_m
 sp_bb65_m = n_pop65m * sp_mbb65_m * sp_lbfz * sp_rbbf65_m
 sp_bb66_m = n_pop66m * sp_mbb66_m * sp_lbfz * sp_rbbf66_m
 sp_bb67_m = n_pop67m * sp_mbb67_m * sp_lbfz * sp_rbbf67_m
 sp_bb68_m = n_pop68m * sp_mbb68_m * sp_lbfz * sp_rbbf68_m
 sp_bb69_m = n_pop69m * sp_mbb69_m * sp_lbfz * sp_rbbf69_m
 sp_bb70_m = n_pop70m * sp_mbb70_m * sp_lbfz * sp_rbbf70_m

sp_bb71_m = n_pop71m * sp_\$mbb71_m * sp_lbf71 * sp_\$rbbf71_m
 sp_bb72_m = n_pop72m * sp_\$mbb72_m * sp_lbf72 * sp_\$rbbf72_m
 sp_bb73_m = n_pop73m * sp_\$mbb73_m * sp_lbf73 * sp_\$rbbf73_m
 sp_bb74_m = n_pop74m * sp_\$mbb74_m * sp_lbf74 * sp_\$rbbf74_m
 sp_bb75_m = n_pop75m * sp_\$mbb75_m * sp_lbf75 * sp_\$rbbf75_m
 sp_bb76_m = n_pop76m * sp_\$mbb76_m * sp_lbf76 * sp_\$rbbf76_m
 sp_bb77_m = n_pop77m * sp_\$mbb77_m * sp_lbf77 * sp_\$rbbf77_m
 sp_bb78_m = n_pop78m * sp_\$mbb78_m * sp_lbf78 * sp_\$rbbf78_m
 sp_bb79_m = n_pop79m * sp_\$mbb79_m * sp_lbf79 * sp_\$rbbf79_m
 sp_bb80_m = n_pop80m * sp_\$mbb80_m * sp_lbf80 * sp_\$rbbf80_m
 sp_bb81_m = n_pop81m * sp_\$mbb81_m * sp_lbf81 * sp_\$rbbf81_m
 sp_bb82_m = n_pop82m * sp_\$mbb82_m * sp_lbf82 * sp_\$rbbf82_m
 sp_bb83_m = n_pop83m * sp_\$mbb83_m * sp_lbf83 * sp_\$rbbf83_m
 sp_bb84_m = n_pop84m * sp_\$mbb84_m * sp_lbf84 * sp_\$rbbf84_m
 sp_bb85_m = n_pop85m * sp_\$mbb85_m * sp_lbf85 * sp_\$rbbf85_m
 sp_bb86_m = n_pop86m * sp_\$mbb86_m * sp_lbf86 * sp_\$rbbf86_m
 sp_bb87_m = n_pop87m * sp_\$mbb87_m * sp_lbf87 * sp_\$rbbf87_m
 sp_bb88_m = n_pop88m * sp_\$mbb88_m * sp_lbf88 * sp_\$rbbf88_m
 sp_bb89_m = n_pop89m * sp_\$mbb89_m * sp_lbf89 * sp_\$rbbf89_m
 sp_bb90_m = n_pop90m * sp_\$mbb90_m * sp_lbf90 * sp_\$rbbf90_m
 sp_bb91_m = n_pop91m * sp_\$mbb91_m * sp_lbf91 * sp_\$rbbf91_m
 sp_bb92_m = n_pop92m * sp_\$mbb92_m * sp_lbf92 * sp_\$rbbf92_m
 sp_bb93_m = n_pop93m * sp_\$mbb93_m * sp_lbf93 * sp_\$rbbf93_m
 sp_bb94_m = n_pop94m * sp_\$mbb94_m * sp_lbf94 * sp_\$rbbf94_m
 sp_bb95ov_m = n_pop95ovm * sp_\$mbb95ov_m * sp_lbf95ov * sp_\$rbbf95ov_m

sp_bb60_f = n_pop60f * sp_\$mbb60_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf60_f
 sp_bb61_f = n_pop61f * sp_\$mbb61_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf61_f
 sp_bb62_f = n_pop62f * sp_\$mbb62_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf62_f
 sp_bb63_f = n_pop63f * sp_\$mbb63_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf63_f
 sp_bb64_f = n_pop64f * sp_\$mbb64_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf64_f
 sp_bb65_f = n_pop65f * sp_\$mbb65_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf65_f
 sp_bb66_f = n_pop66f * sp_\$mbb66_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf66_f
 sp_bb67_f = n_pop67f * sp_\$mbb67_f * sp_lbfz * sp_\$rbbf67_f
 sp_bb68_f = n_pop68f * sp_\$mbb68_f * sp_lbf68 * sp_\$rbbf68_f
 sp_bb69_f = n_pop69f * sp_\$mbb69_f * sp_lbf69 * sp_\$rbbf69_f
 sp_bb70_f = n_pop70f * sp_\$mbb70_f * sp_lbf70 * sp_\$rbbf70_f
 sp_bb71_f = n_pop71f * sp_\$mbb71_f * sp_lbf71 * sp_\$rbbf71_f
 sp_bb72_f = n_pop72f * sp_\$mbb72_f * sp_lbf72 * sp_\$rbbf72_f
 sp_bb73_f = n_pop73f * sp_\$mbb73_f * sp_lbf73 * sp_\$rbbf73_f
 sp_bb74_f = n_pop74f * sp_\$mbb74_f * sp_lbf74 * sp_\$rbbf74_f
 sp_bb75_f = n_pop75f * sp_\$mbb75_f * sp_lbf75 * sp_\$rbbf75_f
 sp_bb76_f = n_pop76f * sp_\$mbb76_f * sp_lbf76 * sp_\$rbbf76_f
 sp_bb77_f = n_pop77f * sp_\$mbb77_f * sp_lbf77 * sp_\$rbbf77_f
 sp_bb78_f = n_pop78f * sp_\$mbb78_f * sp_lbf78 * sp_\$rbbf78_f
 sp_bb79_f = n_pop79f * sp_\$mbb79_f * sp_lbf79 * sp_\$rbbf79_f
 sp_bb80_f = n_pop80f * sp_\$mbb80_f * sp_lbf80 * sp_\$rbbf80_f
 sp_bb81_f = n_pop81f * sp_\$mbb81_f * sp_lbf81 * sp_\$rbbf81_f
 sp_bb82_f = n_pop82f * sp_\$mbb82_f * sp_lbf82 * sp_\$rbbf82_f
 sp_bb83_f = n_pop83f * sp_\$mbb83_f * sp_lbf83 * sp_\$rbbf83_f
 sp_bb84_f = n_pop84f * sp_\$mbb84_f * sp_lbf84 * sp_\$rbbf84_f
 sp_bb85_f = n_pop85f * sp_\$mbb85_f * sp_lbf85 * sp_\$rbbf85_f
 sp_bb86_f = n_pop86f * sp_\$mbb86_f * sp_lbf86 * sp_\$rbbf86_f
 sp_bb87_f = n_pop87f * sp_\$mbb87_f * sp_lbf87 * sp_\$rbbf87_f
 sp_bb88_f = n_pop88f * sp_\$mbb88_f * sp_lbf88 * sp_\$rbbf88_f
 sp_bb89_f = n_pop89f * sp_\$mbb89_f * sp_lbf89 * sp_\$rbbf89_f
 sp_bb90_f = n_pop90f * sp_\$mbb90_f * sp_lbf90 * sp_\$rbbf90_f
 sp_bb91_f = n_pop91f * sp_\$mbb91_f * sp_lbf91 * sp_\$rbbf91_f
 sp_bb92_f = n_pop92f * sp_\$mbb92_f * sp_lbf92 * sp_\$rbbf92_f
 sp_bb93_f = n_pop93f * sp_\$mbb93_f * sp_lbf93 * sp_\$rbbf93_f
 sp_bb94_f = n_pop94f * sp_\$mbb94_f * sp_lbf94 * sp_\$rbbf94_f
 sp_bb95ov_f = n_pop95ovf * sp_\$mbb95ov_f * sp_lbf95ov * sp_\$rbbf95ov_f

(4)給付費

sp_bb_m = sp_bb60_m + sp_bb61_m + sp_bb62_m + sp_bb63_m + sp_bb64_m + sp_bb65_m + sp_bb66_m + sp_bb67_m +
 sp_bb68_m + sp_bb69_m + sp_bb70_m + sp_bb71_m + sp_bb72_m + sp_bb73_m + sp_bb74_m + sp_bb75_m + sp_bb76_m +

sp_bb77_m + sp_bb78_m + sp_bb79_m + sp_bb80_m + sp_bb81_m + sp_bb82_m + sp_bb83_m + sp_bb84_m + sp_bb85_m +
sp_bb86_m + sp_bb87_m + sp_bb88_m + sp_bb89_m + sp_bb90_m + sp_bb91_m + sp_bb92_m + sp_bb93_m + sp_bb94_m +
sp_bb95ov_m

sp_bb_f = sp_bb60_f + sp_bb61_f + sp_bb62_f + sp_bb63_f + sp_bb64_f + sp_bb65_f + sp_bb66_f + sp_bb67_f + sp_bb68_f +
sp_bb69_f + sp_bb70_f + sp_bb71_f + sp_bb72_f + sp_bb73_f + sp_bb74_f + sp_bb75_f + sp_bb76_f + sp_bb77_f + sp_bb78_f +
sp_bb79_f + sp_bb80_f + sp_bb81_f + sp_bb82_f + sp_bb83_f + sp_bb84_f + sp_bb85_f + sp_bb86_f + sp_bb87_f + sp_bb88_f +
sp_bb89_f + sp_bb90_f + sp_bb91_f + sp_bb92_f + sp_bb93_f + sp_bb94_f + sp_bb95ov_f

sp_bb = sp_bb_m + sp_bb_f

'(5)受給権者数

sp_nbb_m = n_pop60m * sp_\$mbb60_m + n_pop61m * sp_\$mbb61_m + n_pop62m * sp_\$mbb62_m + n_pop63m * sp_\$mbb63_m +
n_pop64m * sp_\$mbb64_m + n_pop65m * sp_\$mbb65_m + n_pop66m * sp_\$mbb66_m + n_pop67m * sp_\$mbb67_m + n_pop68m *
sp_\$mbb68_m + n_pop69m * sp_\$mbb69_m + n_pop70m * sp_\$mbb70_m + n_pop71m * sp_\$mbb71_m + n_pop72m * sp_\$mbb72_m
+ n_pop73m * sp_\$mbb73_m + n_pop74m * sp_\$mbb74_m + n_pop75m * sp_\$mbb75_m + n_pop76m * sp_\$mbb76_m + n_pop77m *
sp_\$mbb77_m + n_pop78m * sp_\$mbb78_m + n_pop79m * sp_\$mbb79_m + n_pop80m * sp_\$mbb80_m + n_pop81m * sp_\$mbb81_m
+ n_pop82m * sp_\$mbb82_m + n_pop83m * sp_\$mbb83_m + n_pop84m * sp_\$mbb84_m + n_pop85m * sp_\$mbb85_m + n_pop86m *
sp_\$mbb86_m + n_pop87m * sp_\$mbb87_m + n_pop88m * sp_\$mbb88_m + n_pop89m * sp_\$mbb89_m + n_pop90m * sp_\$mbb90_m
+ n_pop91m * sp_\$mbb91_m + n_pop92m * sp_\$mbb92_m + n_pop93m * sp_\$mbb93_m + n_pop94m * sp_\$mbb94_m + n_pop95ovm
* sp_\$mbb95ov_m

sp_nbb_f = n_pop60f * sp_\$mbb60_f + n_pop61f * sp_\$mbb61_f + n_pop62f * sp_\$mbb62_f + n_pop63f * sp_\$mbb63_f + n_pop64f *
sp_\$mbb64_f + n_pop65f * sp_\$mbb65_f + n_pop66f * sp_\$mbb66_f + n_pop67f * sp_\$mbb67_f + n_pop68f * sp_\$mbb68_f + n_pop69f
* sp_\$mbb69_f + n_pop70f * sp_\$mbb70_f + n_pop71f * sp_\$mbb71_f + n_pop72f * sp_\$mbb72_f + n_pop73f * sp_\$mbb73_f +
n_pop74f * sp_\$mbb74_f + n_pop75f * sp_\$mbb75_f + n_pop76f * sp_\$mbb76_f + n_pop77f * sp_\$mbb77_f + n_pop78f * sp_\$mbb78_f
+ n_pop79f * sp_\$mbb79_f + n_pop80f * sp_\$mbb80_f + n_pop81f * sp_\$mbb81_f + n_pop82f * sp_\$mbb82_f + n_pop83f *
sp_\$mbb83_f + n_pop84f * sp_\$mbb84_f + n_pop85f * sp_\$mbb85_f + n_pop86f * sp_\$mbb86_f + n_pop87f * sp_\$mbb87_f + n_pop88f
* sp_\$mbb88_f + n_pop89f * sp_\$mbb89_f + n_pop90f * sp_\$mbb90_f + n_pop91f * sp_\$mbb91_f + n_pop92f * sp_\$mbb92_f +
n_pop93f * sp_\$mbb93_f + n_pop94f * sp_\$mbb94_f + n_pop95ovf * sp_\$mbb95ov_f

sp_nbb = sp_nbb_m + sp_nbb_f

'③みなし基礎年金給付額

sp_bbon = sp_bbonx * sp_rbfo_adj

sp_bboe = sp_bboex * sp_rbfo_adj

sp_bbocg = sp_bbocgx * sp_rbfo_adj

sp_bbolg = sp_bbolgx * sp_rbfo_adj

sp_bbosg = sp_bbosgx * sp_rbfo_adj

sp_bbo = sp_bbon + sp_bboe + sp_bbocg + sp_bbolg + sp_bbosg

'④障害基礎年金・遺族基礎年金給付費（新法）

sp_bbsd = sp_\$rbsd * sp_bb

'⑤基礎年金給付費（みなし基礎年金を含む）

sp_bba = (sp_bb + sp_bbo + sp_bbsd) * sp_\$rbr

'B 厚生年金

'①物価スライド特例を踏まえた改定基準の決定

'(1)物価スライド特例水準指数

sp_le_sp_ref = (e_cpicy(-1) / e_cpicy(-2)) * sp_le_sp_ref(-1)

sp_le_sp = @recode(sp_le_sp(-1)>sp_le_sp_ref , sp_le_sp_ref , sp_le_sp(-1))

'(2)本来水準指数候補（マクロスライドなし）

sp_lez_xm = sp_lez_o(-1) * sp_rze_xm

```

sp_le68_xm = sp_lez_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le69_xm = sp_le68_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le70_xm = sp_le69_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le71_xm = sp_le70_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le72_xm = sp_le71_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le73_xm = sp_le72_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le74_xm = sp_le73_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le75_xm = sp_le74_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le76_xm = sp_le75_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le77_xm = sp_le76_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le78_xm = sp_le77_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le79_xm = sp_le78_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le80_xm = sp_le79_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le81_xm = sp_le80_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le82_xm = sp_le81_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le83_xm = sp_le82_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le84_xm = sp_le83_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le85_xm = sp_le84_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le86_xm = sp_le85_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le87_xm = sp_le86_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le88_xm = sp_le87_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le89_xm = sp_le88_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le90_xm = sp_le89_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le91_xm = sp_le90_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le92_xm = sp_le91_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le93_xm = sp_le92_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le94_xm = sp_le93_o(-1) * sp_rxe_xm
sp_le95ov_xm = sp_le94_o(-1) * sp_rxe_xm * sp_r95 + (1 - sp_r95) * sp_le95ov_o(-1) * sp_rxe_xm

```

'(3)本来水準指数候補 (マクロスライドあり)

```

sp_lez_wm = sp_lez_o(-1) * sp_rze_m
sp_le68_wm = sp_lez_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le69_wm = sp_le68_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le70_wm = sp_le69_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le71_wm = sp_le70_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le72_wm = sp_le71_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le73_wm = sp_le72_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le74_wm = sp_le73_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le75_wm = sp_le74_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le76_wm = sp_le75_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le77_wm = sp_le76_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le78_wm = sp_le77_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le79_wm = sp_le78_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le80_wm = sp_le79_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le81_wm = sp_le80_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le82_wm = sp_le81_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le83_wm = sp_le82_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le84_wm = sp_le83_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le85_wm = sp_le84_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le86_wm = sp_le85_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le87_wm = sp_le86_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le88_wm = sp_le87_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le89_wm = sp_le88_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le90_wm = sp_le89_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le91_wm = sp_le90_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le92_wm = sp_le91_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le93_wm = sp_le92_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le94_wm = sp_le93_o(-1) * sp_rxe_m
sp_le95ov_wm = sp_le94_o(-1) * sp_rxe_m * sp_r95 + (1 - sp_r95) * sp_le95ov_o(-1) * sp_rxe_m

```

'(4)本来水準指数

```

sp_lez_o = @recode(sp_le_sp>sp_lez_xm , sp_lez_xm , @recode(sp_lez_wm>sp_le_sp , sp_lez_wm , sp_le_sp))
sp_le68_o = @recode(sp_le_sp>sp_le68_xm , sp_le68_xm , @recode(sp_le68_wm>sp_le_sp , sp_le68_wm , sp_le_sp))
sp_le69_o = @recode(sp_le_sp>sp_le69_xm , sp_le69_xm , @recode(sp_le69_wm>sp_le_sp , sp_le69_wm , sp_le_sp))
sp_le70_o = @recode(sp_le_sp>sp_le70_xm , sp_le70_xm , @recode(sp_le70_wm>sp_le_sp , sp_le70_wm , sp_le_sp))

```

```

sp_le71_o = @recode(sp_le_sp>sp_le71_xm , sp_le71_xm , @recode(sp_le71_wm>sp_le_sp , sp_le71_wm , sp_le_sp))
sp_le72_o = @recode(sp_le_sp>sp_le72_xm , sp_le72_xm , @recode(sp_le72_wm>sp_le_sp , sp_le72_wm , sp_le_sp))
sp_le73_o = @recode(sp_le_sp>sp_le73_xm , sp_le73_xm , @recode(sp_le73_wm>sp_le_sp , sp_le73_wm , sp_le_sp))
sp_le74_o = @recode(sp_le_sp>sp_le74_xm , sp_le74_xm , @recode(sp_le74_wm>sp_le_sp , sp_le74_wm , sp_le_sp))
sp_le75_o = @recode(sp_le_sp>sp_le75_xm , sp_le75_xm , @recode(sp_le75_wm>sp_le_sp , sp_le75_wm , sp_le_sp))
sp_le76_o = @recode(sp_le_sp>sp_le76_xm , sp_le76_xm , @recode(sp_le76_wm>sp_le_sp , sp_le76_wm , sp_le_sp))
sp_le77_o = @recode(sp_le_sp>sp_le77_xm , sp_le77_xm , @recode(sp_le77_wm>sp_le_sp , sp_le77_wm , sp_le_sp))
sp_le78_o = @recode(sp_le_sp>sp_le78_xm , sp_le78_xm , @recode(sp_le78_wm>sp_le_sp , sp_le78_wm , sp_le_sp))
sp_le79_o = @recode(sp_le_sp>sp_le79_xm , sp_le79_xm , @recode(sp_le79_wm>sp_le_sp , sp_le79_wm , sp_le_sp))
sp_le80_o = @recode(sp_le_sp>sp_le80_xm , sp_le80_xm , @recode(sp_le80_wm>sp_le_sp , sp_le80_wm , sp_le_sp))
sp_le81_o = @recode(sp_le_sp>sp_le81_xm , sp_le81_xm , @recode(sp_le81_wm>sp_le_sp , sp_le81_wm , sp_le_sp))
sp_le82_o = @recode(sp_le_sp>sp_le82_xm , sp_le82_xm , @recode(sp_le82_wm>sp_le_sp , sp_le82_wm , sp_le_sp))
sp_le83_o = @recode(sp_le_sp>sp_le83_xm , sp_le83_xm , @recode(sp_le83_wm>sp_le_sp , sp_le83_wm , sp_le_sp))
sp_le84_o = @recode(sp_le_sp>sp_le84_xm , sp_le84_xm , @recode(sp_le84_wm>sp_le_sp , sp_le84_wm , sp_le_sp))
sp_le85_o = @recode(sp_le_sp>sp_le85_xm , sp_le85_xm , @recode(sp_le85_wm>sp_le_sp , sp_le85_wm , sp_le_sp))
sp_le86_o = @recode(sp_le_sp>sp_le86_xm , sp_le86_xm , @recode(sp_le86_wm>sp_le_sp , sp_le86_wm , sp_le_sp))
sp_le87_o = @recode(sp_le_sp>sp_le87_xm , sp_le87_xm , @recode(sp_le87_wm>sp_le_sp , sp_le87_wm , sp_le_sp))
sp_le88_o = @recode(sp_le_sp>sp_le88_xm , sp_le88_xm , @recode(sp_le88_wm>sp_le_sp , sp_le88_wm , sp_le_sp))
sp_le89_o = @recode(sp_le_sp>sp_le89_xm , sp_le89_xm , @recode(sp_le89_wm>sp_le_sp , sp_le89_wm , sp_le_sp))
sp_le90_o = @recode(sp_le_sp>sp_le90_xm , sp_le90_xm , @recode(sp_le90_wm>sp_le_sp , sp_le90_wm , sp_le_sp))
sp_le91_o = @recode(sp_le_sp>sp_le91_xm , sp_le91_xm , @recode(sp_le91_wm>sp_le_sp , sp_le91_wm , sp_le_sp))
sp_le92_o = @recode(sp_le_sp>sp_le92_xm , sp_le92_xm , @recode(sp_le92_wm>sp_le_sp , sp_le92_wm , sp_le_sp))
sp_le93_o = @recode(sp_le_sp>sp_le93_xm , sp_le93_xm , @recode(sp_le93_wm>sp_le_sp , sp_le93_wm , sp_le_sp))
sp_le94_o = @recode(sp_le_sp>sp_le94_xm , sp_le94_xm , @recode(sp_le94_wm>sp_le_sp , sp_le94_wm , sp_le_sp))
sp_le95ov_o = @recode(sp_le_sp>sp_le95ov_xm , sp_le95ov_xm , @recode(sp_le95ov_wm>sp_le_sp , sp_le95ov_wm , sp_le_sp))

```

'(5)給付水準 (改定基準計算用)

```

sp_lez = @recode(sp_le_sp>sp_lez_o , sp_le_sp , sp_lez_o)
sp_le68 = @recode(sp_le_sp>sp_le68_o , sp_le_sp , sp_le68_o)
sp_le69 = @recode(sp_le_sp>sp_le69_o , sp_le_sp , sp_le69_o)
sp_le70 = @recode(sp_le_sp>sp_le70_o , sp_le_sp , sp_le70_o)
sp_le71 = @recode(sp_le_sp>sp_le71_o , sp_le_sp , sp_le71_o)
sp_le72 = @recode(sp_le_sp>sp_le72_o , sp_le_sp , sp_le72_o)
sp_le73 = @recode(sp_le_sp>sp_le73_o , sp_le_sp , sp_le73_o)
sp_le74 = @recode(sp_le_sp>sp_le74_o , sp_le_sp , sp_le74_o)
sp_le75 = @recode(sp_le_sp>sp_le75_o , sp_le_sp , sp_le75_o)
sp_le76 = @recode(sp_le_sp>sp_le76_o , sp_le_sp , sp_le76_o)
sp_le77 = @recode(sp_le_sp>sp_le77_o , sp_le_sp , sp_le77_o)
sp_le78 = @recode(sp_le_sp>sp_le78_o , sp_le_sp , sp_le78_o)
sp_le79 = @recode(sp_le_sp>sp_le79_o , sp_le_sp , sp_le79_o)
sp_le80 = @recode(sp_le_sp>sp_le80_o , sp_le_sp , sp_le80_o)
sp_le81 = @recode(sp_le_sp>sp_le81_o , sp_le_sp , sp_le81_o)
sp_le82 = @recode(sp_le_sp>sp_le82_o , sp_le_sp , sp_le82_o)
sp_le83 = @recode(sp_le_sp>sp_le83_o , sp_le_sp , sp_le83_o)
sp_le84 = @recode(sp_le_sp>sp_le84_o , sp_le_sp , sp_le84_o)
sp_le85 = @recode(sp_le_sp>sp_le85_o , sp_le_sp , sp_le85_o)
sp_le86 = @recode(sp_le_sp>sp_le86_o , sp_le_sp , sp_le86_o)
sp_le87 = @recode(sp_le_sp>sp_le87_o , sp_le_sp , sp_le87_o)
sp_le88 = @recode(sp_le_sp>sp_le88_o , sp_le_sp , sp_le88_o)
sp_le89 = @recode(sp_le_sp>sp_le89_o , sp_le_sp , sp_le89_o)
sp_le90 = @recode(sp_le_sp>sp_le90_o , sp_le_sp , sp_le90_o)
sp_le91 = @recode(sp_le_sp>sp_le91_o , sp_le_sp , sp_le91_o)
sp_le92 = @recode(sp_le_sp>sp_le92_o , sp_le_sp , sp_le92_o)
sp_le93 = @recode(sp_le_sp>sp_le93_o , sp_le_sp , sp_le93_o)
sp_le94 = @recode(sp_le_sp>sp_le94_o , sp_le_sp , sp_le94_o)
sp_le95ov = @recode(sp_le_sp>sp_le95ov_o , sp_le_sp , sp_le95ov_o)

```

'(6)改定基準

```

sp_rez = sp_lez / sp_lez(-1)
sp_re68 = sp_le68 / sp_lez(-1)
sp_re69 = sp_le69 / sp_le68(-1)
sp_re70 = sp_le70 / sp_le69(-1)
sp_re71 = sp_le71 / sp_le70(-1)
sp_re72 = sp_le72 / sp_le71(-1)
sp_re73 = sp_le73 / sp_le72(-1)

```

$sp_re74 = sp_le74 / sp_le73(-1)$
 $sp_re75 = sp_le75 / sp_le74(-1)$
 $sp_re76 = sp_le76 / sp_le75(-1)$
 $sp_re77 = sp_le77 / sp_le76(-1)$
 $sp_re78 = sp_le78 / sp_le77(-1)$
 $sp_re79 = sp_le79 / sp_le78(-1)$
 $sp_re80 = sp_le80 / sp_le79(-1)$
 $sp_re81 = sp_le81 / sp_le80(-1)$
 $sp_re82 = sp_le82 / sp_le81(-1)$
 $sp_re83 = sp_le83 / sp_le82(-1)$
 $sp_re84 = sp_le84 / sp_le83(-1)$
 $sp_re85 = sp_le85 / sp_le84(-1)$
 $sp_re86 = sp_le86 / sp_le85(-1)$
 $sp_re87 = sp_le87 / sp_le86(-1)$
 $sp_re88 = sp_le88 / sp_le87(-1)$
 $sp_re89 = sp_le89 / sp_le88(-1)$
 $sp_re90 = sp_le90 / sp_le89(-1)$
 $sp_re91 = sp_le91 / sp_le90(-1)$
 $sp_re92 = sp_le92 / sp_le91(-1)$
 $sp_re93 = sp_le93 / sp_le92(-1)$
 $sp_re94 = sp_le94 / sp_le93(-1)$
 $sp_re95ov = sp_le95ov / sp_le95ov(-1)$

②老齡厚生年金・老齡相当

(1)年齡別受給權者対人口比率

$sp_\$me65_m = sp_\$me65_m(-1)$
 $sp_\$me66_m = sp_\$me66_m(-1)$
 $sp_\$me67_m = sp_\$me67_m(-1) * sp_\$me_add$
 $sp_\$me68_m = sp_\$me67_m(-1)$
 $sp_\$me69_m = sp_\$me68_m(-1)$
 $sp_\$me70_m = sp_\$me69_m(-1)$
 $sp_\$me71_m = sp_\$me70_m(-1)$
 $sp_\$me72_m = sp_\$me71_m(-1)$
 $sp_\$me73_m = sp_\$me72_m(-1)$
 $sp_\$me74_m = sp_\$me73_m(-1)$
 $sp_\$me75_m = sp_\$me74_m(-1)$
 $sp_\$me76_m = sp_\$me75_m(-1)$
 $sp_\$me77_m = sp_\$me76_m(-1)$
 $sp_\$me78_m = sp_\$me77_m(-1)$
 $sp_\$me79_m = sp_\$me78_m(-1)$
 $sp_\$me80_m = sp_\$me79_m(-1)$
 $sp_\$me81_m = sp_\$me80_m(-1)$
 $sp_\$me82_m = sp_\$me81_m(-1)$
 $sp_\$me83_m = sp_\$me82_m(-1)$
 $sp_\$me84_m = sp_\$me83_m(-1)$
 $sp_\$me85_m = sp_\$me84_m(-1)$
 $sp_\$me86_m = sp_\$me85_m(-1)$
 $sp_\$me87_m = sp_\$me86_m(-1)$
 $sp_\$me88_m = sp_\$me87_m(-1)$
 $sp_\$me89_m = sp_\$me88_m(-1)$
 $sp_\$me90_m = sp_\$me89_m(-1)$
 $sp_\$me91_m = sp_\$me90_m(-1)$
 $sp_\$me92_m = sp_\$me91_m(-1)$
 $sp_\$me93_m = sp_\$me92_m(-1)$
 $sp_\$me94_m = sp_\$me93_m(-1)$
 $sp_\$me95ov_m = sp_\$me94_m(-1) * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$me95ov_m(-1)$

$sp_\$me65_f = sp_\$me65_f(-1)$
 $sp_\$me66_f = sp_\$me66_f(-1)$
 $sp_\$me67_f = sp_\$me67_f(-1) * sp_\$me_add$
 $sp_\$me68_f = sp_\$me67_f(-1)$
 $sp_\$me69_f = sp_\$me68_f(-1)$
 $sp_\$me70_f = sp_\$me69_f(-1)$
 $sp_\$me71_f = sp_\$me70_f(-1)$
 $sp_\$me72_f = sp_\$me71_f(-1)$
 $sp_\$me73_f = sp_\$me72_f(-1)$

sp_\$\$me74_f = sp_\$\$me73_f(-1)
 sp_\$\$me75_f = sp_\$\$me74_f(-1)
 sp_\$\$me76_f = sp_\$\$me75_f(-1)
 sp_\$\$me77_f = sp_\$\$me76_f(-1)
 sp_\$\$me78_f = sp_\$\$me77_f(-1)
 sp_\$\$me79_f = sp_\$\$me78_f(-1)
 sp_\$\$me80_f = sp_\$\$me79_f(-1)
 sp_\$\$me81_f = sp_\$\$me80_f(-1)
 sp_\$\$me82_f = sp_\$\$me81_f(-1)
 sp_\$\$me83_f = sp_\$\$me82_f(-1)
 sp_\$\$me84_f = sp_\$\$me83_f(-1)
 sp_\$\$me85_f = sp_\$\$me84_f(-1)
 sp_\$\$me86_f = sp_\$\$me85_f(-1)
 sp_\$\$me87_f = sp_\$\$me86_f(-1)
 sp_\$\$me88_f = sp_\$\$me87_f(-1)
 sp_\$\$me89_f = sp_\$\$me88_f(-1)
 sp_\$\$me90_f = sp_\$\$me89_f(-1)
 sp_\$\$me91_f = sp_\$\$me90_f(-1)
 sp_\$\$me92_f = sp_\$\$me91_f(-1)
 sp_\$\$me93_f = sp_\$\$me92_f(-1)
 sp_\$\$me94_f = sp_\$\$me93_f(-1)
 sp_\$\$me95ov_f = sp_\$\$me94_f(-1) * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$\$me95ov_f(-1)

(2)年齢別平均年金給付額

sp_\$\$pe65_m = sp_\$\$pe65_m(-1) * sp_rez
 sp_\$\$pe66_m = sp_\$\$pe66_m(-1) * sp_rez
 sp_\$\$pe67_m = sp_\$\$pe67_m(-1) * sp_rez
 sp_\$\$pe68_m = sp_\$\$pe67_m(-1) * sp_re68
 sp_\$\$pe69_m = sp_\$\$pe68_m(-1) * sp_re69
 sp_\$\$pe70_m = sp_\$\$pe69_m(-1) * sp_re70
 sp_\$\$pe71_m = sp_\$\$pe70_m(-1) * sp_re71
 sp_\$\$pe72_m = sp_\$\$pe71_m(-1) * sp_re72
 sp_\$\$pe73_m = sp_\$\$pe72_m(-1) * sp_re73
 sp_\$\$pe74_m = sp_\$\$pe73_m(-1) * sp_re74
 sp_\$\$pe75_m = sp_\$\$pe74_m(-1) * sp_re75
 sp_\$\$pe76_m = sp_\$\$pe75_m(-1) * sp_re76
 sp_\$\$pe77_m = sp_\$\$pe76_m(-1) * sp_re77
 sp_\$\$pe78_m = sp_\$\$pe77_m(-1) * sp_re78
 sp_\$\$pe79_m = sp_\$\$pe78_m(-1) * sp_re79
 sp_\$\$pe80_m = sp_\$\$pe79_m(-1) * sp_re80
 sp_\$\$pe81_m = sp_\$\$pe80_m(-1) * sp_re81
 sp_\$\$pe82_m = sp_\$\$pe81_m(-1) * sp_re82
 sp_\$\$pe83_m = sp_\$\$pe82_m(-1) * sp_re83
 sp_\$\$pe84_m = sp_\$\$pe83_m(-1) * sp_re84
 sp_\$\$pe85_m = sp_\$\$pe84_m(-1) * sp_re85
 sp_\$\$pe86_m = sp_\$\$pe85_m(-1) * sp_re86
 sp_\$\$pe87_m = sp_\$\$pe86_m(-1) * sp_re87
 sp_\$\$pe88_m = sp_\$\$pe87_m(-1) * sp_re88
 sp_\$\$pe89_m = sp_\$\$pe88_m(-1) * sp_re89
 sp_\$\$pe90_m = sp_\$\$pe89_m(-1) * sp_re90
 sp_\$\$pe91_m = sp_\$\$pe90_m(-1) * sp_re91
 sp_\$\$pe92_m = sp_\$\$pe91_m(-1) * sp_re92
 sp_\$\$pe93_m = sp_\$\$pe92_m(-1) * sp_re93
 sp_\$\$pe94_m = sp_\$\$pe93_m(-1) * sp_re94
 sp_\$\$pe95ov_m = sp_\$\$pe94_m(-1) * sp_re95ov + (1 - sp_r95_m) * sp_\$\$pe95ov_m(-1) * sp_re95ov

sp_\$\$pe65_f = sp_\$\$pe65_f(-1) * sp_rez
 sp_\$\$pe66_f = sp_\$\$pe66_f(-1) * sp_rez
 sp_\$\$pe67_f = sp_\$\$pe67_f(-1) * sp_rez
 sp_\$\$pe68_f = sp_\$\$pe67_f(-1) * sp_re68
 sp_\$\$pe69_f = sp_\$\$pe68_f(-1) * sp_re69
 sp_\$\$pe70_f = sp_\$\$pe69_f(-1) * sp_re70
 sp_\$\$pe71_f = sp_\$\$pe70_f(-1) * sp_re71
 sp_\$\$pe72_f = sp_\$\$pe71_f(-1) * sp_re72
 sp_\$\$pe73_f = sp_\$\$pe72_f(-1) * sp_re73
 sp_\$\$pe74_f = sp_\$\$pe73_f(-1) * sp_re74

sp_\$\$pe75_f = sp_\$\$pe74_f(-1) * sp_re75
 sp_\$\$pe76_f = sp_\$\$pe75_f(-1) * sp_re76
 sp_\$\$pe77_f = sp_\$\$pe76_f(-1) * sp_re77
 sp_\$\$pe78_f = sp_\$\$pe77_f(-1) * sp_re78
 sp_\$\$pe79_f = sp_\$\$pe78_f(-1) * sp_re79
 sp_\$\$pe80_f = sp_\$\$pe79_f(-1) * sp_re80
 sp_\$\$pe81_f = sp_\$\$pe80_f(-1) * sp_re81
 sp_\$\$pe82_f = sp_\$\$pe81_f(-1) * sp_re82
 sp_\$\$pe83_f = sp_\$\$pe82_f(-1) * sp_re83
 sp_\$\$pe84_f = sp_\$\$pe83_f(-1) * sp_re84
 sp_\$\$pe85_f = sp_\$\$pe84_f(-1) * sp_re85
 sp_\$\$pe86_f = sp_\$\$pe85_f(-1) * sp_re86
 sp_\$\$pe87_f = sp_\$\$pe86_f(-1) * sp_re87
 sp_\$\$pe88_f = sp_\$\$pe87_f(-1) * sp_re88
 sp_\$\$pe89_f = sp_\$\$pe88_f(-1) * sp_re89
 sp_\$\$pe90_f = sp_\$\$pe89_f(-1) * sp_re90
 sp_\$\$pe91_f = sp_\$\$pe90_f(-1) * sp_re91
 sp_\$\$pe92_f = sp_\$\$pe91_f(-1) * sp_re92
 sp_\$\$pe93_f = sp_\$\$pe92_f(-1) * sp_re93
 sp_\$\$pe94_f = sp_\$\$pe93_f(-1) * sp_re94
 sp_\$\$pe95ov_f = sp_\$\$pe94_f(-1) * sp_re95ov * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$\$pe95ov_f(-1) * sp_re95ov

'(3)年齢別年金給付費

sp_be65_m = n_pop65m * sp_\$\$me65_m * sp_\$\$pe65_m
 sp_be66_m = n_pop66m * sp_\$\$me66_m * sp_\$\$pe66_m
 sp_be67_m = n_pop67m * sp_\$\$me67_m * sp_\$\$pe67_m
 sp_be68_m = n_pop68m * sp_\$\$me68_m * sp_\$\$pe68_m
 sp_be69_m = n_pop69m * sp_\$\$me69_m * sp_\$\$pe69_m
 sp_be70_m = n_pop70m * sp_\$\$me70_m * sp_\$\$pe70_m
 sp_be71_m = n_pop71m * sp_\$\$me71_m * sp_\$\$pe71_m
 sp_be72_m = n_pop72m * sp_\$\$me72_m * sp_\$\$pe72_m
 sp_be73_m = n_pop73m * sp_\$\$me73_m * sp_\$\$pe73_m
 sp_be74_m = n_pop74m * sp_\$\$me74_m * sp_\$\$pe74_m
 sp_be75_m = n_pop75m * sp_\$\$me75_m * sp_\$\$pe75_m
 sp_be76_m = n_pop76m * sp_\$\$me76_m * sp_\$\$pe76_m
 sp_be77_m = n_pop77m * sp_\$\$me77_m * sp_\$\$pe77_m
 sp_be78_m = n_pop78m * sp_\$\$me78_m * sp_\$\$pe78_m
 sp_be79_m = n_pop79m * sp_\$\$me79_m * sp_\$\$pe79_m
 sp_be80_m = n_pop80m * sp_\$\$me80_m * sp_\$\$pe80_m
 sp_be81_m = n_pop81m * sp_\$\$me81_m * sp_\$\$pe81_m
 sp_be82_m = n_pop82m * sp_\$\$me82_m * sp_\$\$pe82_m
 sp_be83_m = n_pop83m * sp_\$\$me83_m * sp_\$\$pe83_m
 sp_be84_m = n_pop84m * sp_\$\$me84_m * sp_\$\$pe84_m
 sp_be85_m = n_pop85m * sp_\$\$me85_m * sp_\$\$pe85_m
 sp_be86_m = n_pop86m * sp_\$\$me86_m * sp_\$\$pe86_m
 sp_be87_m = n_pop87m * sp_\$\$me87_m * sp_\$\$pe87_m
 sp_be88_m = n_pop88m * sp_\$\$me88_m * sp_\$\$pe88_m
 sp_be89_m = n_pop89m * sp_\$\$me89_m * sp_\$\$pe89_m
 sp_be90_m = n_pop90m * sp_\$\$me90_m * sp_\$\$pe90_m
 sp_be91_m = n_pop91m * sp_\$\$me91_m * sp_\$\$pe91_m
 sp_be92_m = n_pop92m * sp_\$\$me92_m * sp_\$\$pe92_m
 sp_be93_m = n_pop93m * sp_\$\$me93_m * sp_\$\$pe93_m
 sp_be94_m = n_pop94m * sp_\$\$me94_m * sp_\$\$pe94_m
 sp_be95ov_m = n_pop95ovm * sp_\$\$me95ov_m * sp_\$\$pe95ov_m

sp_be65_f = n_pop65f * sp_\$\$me65_f * sp_\$\$pe65_f
 sp_be66_f = n_pop66f * sp_\$\$me66_f * sp_\$\$pe66_f
 sp_be67_f = n_pop67f * sp_\$\$me67_f * sp_\$\$pe67_f
 sp_be68_f = n_pop68f * sp_\$\$me68_f * sp_\$\$pe68_f
 sp_be69_f = n_pop69f * sp_\$\$me69_f * sp_\$\$pe69_f
 sp_be70_f = n_pop70f * sp_\$\$me70_f * sp_\$\$pe70_f
 sp_be71_f = n_pop71f * sp_\$\$me71_f * sp_\$\$pe71_f
 sp_be72_f = n_pop72f * sp_\$\$me72_f * sp_\$\$pe72_f
 sp_be73_f = n_pop73f * sp_\$\$me73_f * sp_\$\$pe73_f
 sp_be74_f = n_pop74f * sp_\$\$me74_f * sp_\$\$pe74_f
 sp_be75_f = n_pop75f * sp_\$\$me75_f * sp_\$\$pe75_f

sp_be76_f = n_pop76f * sp_\$me76_f * sp_\$pe76_f
 sp_be77_f = n_pop77f * sp_\$me77_f * sp_\$pe77_f
 sp_be78_f = n_pop78f * sp_\$me78_f * sp_\$pe78_f
 sp_be79_f = n_pop79f * sp_\$me79_f * sp_\$pe79_f
 sp_be80_f = n_pop80f * sp_\$me80_f * sp_\$pe80_f
 sp_be81_f = n_pop81f * sp_\$me81_f * sp_\$pe81_f
 sp_be82_f = n_pop82f * sp_\$me82_f * sp_\$pe82_f
 sp_be83_f = n_pop83f * sp_\$me83_f * sp_\$pe83_f
 sp_be84_f = n_pop84f * sp_\$me84_f * sp_\$pe84_f
 sp_be85_f = n_pop85f * sp_\$me85_f * sp_\$pe85_f
 sp_be86_f = n_pop86f * sp_\$me86_f * sp_\$pe86_f
 sp_be87_f = n_pop87f * sp_\$me87_f * sp_\$pe87_f
 sp_be88_f = n_pop88f * sp_\$me88_f * sp_\$pe88_f
 sp_be89_f = n_pop89f * sp_\$me89_f * sp_\$pe89_f
 sp_be90_f = n_pop90f * sp_\$me90_f * sp_\$pe90_f
 sp_be91_f = n_pop91f * sp_\$me91_f * sp_\$pe91_f
 sp_be92_f = n_pop92f * sp_\$me92_f * sp_\$pe92_f
 sp_be93_f = n_pop93f * sp_\$me93_f * sp_\$pe93_f
 sp_be94_f = n_pop94f * sp_\$me94_f * sp_\$pe94_f
 sp_be95ov_f = n_pop95ovf * sp_\$me95ov_f * sp_\$pe95ov_f

④給付費

sp_be_m = sp_be65_m + sp_be66_m + sp_be67_m + sp_be68_m + sp_be69_m + sp_be70_m + sp_be71_m + sp_be72_m +
 sp_be73_m + sp_be74_m + sp_be75_m + sp_be76_m + sp_be77_m + sp_be78_m + sp_be79_m + sp_be80_m + sp_be81_m +
 sp_be82_m + sp_be83_m + sp_be84_m + sp_be85_m + sp_be86_m + sp_be87_m + sp_be88_m + sp_be89_m + sp_be90_m +
 sp_be91_m + sp_be92_m + sp_be93_m + sp_be94_m + sp_be95ov_m

sp_be_f = sp_be65_f + sp_be66_f + sp_be67_f + sp_be68_f + sp_be69_f + sp_be70_f + sp_be71_f + sp_be72_f + sp_be73_f +
 sp_be74_f + sp_be75_f + sp_be76_f + sp_be77_f + sp_be78_f + sp_be79_f + sp_be80_f + sp_be81_f + sp_be82_f + sp_be83_f +
 sp_be84_f + sp_be85_f + sp_be86_f + sp_be87_f + sp_be88_f + sp_be89_f + sp_be90_f + sp_be91_f + sp_be92_f + sp_be93_f +
 sp_be94_f + sp_be95ov_f

sp_be = sp_be_m + sp_be_f

⑤受給権者数

sp_ne_m = n_pop65m * sp_\$me65_m + n_pop66m * sp_\$me66_m + n_pop67m * sp_\$me67_m + n_pop68m * sp_\$me68_m +
 n_pop69m * sp_\$me69_m + n_pop70m * sp_\$me70_m + n_pop71m * sp_\$me71_m + n_pop72m * sp_\$me72_m + n_pop73m *
 sp_\$me73_m + n_pop74m * sp_\$me74_m + n_pop75m * sp_\$me75_m + n_pop76m * sp_\$me76_m + n_pop77m * sp_\$me77_m +
 n_pop78m * sp_\$me78_m + n_pop79m * sp_\$me79_m + n_pop80m * sp_\$me80_m + n_pop81m * sp_\$me81_m + n_pop82m *
 sp_\$me82_m + n_pop83m * sp_\$me83_m + n_pop84m * sp_\$me84_m + n_pop85m * sp_\$me85_m + n_pop86m * sp_\$me86_m +
 n_pop87m * sp_\$me87_m + n_pop88m * sp_\$me88_m + n_pop89m * sp_\$me89_m + n_pop90m * sp_\$me90_m + n_pop91m *
 sp_\$me91_m + n_pop92m * sp_\$me92_m + n_pop93m * sp_\$me93_m + n_pop94m * sp_\$me94_m + n_pop95ovm * sp_\$me95ov_m

sp_ne_f = n_pop65f * sp_\$me65_f + n_pop66f * sp_\$me66_f + n_pop67f * sp_\$me67_f + n_pop68f * sp_\$me68_f + n_pop69f *
 sp_\$me69_f + n_pop70f * sp_\$me70_f + n_pop71f * sp_\$me71_f + n_pop72f * sp_\$me72_f + n_pop73f * sp_\$me73_f + n_pop74f *
 sp_\$me74_f + n_pop75f * sp_\$me75_f + n_pop76f * sp_\$me76_f + n_pop77f * sp_\$me77_f + n_pop78f * sp_\$me78_f + n_pop79f *
 sp_\$me79_f + n_pop80f * sp_\$me80_f + n_pop81f * sp_\$me81_f + n_pop82f * sp_\$me82_f + n_pop83f * sp_\$me83_f + n_pop84f *
 sp_\$me84_f + n_pop85f * sp_\$me85_f + n_pop86f * sp_\$me86_f + n_pop87f * sp_\$me87_f + n_pop88f * sp_\$me88_f + n_pop89f *
 sp_\$me89_f + n_pop90f * sp_\$me90_f + n_pop91f * sp_\$me91_f + n_pop92f * sp_\$me92_f + n_pop93f * sp_\$me93_f + n_pop94f *
 sp_\$me94_f + n_pop95ovf * sp_\$me95ov_f

sp_ne = sp_ne_m + sp_ne_f

③老齢厚生年金・通老相当

(1)年齢別受給権者対人口比率

sp_\$met65_m = sp_\$met65_m(-1)
 sp_\$met66_m = sp_\$met66_m(-1)
 sp_\$met67_m = sp_\$met67_m(-1) * sp_\$met_add
 sp_\$met68_m = sp_\$met67_m(-1)
 sp_\$met69_m = sp_\$met68_m(-1)
 sp_\$met70_m = sp_\$met69_m(-1)
 sp_\$met71_m = sp_\$met70_m(-1)
 sp_\$met72_m = sp_\$met71_m(-1)
 sp_\$met73_m = sp_\$met72_m(-1)

$sp_\$met74_m = sp_\$met73_m(-1)$
 $sp_\$met75_m = sp_\$met74_m(-1)$
 $sp_\$met76_m = sp_\$met75_m(-1)$
 $sp_\$met77_m = sp_\$met76_m(-1)$
 $sp_\$met78_m = sp_\$met77_m(-1)$
 $sp_\$met79_m = sp_\$met78_m(-1)$
 $sp_\$met80_m = sp_\$met79_m(-1)$
 $sp_\$met81_m = sp_\$met80_m(-1)$
 $sp_\$met82_m = sp_\$met81_m(-1)$
 $sp_\$met83_m = sp_\$met82_m(-1)$
 $sp_\$met84_m = sp_\$met83_m(-1)$
 $sp_\$met85_m = sp_\$met84_m(-1)$
 $sp_\$met86_m = sp_\$met85_m(-1)$
 $sp_\$met87_m = sp_\$met86_m(-1)$
 $sp_\$met88_m = sp_\$met87_m(-1)$
 $sp_\$met89_m = sp_\$met88_m(-1)$
 $sp_\$met90_m = sp_\$met89_m(-1)$
 $sp_\$met91_m = sp_\$met90_m(-1)$
 $sp_\$met92_m = sp_\$met91_m(-1)$
 $sp_\$met93_m = sp_\$met92_m(-1)$
 $sp_\$met94_m = sp_\$met93_m(-1)$
 $sp_\$met95ov_m = sp_\$met94_m(-1) * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$met95ov_m(-1)$

$sp_\$met65_f = sp_\$met65_f(-1)$
 $sp_\$met66_f = sp_\$met66_f(-1)$
 $sp_\$met67_f = sp_\$met67_f(-1) * sp_\$met_add$
 $sp_\$met68_f = sp_\$met67_f(-1)$
 $sp_\$met69_f = sp_\$met68_f(-1)$
 $sp_\$met70_f = sp_\$met69_f(-1)$
 $sp_\$met71_f = sp_\$met70_f(-1)$
 $sp_\$met72_f = sp_\$met71_f(-1)$
 $sp_\$met73_f = sp_\$met72_f(-1)$
 $sp_\$met74_f = sp_\$met73_f(-1)$
 $sp_\$met75_f = sp_\$met74_f(-1)$
 $sp_\$met76_f = sp_\$met75_f(-1)$
 $sp_\$met77_f = sp_\$met76_f(-1)$
 $sp_\$met78_f = sp_\$met77_f(-1)$
 $sp_\$met79_f = sp_\$met78_f(-1)$
 $sp_\$met80_f = sp_\$met79_f(-1)$
 $sp_\$met81_f = sp_\$met80_f(-1)$
 $sp_\$met82_f = sp_\$met81_f(-1)$
 $sp_\$met83_f = sp_\$met82_f(-1)$
 $sp_\$met84_f = sp_\$met83_f(-1)$
 $sp_\$met85_f = sp_\$met84_f(-1)$
 $sp_\$met86_f = sp_\$met85_f(-1)$
 $sp_\$met87_f = sp_\$met86_f(-1)$
 $sp_\$met88_f = sp_\$met87_f(-1)$
 $sp_\$met89_f = sp_\$met88_f(-1)$
 $sp_\$met90_f = sp_\$met89_f(-1)$
 $sp_\$met91_f = sp_\$met90_f(-1)$
 $sp_\$met92_f = sp_\$met91_f(-1)$
 $sp_\$met93_f = sp_\$met92_f(-1)$
 $sp_\$met94_f = sp_\$met93_f(-1)$
 $sp_\$met95ov_f = sp_\$met94_f(-1) * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$met95ov_f(-1)$

'(2)年齢別平均年金給付額

$sp_\$pet65_m = sp_\$pet65_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pet66_m = sp_\$pet66_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pet67_m = sp_\$pet67_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pet68_m = sp_\$pet67_m(-1) * sp_re68$
 $sp_\$pet69_m = sp_\$pet68_m(-1) * sp_re69$
 $sp_\$pet70_m = sp_\$pet69_m(-1) * sp_re70$
 $sp_\$pet71_m = sp_\$pet70_m(-1) * sp_re71$
 $sp_\$pet72_m = sp_\$pet71_m(-1) * sp_re72$
 $sp_\$pet73_m = sp_\$pet72_m(-1) * sp_re73$
 $sp_\$pet74_m = sp_\$pet73_m(-1) * sp_re74$

sp_\$pet75_m = sp_\$pet74_m(-1) * sp_re75
 sp_\$pet76_m = sp_\$pet75_m(-1) * sp_re76
 sp_\$pet77_m = sp_\$pet76_m(-1) * sp_re77
 sp_\$pet78_m = sp_\$pet77_m(-1) * sp_re78
 sp_\$pet79_m = sp_\$pet78_m(-1) * sp_re79
 sp_\$pet80_m = sp_\$pet79_m(-1) * sp_re80
 sp_\$pet81_m = sp_\$pet80_m(-1) * sp_re81
 sp_\$pet82_m = sp_\$pet81_m(-1) * sp_re82
 sp_\$pet83_m = sp_\$pet82_m(-1) * sp_re83
 sp_\$pet84_m = sp_\$pet83_m(-1) * sp_re84
 sp_\$pet85_m = sp_\$pet84_m(-1) * sp_re85
 sp_\$pet86_m = sp_\$pet85_m(-1) * sp_re86
 sp_\$pet87_m = sp_\$pet86_m(-1) * sp_re87
 sp_\$pet88_m = sp_\$pet87_m(-1) * sp_re88
 sp_\$pet89_m = sp_\$pet88_m(-1) * sp_re89
 sp_\$pet90_m = sp_\$pet89_m(-1) * sp_re90
 sp_\$pet91_m = sp_\$pet90_m(-1) * sp_re91
 sp_\$pet92_m = sp_\$pet91_m(-1) * sp_re92
 sp_\$pet93_m = sp_\$pet92_m(-1) * sp_re93
 sp_\$pet94_m = sp_\$pet93_m(-1) * sp_re94
 sp_\$pet95ov_m = sp_\$pet94_m(-1) * sp_re95ov * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$pet95ov_m(-1) * sp_re95ov

sp_\$pet65_f = sp_\$pet65_f(-1) * sp_rez
 sp_\$pet66_f = sp_\$pet66_f(-1) * sp_rez
 sp_\$pet67_f = sp_\$pet67_f(-1) * sp_rez
 sp_\$pet68_f = sp_\$pet67_f(-1) * sp_re68
 sp_\$pet69_f = sp_\$pet68_f(-1) * sp_re69
 sp_\$pet70_f = sp_\$pet69_f(-1) * sp_re70
 sp_\$pet71_f = sp_\$pet70_f(-1) * sp_re71
 sp_\$pet72_f = sp_\$pet71_f(-1) * sp_re72
 sp_\$pet73_f = sp_\$pet72_f(-1) * sp_re73
 sp_\$pet74_f = sp_\$pet73_f(-1) * sp_re74
 sp_\$pet75_f = sp_\$pet74_f(-1) * sp_re75
 sp_\$pet76_f = sp_\$pet75_f(-1) * sp_re76
 sp_\$pet77_f = sp_\$pet76_f(-1) * sp_re77
 sp_\$pet78_f = sp_\$pet77_f(-1) * sp_re78
 sp_\$pet79_f = sp_\$pet78_f(-1) * sp_re79
 sp_\$pet80_f = sp_\$pet79_f(-1) * sp_re80
 sp_\$pet81_f = sp_\$pet80_f(-1) * sp_re81
 sp_\$pet82_f = sp_\$pet81_f(-1) * sp_re82
 sp_\$pet83_f = sp_\$pet82_f(-1) * sp_re83
 sp_\$pet84_f = sp_\$pet83_f(-1) * sp_re84
 sp_\$pet85_f = sp_\$pet84_f(-1) * sp_re85
 sp_\$pet86_f = sp_\$pet85_f(-1) * sp_re86
 sp_\$pet87_f = sp_\$pet86_f(-1) * sp_re87
 sp_\$pet88_f = sp_\$pet87_f(-1) * sp_re88
 sp_\$pet89_f = sp_\$pet88_f(-1) * sp_re89
 sp_\$pet90_f = sp_\$pet89_f(-1) * sp_re90
 sp_\$pet91_f = sp_\$pet90_f(-1) * sp_re91
 sp_\$pet92_f = sp_\$pet91_f(-1) * sp_re92
 sp_\$pet93_f = sp_\$pet92_f(-1) * sp_re93
 sp_\$pet94_f = sp_\$pet93_f(-1) * sp_re94
 sp_\$pet95ov_f = sp_\$pet94_f(-1) * sp_re95ov * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$pet95ov_f(-1) * sp_re95ov

'(3)年齢別給付費

sp_bet65_m = n_pop65m * sp_\$met65_m * sp_\$pet65_m
 sp_bet66_m = n_pop66m * sp_\$met66_m * sp_\$pet66_m
 sp_bet67_m = n_pop67m * sp_\$met67_m * sp_\$pet67_m
 sp_bet68_m = n_pop68m * sp_\$met68_m * sp_\$pet68_m
 sp_bet69_m = n_pop69m * sp_\$met69_m * sp_\$pet69_m
 sp_bet70_m = n_pop70m * sp_\$met70_m * sp_\$pet70_m
 sp_bet71_m = n_pop71m * sp_\$met71_m * sp_\$pet71_m
 sp_bet72_m = n_pop72m * sp_\$met72_m * sp_\$pet72_m
 sp_bet73_m = n_pop73m * sp_\$met73_m * sp_\$pet73_m
 sp_bet74_m = n_pop74m * sp_\$met74_m * sp_\$pet74_m
 sp_bet75_m = n_pop75m * sp_\$met75_m * sp_\$pet75_m

sp_bet76_m = n_pop76m * sp_\$met76_m * sp_\$pet76_m
 sp_bet77_m = n_pop77m * sp_\$met77_m * sp_\$pet77_m
 sp_bet78_m = n_pop78m * sp_\$met78_m * sp_\$pet78_m
 sp_bet79_m = n_pop79m * sp_\$met79_m * sp_\$pet79_m
 sp_bet80_m = n_pop80m * sp_\$met80_m * sp_\$pet80_m
 sp_bet81_m = n_pop81m * sp_\$met81_m * sp_\$pet81_m
 sp_bet82_m = n_pop82m * sp_\$met82_m * sp_\$pet82_m
 sp_bet83_m = n_pop83m * sp_\$met83_m * sp_\$pet83_m
 sp_bet84_m = n_pop84m * sp_\$met84_m * sp_\$pet84_m
 sp_bet85_m = n_pop85m * sp_\$met85_m * sp_\$pet85_m
 sp_bet86_m = n_pop86m * sp_\$met86_m * sp_\$pet86_m
 sp_bet87_m = n_pop87m * sp_\$met87_m * sp_\$pet87_m
 sp_bet88_m = n_pop88m * sp_\$met88_m * sp_\$pet88_m
 sp_bet89_m = n_pop89m * sp_\$met89_m * sp_\$pet89_m
 sp_bet90_m = n_pop90m * sp_\$met90_m * sp_\$pet90_m
 sp_bet91_m = n_pop91m * sp_\$met91_m * sp_\$pet91_m
 sp_bet92_m = n_pop92m * sp_\$met92_m * sp_\$pet92_m
 sp_bet93_m = n_pop93m * sp_\$met93_m * sp_\$pet93_m
 sp_bet94_m = n_pop94m * sp_\$met94_m * sp_\$pet94_m
 sp_bet95ov_m = n_pop95ovm * sp_\$met95ov_m * sp_\$pet95ov_m

sp_bet65_f = n_pop65f * sp_\$met65_f * sp_\$pet65_f
 sp_bet66_f = n_pop66f * sp_\$met66_f * sp_\$pet66_f
 sp_bet67_f = n_pop67f * sp_\$met67_f * sp_\$pet67_f
 sp_bet68_f = n_pop68f * sp_\$met68_f * sp_\$pet68_f
 sp_bet69_f = n_pop69f * sp_\$met69_f * sp_\$pet69_f
 sp_bet70_f = n_pop70f * sp_\$met70_f * sp_\$pet70_f
 sp_bet71_f = n_pop71f * sp_\$met71_f * sp_\$pet71_f
 sp_bet72_f = n_pop72f * sp_\$met72_f * sp_\$pet72_f
 sp_bet73_f = n_pop73f * sp_\$met73_f * sp_\$pet73_f
 sp_bet74_f = n_pop74f * sp_\$met74_f * sp_\$pet74_f
 sp_bet75_f = n_pop75f * sp_\$met75_f * sp_\$pet75_f
 sp_bet76_f = n_pop76f * sp_\$met76_f * sp_\$pet76_f
 sp_bet77_f = n_pop77f * sp_\$met77_f * sp_\$pet77_f
 sp_bet78_f = n_pop78f * sp_\$met78_f * sp_\$pet78_f
 sp_bet79_f = n_pop79f * sp_\$met79_f * sp_\$pet79_f
 sp_bet80_f = n_pop80f * sp_\$met80_f * sp_\$pet80_f
 sp_bet81_f = n_pop81f * sp_\$met81_f * sp_\$pet81_f
 sp_bet82_f = n_pop82f * sp_\$met82_f * sp_\$pet82_f
 sp_bet83_f = n_pop83f * sp_\$met83_f * sp_\$pet83_f
 sp_bet84_f = n_pop84f * sp_\$met84_f * sp_\$pet84_f
 sp_bet85_f = n_pop85f * sp_\$met85_f * sp_\$pet85_f
 sp_bet86_f = n_pop86f * sp_\$met86_f * sp_\$pet86_f
 sp_bet87_f = n_pop87f * sp_\$met87_f * sp_\$pet87_f
 sp_bet88_f = n_pop88f * sp_\$met88_f * sp_\$pet88_f
 sp_bet89_f = n_pop89f * sp_\$met89_f * sp_\$pet89_f
 sp_bet90_f = n_pop90f * sp_\$met90_f * sp_\$pet90_f
 sp_bet91_f = n_pop91f * sp_\$met91_f * sp_\$pet91_f
 sp_bet92_f = n_pop92f * sp_\$met92_f * sp_\$pet92_f
 sp_bet93_f = n_pop93f * sp_\$met93_f * sp_\$pet93_f
 sp_bet94_f = n_pop94f * sp_\$met94_f * sp_\$pet94_f
 sp_bet95ov_f = n_pop95ovf * sp_\$met95ov_f * sp_\$pet95ov_f

'(4)給付費

sp_bet_m = sp_bet65_m + sp_bet66_m + sp_bet67_m + sp_bet68_m + sp_bet69_m + sp_bet70_m + sp_bet71_m + sp_bet72_m +
 sp_bet73_m + sp_bet74_m + sp_bet75_m + sp_bet76_m + sp_bet77_m + sp_bet78_m + sp_bet79_m + sp_bet80_m + sp_bet81_m +
 sp_bet82_m + sp_bet83_m + sp_bet84_m + sp_bet85_m + sp_bet86_m + sp_bet87_m + sp_bet88_m + sp_bet89_m + sp_bet90_m +
 sp_bet91_m + sp_bet92_m + sp_bet93_m + sp_bet94_m + sp_bet95ov_m

sp_bet_f = sp_bet65_f + sp_bet66_f + sp_bet67_f + sp_bet68_f + sp_bet69_f + sp_bet70_f + sp_bet71_f + sp_bet72_f + sp_bet73_f +
 sp_bet74_f + sp_bet75_f + sp_bet76_f + sp_bet77_f + sp_bet78_f + sp_bet79_f + sp_bet80_f + sp_bet81_f + sp_bet82_f + sp_bet83_f
 + sp_bet84_f + sp_bet85_f + sp_bet86_f + sp_bet87_f + sp_bet88_f + sp_bet89_f + sp_bet90_f + sp_bet91_f + sp_bet92_f + sp_bet93_f
 + sp_bet94_f + sp_bet95ov_f

sp_bet = sp_bet_m + sp_bet_f

'(5)受給権者数

sp_net_m = n_pop65m * sp_\$met65_m + n_pop66m * sp_\$met66_m + n_pop67m * sp_\$met67_m + n_pop68m * sp_\$met68_m +
n_pop69m * sp_\$met69_m + n_pop70m * sp_\$met70_m + n_pop71m * sp_\$met71_m + n_pop72m * sp_\$met72_m + n_pop73m *
sp_\$met73_m + n_pop74m * sp_\$met74_m + n_pop75m * sp_\$met75_m + n_pop76m * sp_\$met76_m + n_pop77m * sp_\$met77_m +
n_pop78m * sp_\$met78_m + n_pop79m * sp_\$met79_m + n_pop80m * sp_\$met80_m + n_pop81m * sp_\$met81_m + n_pop82m *
sp_\$met82_m + n_pop83m * sp_\$met83_m + n_pop84m * sp_\$met84_m + n_pop85m * sp_\$met85_m + n_pop86m * sp_\$met86_m +
n_pop87m * sp_\$met87_m + n_pop88m * sp_\$met88_m + n_pop89m * sp_\$met89_m + n_pop90m * sp_\$met90_m + n_pop91m *
sp_\$met91_m + n_pop92m * sp_\$met92_m + n_pop93m * sp_\$met93_m + n_pop94m * sp_\$met94_m + n_pop95ovm * sp_\$met95ov_m

sp_net_f = n_pop65f * sp_\$met65_f + n_pop66f * sp_\$met66_f + n_pop67f * sp_\$met67_f + n_pop68f * sp_\$met68_f + n_pop69f *
sp_\$met69_f + n_pop70f * sp_\$met70_f + n_pop71f * sp_\$met71_f + n_pop72f * sp_\$met72_f + n_pop73f * sp_\$met73_f + n_pop74f *
sp_\$met74_f + n_pop75f * sp_\$met75_f + n_pop76f * sp_\$met76_f + n_pop77f * sp_\$met77_f + n_pop78f * sp_\$met78_f + n_pop79f *
sp_\$met79_f + n_pop80f * sp_\$met80_f + n_pop81f * sp_\$met81_f + n_pop82f * sp_\$met82_f + n_pop83f * sp_\$met83_f + n_pop84f *
sp_\$met84_f + n_pop85f * sp_\$met85_f + n_pop86f * sp_\$met86_f + n_pop87f * sp_\$met87_f + n_pop88f * sp_\$met88_f + n_pop89f *
sp_\$met89_f + n_pop90f * sp_\$met90_f + n_pop91f * sp_\$met91_f + n_pop92f * sp_\$met92_f + n_pop93f * sp_\$met93_f + n_pop94f *
sp_\$met94_f + n_pop95ovf * sp_\$met95ov_f

sp_net = sp_net_m + sp_net_f

'④特別支給（老齢相当）

,

'(1)年齢別受給権者対人口比率

sp_\$mes60_m = sp_\$mes60_m(-1) * sp_des2_60_m
sp_\$mes61_m = sp_\$mes61_m(-1) * sp_des2_61_m
sp_\$mes62_m = sp_\$mes62_m(-1) * sp_des2_62_m
sp_\$mes63_m = sp_\$mes63_m(-1) * sp_des2_63_m
sp_\$mes64_m = sp_\$mes64_m(-1) * sp_des2_64_m

sp_\$mes60_f = sp_\$mes60_f(-1) * sp_des2_60_f
sp_\$mes61_f = sp_\$mes61_f(-1) * sp_des2_61_f
sp_\$mes62_f = sp_\$mes62_f(-1) * sp_des2_62_f
sp_\$mes63_f = sp_\$mes63_f(-1) * sp_des2_63_f
sp_\$mes64_f = sp_\$mes64_f(-1) * sp_des2_64_f

'(2)平均年金給付（定額部分）

sp_\$pes1_60_m = sp_\$pes1_60_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_61_m = sp_\$pes1_61_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_62_m = sp_\$pes1_62_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_63_m = sp_\$pes1_63_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_64_m = sp_\$pes1_64_m(-1) * sp_rez

sp_\$pes1_60_f = sp_\$pes1_60_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_61_f = sp_\$pes1_61_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_62_f = sp_\$pes1_62_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_63_f = sp_\$pes1_63_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes1_64_f = sp_\$pes1_64_f(-1) * sp_rez

'(3)平均年金給付（報酬比例部分）

sp_\$pes2_60_m = sp_\$pes2_60_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_61_m = sp_\$pes2_61_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_62_m = sp_\$pes2_62_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_63_m = sp_\$pes2_63_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_64_m = sp_\$pes2_64_m(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_60_f = sp_\$pes2_60_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_61_f = sp_\$pes2_61_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_62_f = sp_\$pes2_62_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_63_f = sp_\$pes2_63_f(-1) * sp_rez
sp_\$pes2_64_f = sp_\$pes2_64_f(-1) * sp_rez

'(4)給付費

sp_bes60_m = n_pop60m * sp_\$mes60_m * (sp_\$pes1_60_m * sp_des1_60_m + sp_\$pes2_60_m * sp_des2_60_m)
sp_bes61_m = n_pop61m * sp_\$mes61_m * (sp_\$pes1_61_m * sp_des1_61_m + sp_\$pes2_61_m * sp_des2_61_m)

$sp_bes62_m = n_pop62m * sp_\$mes62_m * (sp_\$pes1_62_m * sp_des1_62_m + sp_\$pes2_62_m * sp_des2_62_m)$
 $sp_bes63_m = n_pop63m * sp_\$mes63_m * (sp_\$pes1_63_m * sp_des1_63_m + sp_\$pes2_63_m * sp_des2_63_m)$
 $sp_bes64_m = n_pop64m * sp_\$mes64_m * (sp_\$pes1_64_m * sp_des1_64_m + sp_\$pes2_64_m * sp_des2_64_m)$

$sp_bes60_f = n_pop60f * sp_\$mes60_f * (sp_\$pes1_60_f * sp_des1_60_f + sp_\$pes2_60_f * sp_des2_60_f)$
 $sp_bes61_f = n_pop61f * sp_\$mes61_f * (sp_\$pes1_61_f * sp_des1_61_f + sp_\$pes2_61_f * sp_des2_61_f)$
 $sp_bes62_f = n_pop62f * sp_\$mes62_f * (sp_\$pes1_62_f * sp_des1_62_f + sp_\$pes2_62_f * sp_des2_62_f)$
 $sp_bes63_f = n_pop63f * sp_\$mes63_f * (sp_\$pes1_63_f * sp_des1_63_f + sp_\$pes2_63_f * sp_des2_63_f)$
 $sp_bes64_f = n_pop64f * sp_\$mes64_f * (sp_\$pes1_64_f * sp_des1_64_f + sp_\$pes2_64_f * sp_des2_64_f)$

$sp_bes_m = sp_bes60_m + sp_bes61_m + sp_bes62_m + sp_bes63_m + sp_bes64_m$

$sp_bes_f = sp_bes60_f + sp_bes61_f + sp_bes62_f + sp_bes63_f + sp_bes64_f$

$sp_bes = sp_bes_m + sp_bes_f$

$sp_nes_m = n_pop60m * sp_\$mes60_m + n_pop61m * sp_\$mes61_m + n_pop62m * sp_\$mes62_m + n_pop63m * sp_\$mes63_m +$
 $n_pop64m * sp_\$mes64_m$

$sp_nes_f = n_pop60f * sp_\$mes60_f + n_pop61f * sp_\$mes61_f + n_pop62f * sp_\$mes62_f + n_pop63f * sp_\$mes63_f + n_pop64f *$
 $sp_\$mes64_f$

$sp_nes = sp_nes_m + sp_nes_f$

'⑤特別支給（通老相当）

'(1)受給権者対人口比率

$sp_\$mest60_m = sp_\$mest60_m(-1) * sp_des2_60_m$
 $sp_\$mest61_m = sp_\$mest61_m(-1) * sp_des2_61_m$
 $sp_\$mest62_m = sp_\$mest62_m(-1) * sp_des2_62_m$
 $sp_\$mest63_m = sp_\$mest63_m(-1) * sp_des2_63_m$
 $sp_\$mest64_m = sp_\$mest64_m(-1) * sp_des2_64_m$

$sp_\$mest60_f = sp_\$mest60_f(-1) * sp_des2_60_f$
 $sp_\$mest61_f = sp_\$mest61_f(-1) * sp_des2_61_f$
 $sp_\$mest62_f = sp_\$mest62_f(-1) * sp_des2_62_f$
 $sp_\$mest63_f = sp_\$mest63_f(-1) * sp_des2_63_f$
 $sp_\$mest64_f = sp_\$mest64_f(-1) * sp_des2_64_f$

'(2)平均年金給付（定額部分）

$sp_\$pest1_60_m = sp_\$pest1_60_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_61_m = sp_\$pest1_61_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_62_m = sp_\$pest1_62_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_63_m = sp_\$pest1_63_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_64_m = sp_\$pest1_64_m(-1) * sp_rez$

$sp_\$pest1_60_f = sp_\$pest1_60_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_61_f = sp_\$pest1_61_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_62_f = sp_\$pest1_62_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_63_f = sp_\$pest1_63_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest1_64_f = sp_\$pest1_64_f(-1) * sp_rez$

'(3)平均年金給付（報酬比例部分）

$sp_\$pest2_60_m = sp_\$pest2_60_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_61_m = sp_\$pest2_61_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_62_m = sp_\$pest2_62_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_63_m = sp_\$pest2_63_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_64_m = sp_\$pest2_64_m(-1) * sp_rez$

$sp_\$pest2_60_f = sp_\$pest2_60_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_61_f = sp_\$pest2_61_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_62_f = sp_\$pest2_62_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_63_f = sp_\$pest2_63_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pest2_64_f = sp_\$pest2_64_f(-1) * sp_rez$

'(4)給付費

sp_best60_m = n_pop60m * sp_\$mest60_m * (sp_\$pest1_60_m * sp_des1_60_m + sp_\$pest2_60_m * sp_des2_60_m)
sp_best61_m = n_pop61m * sp_\$mest61_m * (sp_\$pest1_61_m * sp_des1_61_m + sp_\$pest2_61_m * sp_des2_61_m)
sp_best62_m = n_pop62m * sp_\$mest62_m * (sp_\$pest1_62_m * sp_des1_62_m + sp_\$pest2_62_m * sp_des2_62_m)
sp_best63_m = n_pop63m * sp_\$mest63_m * (sp_\$pest1_63_m * sp_des1_63_m + sp_\$pest2_63_m * sp_des2_63_m)
sp_best64_m = n_pop64m * sp_\$mest64_m * (sp_\$pest1_64_m * sp_des1_64_m + sp_\$pest2_64_m * sp_des2_64_m)

sp_best60_f = n_pop60f * sp_\$mest60_f * (sp_\$pest1_60_f * sp_des1_60_f + sp_\$pest2_60_f * sp_des2_60_f)
sp_best61_f = n_pop61f * sp_\$mest61_f * (sp_\$pest1_61_f * sp_des1_61_f + sp_\$pest2_61_f * sp_des2_61_f)
sp_best62_f = n_pop62f * sp_\$mest62_f * (sp_\$pest1_62_f * sp_des1_62_f + sp_\$pest2_62_f * sp_des2_62_f)
sp_best63_f = n_pop63f * sp_\$mest63_f * (sp_\$pest1_63_f * sp_des1_63_f + sp_\$pest2_63_f * sp_des2_63_f)
sp_best64_f = n_pop64f * sp_\$mest64_f * (sp_\$pest1_64_f * sp_des1_64_f + sp_\$pest2_64_f * sp_des2_64_f)

sp_best_m = sp_best60_m + sp_best61_m + sp_best62_m + sp_best63_m + sp_best64_m

sp_best_f = sp_best60_f + sp_best61_f + sp_best62_f + sp_best63_f + sp_best64_f

sp_best = sp_best_m + sp_best_f

sp_nest_m = n_pop60m * sp_\$mest60_m + n_pop61m * sp_\$mest61_m + n_pop62m * sp_\$mest62_m + n_pop63m * sp_\$mest63_m + n_pop64m * sp_\$mest64_m

sp_nest_f = n_pop60f * sp_\$mest60_f + n_pop61f * sp_\$mest61_f + n_pop62f * sp_\$mest62_f + n_pop63f * sp_\$mest63_f + n_pop64f * sp_\$mest64_f

sp_nest = sp_nest_m + sp_nest_f

'⑥老齢厚生年金給付費、受給権者数

sp_ber = sp_be + sp_bet + sp_bes + sp_best + sp_beofx * sp_rbfo_adj

sp_ner = sp_ne + sp_net + sp_nes + sp_nest

'⑦障害厚生年金、遺族厚生年金給付費

sp_besd = sp_\$resd * sp_ber

'⑧厚生年金給付費

sp_bea = (sp_ber + sp_besd) * sp_\$rer

'C 共済年金

'※物価スライド特例を反映した改定基準は、厚生年金のものを利用

'①新法退職共済年金・退年相当

'(1)年齢別受給権者対人口比率

sp_\$nmm65_m = sp_\$nmm65_m(-1)
sp_\$nmm66_m = sp_\$nmm66_m(-1)
sp_\$nmm67_m = sp_\$nmm67_m(-1) * sp_\$nmm_add
sp_\$nmm68_m = sp_\$nmm67_m(-1)
sp_\$nmm69_m = sp_\$nmm68_m(-1)
sp_\$nmm70_m = sp_\$nmm69_m(-1)
sp_\$nmm71_m = sp_\$nmm70_m(-1)
sp_\$nmm72_m = sp_\$nmm71_m(-1)
sp_\$nmm73_m = sp_\$nmm72_m(-1)
sp_\$nmm74_m = sp_\$nmm73_m(-1)
sp_\$nmm75_m = sp_\$nmm74_m(-1)
sp_\$nmm76_m = sp_\$nmm75_m(-1)
sp_\$nmm77_m = sp_\$nmm76_m(-1)
sp_\$nmm78_m = sp_\$nmm77_m(-1)
sp_\$nmm79_m = sp_\$nmm78_m(-1)
sp_\$nmm80_m = sp_\$nmm79_m(-1)
sp_\$nmm81_m = sp_\$nmm80_m(-1)
sp_\$nmm82_m = sp_\$nmm81_m(-1)
sp_\$nmm83_m = sp_\$nmm82_m(-1)
sp_\$nmm84_m = sp_\$nmm83_m(-1)

$sp_\$mm85_m = sp_\$mm84_m(-1)$
 $sp_\$mm86_m = sp_\$mm85_m(-1)$
 $sp_\$mm87_m = sp_\$mm86_m(-1)$
 $sp_\$mm88_m = sp_\$mm87_m(-1)$
 $sp_\$mm89_m = sp_\$mm88_m(-1)$
 $sp_\$mm90_m = sp_\$mm89_m(-1)$
 $sp_\$mm91_m = sp_\$mm90_m(-1)$
 $sp_\$mm92_m = sp_\$mm91_m(-1)$
 $sp_\$mm93_m = sp_\$mm92_m(-1)$
 $sp_\$mm94_m = sp_\$mm93_m(-1)$
 $sp_\$mm95ov_m = sp_\$mm94_m(-1) * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$mm95ov_m(-1)$

$sp_\$mm65_f = sp_\$mm65_f(-1)$
 $sp_\$mm66_f = sp_\$mm66_f(-1)$
 $sp_\$mm67_f = sp_\$mm67_f(-1) * sp_\$mm_add$
 $sp_\$mm68_f = sp_\$mm67_f(-1)$
 $sp_\$mm69_f = sp_\$mm68_f(-1)$
 $sp_\$mm70_f = sp_\$mm69_f(-1)$
 $sp_\$mm71_f = sp_\$mm70_f(-1)$
 $sp_\$mm72_f = sp_\$mm71_f(-1)$
 $sp_\$mm73_f = sp_\$mm72_f(-1)$
 $sp_\$mm74_f = sp_\$mm73_f(-1)$
 $sp_\$mm75_f = sp_\$mm74_f(-1)$
 $sp_\$mm76_f = sp_\$mm75_f(-1)$
 $sp_\$mm77_f = sp_\$mm76_f(-1)$
 $sp_\$mm78_f = sp_\$mm77_f(-1)$
 $sp_\$mm79_f = sp_\$mm78_f(-1)$
 $sp_\$mm80_f = sp_\$mm79_f(-1)$
 $sp_\$mm81_f = sp_\$mm80_f(-1)$
 $sp_\$mm82_f = sp_\$mm81_f(-1)$
 $sp_\$mm83_f = sp_\$mm82_f(-1)$
 $sp_\$mm84_f = sp_\$mm83_f(-1)$
 $sp_\$mm85_f = sp_\$mm84_f(-1)$
 $sp_\$mm86_f = sp_\$mm85_f(-1)$
 $sp_\$mm87_f = sp_\$mm86_f(-1)$
 $sp_\$mm88_f = sp_\$mm87_f(-1)$
 $sp_\$mm89_f = sp_\$mm88_f(-1)$
 $sp_\$mm90_f = sp_\$mm89_f(-1)$
 $sp_\$mm91_f = sp_\$mm90_f(-1)$
 $sp_\$mm92_f = sp_\$mm91_f(-1)$
 $sp_\$mm93_f = sp_\$mm92_f(-1)$
 $sp_\$mm94_f = sp_\$mm93_f(-1)$
 $sp_\$mm95ov_f = sp_\$mm94_f(-1) * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$mm95ov_f(-1)$

'(2)年齢別平均年金給付額

$sp_\$pm65_m = sp_\$pm65_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pm66_m = sp_\$pm66_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pm67_m = sp_\$pm67_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pm68_m = sp_\$pm67_m(-1) * sp_re68$
 $sp_\$pm69_m = sp_\$pm68_m(-1) * sp_re69$
 $sp_\$pm70_m = sp_\$pm69_m(-1) * sp_re70$
 $sp_\$pm71_m = sp_\$pm70_m(-1) * sp_re71$
 $sp_\$pm72_m = sp_\$pm71_m(-1) * sp_re72$
 $sp_\$pm73_m = sp_\$pm72_m(-1) * sp_re73$
 $sp_\$pm74_m = sp_\$pm73_m(-1) * sp_re74$
 $sp_\$pm75_m = sp_\$pm74_m(-1) * sp_re75$
 $sp_\$pm76_m = sp_\$pm75_m(-1) * sp_re76$
 $sp_\$pm77_m = sp_\$pm76_m(-1) * sp_re77$
 $sp_\$pm78_m = sp_\$pm77_m(-1) * sp_re78$
 $sp_\$pm79_m = sp_\$pm78_m(-1) * sp_re79$
 $sp_\$pm80_m = sp_\$pm79_m(-1) * sp_re80$
 $sp_\$pm81_m = sp_\$pm80_m(-1) * sp_re81$
 $sp_\$pm82_m = sp_\$pm81_m(-1) * sp_re82$
 $sp_\$pm83_m = sp_\$pm82_m(-1) * sp_re83$
 $sp_\$pm84_m = sp_\$pm83_m(-1) * sp_re84$
 $sp_\$pm85_m = sp_\$pm84_m(-1) * sp_re85$

sp_ \$pm86_m = sp_ \$pm85_m(-1) * sp_re86
 sp_ \$pm87_m = sp_ \$pm86_m(-1) * sp_re87
 sp_ \$pm88_m = sp_ \$pm87_m(-1) * sp_re88
 sp_ \$pm89_m = sp_ \$pm88_m(-1) * sp_re89
 sp_ \$pm90_m = sp_ \$pm89_m(-1) * sp_re90
 sp_ \$pm91_m = sp_ \$pm90_m(-1) * sp_re91
 sp_ \$pm92_m = sp_ \$pm91_m(-1) * sp_re92
 sp_ \$pm93_m = sp_ \$pm92_m(-1) * sp_re93
 sp_ \$pm94_m = sp_ \$pm93_m(-1) * sp_re94
 sp_ \$pm95ov_m = sp_ \$pm94_m(-1) * sp_re95ov * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_ \$pm95ov_m(-1) * sp_re95ov

sp_ \$pm65_f = sp_ \$pm65_f(-1) * sp_rez
 sp_ \$pm66_f = sp_ \$pm66_f(-1) * sp_rez
 sp_ \$pm67_f = sp_ \$pm67_f(-1) * sp_rez
 sp_ \$pm68_f = sp_ \$pm67_f(-1) * sp_re68
 sp_ \$pm69_f = sp_ \$pm68_f(-1) * sp_re69
 sp_ \$pm70_f = sp_ \$pm69_f(-1) * sp_re70
 sp_ \$pm71_f = sp_ \$pm70_f(-1) * sp_re71
 sp_ \$pm72_f = sp_ \$pm71_f(-1) * sp_re72
 sp_ \$pm73_f = sp_ \$pm72_f(-1) * sp_re73
 sp_ \$pm74_f = sp_ \$pm73_f(-1) * sp_re74
 sp_ \$pm75_f = sp_ \$pm74_f(-1) * sp_re75
 sp_ \$pm76_f = sp_ \$pm75_f(-1) * sp_re76
 sp_ \$pm77_f = sp_ \$pm76_f(-1) * sp_re77
 sp_ \$pm78_f = sp_ \$pm77_f(-1) * sp_re78
 sp_ \$pm79_f = sp_ \$pm78_f(-1) * sp_re79
 sp_ \$pm80_f = sp_ \$pm79_f(-1) * sp_re80
 sp_ \$pm81_f = sp_ \$pm80_f(-1) * sp_re81
 sp_ \$pm82_f = sp_ \$pm81_f(-1) * sp_re82
 sp_ \$pm83_f = sp_ \$pm82_f(-1) * sp_re83
 sp_ \$pm84_f = sp_ \$pm83_f(-1) * sp_re84
 sp_ \$pm85_f = sp_ \$pm84_f(-1) * sp_re85
 sp_ \$pm86_f = sp_ \$pm85_f(-1) * sp_re86
 sp_ \$pm87_f = sp_ \$pm86_f(-1) * sp_re87
 sp_ \$pm88_f = sp_ \$pm87_f(-1) * sp_re88
 sp_ \$pm89_f = sp_ \$pm88_f(-1) * sp_re89
 sp_ \$pm90_f = sp_ \$pm89_f(-1) * sp_re90
 sp_ \$pm91_f = sp_ \$pm90_f(-1) * sp_re91
 sp_ \$pm92_f = sp_ \$pm91_f(-1) * sp_re92
 sp_ \$pm93_f = sp_ \$pm92_f(-1) * sp_re93
 sp_ \$pm94_f = sp_ \$pm93_f(-1) * sp_re94
 sp_ \$pm95ov_f = sp_ \$pm94_f(-1) * sp_re95ov * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_ \$pm95ov_f(-1) * sp_re95ov

(3)年齢別給付費

sp_bm65_m = n_pop65m * sp_ \$mm65_m * sp_ \$pm65_m
 sp_bm66_m = n_pop66m * sp_ \$mm66_m * sp_ \$pm66_m
 sp_bm67_m = n_pop67m * sp_ \$mm67_m * sp_ \$pm67_m
 sp_bm68_m = n_pop68m * sp_ \$mm68_m * sp_ \$pm68_m
 sp_bm69_m = n_pop69m * sp_ \$mm69_m * sp_ \$pm69_m
 sp_bm70_m = n_pop70m * sp_ \$mm70_m * sp_ \$pm70_m
 sp_bm71_m = n_pop71m * sp_ \$mm71_m * sp_ \$pm71_m
 sp_bm72_m = n_pop72m * sp_ \$mm72_m * sp_ \$pm72_m
 sp_bm73_m = n_pop73m * sp_ \$mm73_m * sp_ \$pm73_m
 sp_bm74_m = n_pop74m * sp_ \$mm74_m * sp_ \$pm74_m
 sp_bm75_m = n_pop75m * sp_ \$mm75_m * sp_ \$pm75_m
 sp_bm76_m = n_pop76m * sp_ \$mm76_m * sp_ \$pm76_m
 sp_bm77_m = n_pop77m * sp_ \$mm77_m * sp_ \$pm77_m
 sp_bm78_m = n_pop78m * sp_ \$mm78_m * sp_ \$pm78_m
 sp_bm79_m = n_pop79m * sp_ \$mm79_m * sp_ \$pm79_m
 sp_bm80_m = n_pop80m * sp_ \$mm80_m * sp_ \$pm80_m
 sp_bm81_m = n_pop81m * sp_ \$mm81_m * sp_ \$pm81_m
 sp_bm82_m = n_pop82m * sp_ \$mm82_m * sp_ \$pm82_m
 sp_bm83_m = n_pop83m * sp_ \$mm83_m * sp_ \$pm83_m
 sp_bm84_m = n_pop84m * sp_ \$mm84_m * sp_ \$pm84_m
 sp_bm85_m = n_pop85m * sp_ \$mm85_m * sp_ \$pm85_m
 sp_bm86_m = n_pop86m * sp_ \$mm86_m * sp_ \$pm86_m

sp_bm87_m = n_pop87m * sp_\$mm87_m * sp_\$pm87_m
 sp_bm88_m = n_pop88m * sp_\$mm88_m * sp_\$pm88_m
 sp_bm89_m = n_pop89m * sp_\$mm89_m * sp_\$pm89_m
 sp_bm90_m = n_pop90m * sp_\$mm90_m * sp_\$pm90_m
 sp_bm91_m = n_pop91m * sp_\$mm91_m * sp_\$pm91_m
 sp_bm92_m = n_pop92m * sp_\$mm92_m * sp_\$pm92_m
 sp_bm93_m = n_pop93m * sp_\$mm93_m * sp_\$pm93_m
 sp_bm94_m = n_pop94m * sp_\$mm94_m * sp_\$pm94_m
 sp_bm95ov_m = n_pop95ovm * sp_\$mm95ov_m * sp_\$pm95ov_m

sp_bm65_f = n_pop65f * sp_\$mm65_f * sp_\$pm65_f
 sp_bm66_f = n_pop66f * sp_\$mm66_f * sp_\$pm66_f
 sp_bm67_f = n_pop67f * sp_\$mm67_f * sp_\$pm67_f
 sp_bm68_f = n_pop68f * sp_\$mm68_f * sp_\$pm68_f
 sp_bm69_f = n_pop69f * sp_\$mm69_f * sp_\$pm69_f
 sp_bm70_f = n_pop70f * sp_\$mm70_f * sp_\$pm70_f
 sp_bm71_f = n_pop71f * sp_\$mm71_f * sp_\$pm71_f
 sp_bm72_f = n_pop72f * sp_\$mm72_f * sp_\$pm72_f
 sp_bm73_f = n_pop73f * sp_\$mm73_f * sp_\$pm73_f
 sp_bm74_f = n_pop74f * sp_\$mm74_f * sp_\$pm74_f
 sp_bm75_f = n_pop75f * sp_\$mm75_f * sp_\$pm75_f
 sp_bm76_f = n_pop76f * sp_\$mm76_f * sp_\$pm76_f
 sp_bm77_f = n_pop77f * sp_\$mm77_f * sp_\$pm77_f
 sp_bm78_f = n_pop78f * sp_\$mm78_f * sp_\$pm78_f
 sp_bm79_f = n_pop79f * sp_\$mm79_f * sp_\$pm79_f
 sp_bm80_f = n_pop80f * sp_\$mm80_f * sp_\$pm80_f
 sp_bm81_f = n_pop81f * sp_\$mm81_f * sp_\$pm81_f
 sp_bm82_f = n_pop82f * sp_\$mm82_f * sp_\$pm82_f
 sp_bm83_f = n_pop83f * sp_\$mm83_f * sp_\$pm83_f
 sp_bm84_f = n_pop84f * sp_\$mm84_f * sp_\$pm84_f
 sp_bm85_f = n_pop85f * sp_\$mm85_f * sp_\$pm85_f
 sp_bm86_f = n_pop86f * sp_\$mm86_f * sp_\$pm86_f
 sp_bm87_f = n_pop87f * sp_\$mm87_f * sp_\$pm87_f
 sp_bm88_f = n_pop88f * sp_\$mm88_f * sp_\$pm88_f
 sp_bm89_f = n_pop89f * sp_\$mm89_f * sp_\$pm89_f
 sp_bm90_f = n_pop90f * sp_\$mm90_f * sp_\$pm90_f
 sp_bm91_f = n_pop91f * sp_\$mm91_f * sp_\$pm91_f
 sp_bm92_f = n_pop92f * sp_\$mm92_f * sp_\$pm92_f
 sp_bm93_f = n_pop93f * sp_\$mm93_f * sp_\$pm93_f
 sp_bm94_f = n_pop94f * sp_\$mm94_f * sp_\$pm94_f
 sp_bm95ov_f = n_pop95ovf * sp_\$mm95ov_f * sp_\$pm95ov_f

(4)給付費

sp_bm_m = sp_bm65_m + sp_bm66_m + sp_bm67_m + sp_bm68_m + sp_bm69_m + sp_bm70_m + sp_bm71_m + sp_bm72_m +
 sp_bm73_m + sp_bm74_m + sp_bm75_m + sp_bm76_m + sp_bm77_m + sp_bm78_m + sp_bm79_m + sp_bm80_m + sp_bm81_m +
 sp_bm82_m + sp_bm83_m + sp_bm84_m + sp_bm85_m + sp_bm86_m + sp_bm87_m + sp_bm88_m + sp_bm89_m + sp_bm90_m +
 sp_bm91_m + sp_bm92_m + sp_bm93_m + sp_bm94_m + sp_bm95ov_m

sp_bm_f = sp_bm65_f + sp_bm66_f + sp_bm67_f + sp_bm68_f + sp_bm69_f + sp_bm70_f + sp_bm71_f + sp_bm72_f + sp_bm73_f +
 sp_bm74_f + sp_bm75_f + sp_bm76_f + sp_bm77_f + sp_bm78_f + sp_bm79_f + sp_bm80_f + sp_bm81_f + sp_bm82_f + sp_bm83_f +
 sp_bm84_f + sp_bm85_f + sp_bm86_f + sp_bm87_f + sp_bm88_f + sp_bm89_f + sp_bm90_f + sp_bm91_f + sp_bm92_f + sp_bm93_f +
 sp_bm94_f + sp_bm95ov_f

sp_bm = sp_bm_m + sp_bm_f

(5)受給権者数

sp_nm_m = n_pop65m * sp_\$mm65_m + n_pop66m * sp_\$mm66_m + n_pop67m * sp_\$mm67_m + n_pop68m * sp_\$mm68_m +
 n_pop69m * sp_\$mm69_m + n_pop70m * sp_\$mm70_m + n_pop71m * sp_\$mm71_m + n_pop72m * sp_\$mm72_m + n_pop73m *
 sp_\$mm73_m + n_pop74m * sp_\$mm74_m + n_pop75m * sp_\$mm75_m + n_pop76m * sp_\$mm76_m + n_pop77m * sp_\$mm77_m +
 n_pop78m * sp_\$mm78_m + n_pop79m * sp_\$mm79_m + n_pop80m * sp_\$mm80_m + n_pop81m * sp_\$mm81_m + n_pop82m *
 sp_\$mm82_m + n_pop83m * sp_\$mm83_m + n_pop84m * sp_\$mm84_m + n_pop85m * sp_\$mm85_m + n_pop86m * sp_\$mm86_m +
 n_pop87m * sp_\$mm87_m + n_pop88m * sp_\$mm88_m + n_pop89m * sp_\$mm89_m + n_pop90m * sp_\$mm90_m + n_pop91m *
 sp_\$mm91_m + n_pop92m * sp_\$mm92_m + n_pop93m * sp_\$mm93_m + n_pop94m * sp_\$mm94_m + n_pop95ovm *
 sp_\$mm95ov_m

$sp_nm_f = n_pop65f * sp_\$m65_f + n_pop66f * sp_\$m66_f + n_pop67f * sp_\$m67_f + n_pop68f * sp_\$m68_f + n_pop69f * sp_\$m69_f + n_pop70f * sp_\$m70_f + n_pop71f * sp_\$m71_f + n_pop72f * sp_\$m72_f + n_pop73f * sp_\$m73_f + n_pop74f * sp_\$m74_f + n_pop75f * sp_\$m75_f + n_pop76f * sp_\$m76_f + n_pop77f * sp_\$m77_f + n_pop78f * sp_\$m78_f + n_pop79f * sp_\$m79_f + n_pop80f * sp_\$m80_f + n_pop81f * sp_\$m81_f + n_pop82f * sp_\$m82_f + n_pop83f * sp_\$m83_f + n_pop84f * sp_\$m84_f + n_pop85f * sp_\$m85_f + n_pop86f * sp_\$m86_f + n_pop87f * sp_\$m87_f + n_pop88f * sp_\$m88_f + n_pop89f * sp_\$m89_f + n_pop90f * sp_\$m90_f + n_pop91f * sp_\$m91_f + n_pop92f * sp_\$m92_f + n_pop93f * sp_\$m93_f + n_pop94f * sp_\$m94_f + n_pop95ovf * sp_\$m95ov_f$

$sp_nm = sp_nm_m + sp_nm_f$

②新法退職共済年金・通退相当

(1)年齢別受給権者対人口比率

$sp_\$mmt65_m = sp_\$mmt65_m(-1)$
 $sp_\$mmt66_m = sp_\$mmt66_m(-1)$
 $sp_\$mmt67_m = sp_\$mmt67_m(-1) * sp_\$mmt_add$
 $sp_\$mmt68_m = sp_\$mmt67_m(-1)$
 $sp_\$mmt69_m = sp_\$mmt68_m(-1)$
 $sp_\$mmt70_m = sp_\$mmt69_m(-1)$
 $sp_\$mmt71_m = sp_\$mmt70_m(-1)$
 $sp_\$mmt72_m = sp_\$mmt71_m(-1)$
 $sp_\$mmt73_m = sp_\$mmt72_m(-1)$
 $sp_\$mmt74_m = sp_\$mmt73_m(-1)$
 $sp_\$mmt75_m = sp_\$mmt74_m(-1)$
 $sp_\$mmt76_m = sp_\$mmt75_m(-1)$
 $sp_\$mmt77_m = sp_\$mmt76_m(-1)$
 $sp_\$mmt78_m = sp_\$mmt77_m(-1)$
 $sp_\$mmt79_m = sp_\$mmt78_m(-1)$
 $sp_\$mmt80_m = sp_\$mmt79_m(-1)$
 $sp_\$mmt81_m = sp_\$mmt80_m(-1)$
 $sp_\$mmt82_m = sp_\$mmt81_m(-1)$
 $sp_\$mmt83_m = sp_\$mmt82_m(-1)$
 $sp_\$mmt84_m = sp_\$mmt83_m(-1)$
 $sp_\$mmt85_m = sp_\$mmt84_m(-1)$
 $sp_\$mmt86_m = sp_\$mmt85_m(-1)$
 $sp_\$mmt87_m = sp_\$mmt86_m(-1)$
 $sp_\$mmt88_m = sp_\$mmt87_m(-1)$
 $sp_\$mmt89_m = sp_\$mmt88_m(-1)$
 $sp_\$mmt90_m = sp_\$mmt89_m(-1)$
 $sp_\$mmt91_m = sp_\$mmt90_m(-1)$
 $sp_\$mmt92_m = sp_\$mmt91_m(-1)$
 $sp_\$mmt93_m = sp_\$mmt92_m(-1)$
 $sp_\$mmt94_m = sp_\$mmt93_m(-1)$
 $sp_\$mmt95ov_m = sp_\$mmt94_m(-1) * sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$mmt95ov_m(-1)$

$sp_\$mmt65_f = sp_\$mmt65_f(-1)$
 $sp_\$mmt66_f = sp_\$mmt66_f(-1)$
 $sp_\$mmt67_f = sp_\$mmt67_f(-1) * sp_\$mmt_add$
 $sp_\$mmt68_f = sp_\$mmt67_f(-1)$
 $sp_\$mmt69_f = sp_\$mmt68_f(-1)$
 $sp_\$mmt70_f = sp_\$mmt69_f(-1)$
 $sp_\$mmt71_f = sp_\$mmt70_f(-1)$
 $sp_\$mmt72_f = sp_\$mmt71_f(-1)$
 $sp_\$mmt73_f = sp_\$mmt72_f(-1)$
 $sp_\$mmt74_f = sp_\$mmt73_f(-1)$
 $sp_\$mmt75_f = sp_\$mmt74_f(-1)$
 $sp_\$mmt76_f = sp_\$mmt75_f(-1)$
 $sp_\$mmt77_f = sp_\$mmt76_f(-1)$
 $sp_\$mmt78_f = sp_\$mmt77_f(-1)$
 $sp_\$mmt79_f = sp_\$mmt78_f(-1)$
 $sp_\$mmt80_f = sp_\$mmt79_f(-1)$
 $sp_\$mmt81_f = sp_\$mmt80_f(-1)$
 $sp_\$mmt82_f = sp_\$mmt81_f(-1)$
 $sp_\$mmt83_f = sp_\$mmt82_f(-1)$
 $sp_\$mmt84_f = sp_\$mmt83_f(-1)$
 $sp_\$mmt85_f = sp_\$mmt84_f(-1)$
 $sp_\$mmt86_f = sp_\$mmt85_f(-1)$

$sp_\$mmt87_f = sp_\$mmt86_f(-1)$
 $sp_\$mmt88_f = sp_\$mmt87_f(-1)$
 $sp_\$mmt89_f = sp_\$mmt88_f(-1)$
 $sp_\$mmt90_f = sp_\$mmt89_f(-1)$
 $sp_\$mmt91_f = sp_\$mmt90_f(-1)$
 $sp_\$mmt92_f = sp_\$mmt91_f(-1)$
 $sp_\$mmt93_f = sp_\$mmt92_f(-1)$
 $sp_\$mmt94_f = sp_\$mmt93_f(-1)$
 $sp_\$mmt95ov_f = sp_\$mmt94_f(-1) * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_\$mmt95ov_f(-1)$

'(2)年齢別平均年金給付

$sp_\$pmt65_m = sp_\$pmt65_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmt66_m = sp_\$pmt66_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmt67_m = sp_\$pmt67_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmt68_m = sp_\$pmt67_m(-1) * sp_re68$
 $sp_\$pmt69_m = sp_\$pmt68_m(-1) * sp_re69$
 $sp_\$pmt70_m = sp_\$pmt69_m(-1) * sp_re70$
 $sp_\$pmt71_m = sp_\$pmt70_m(-1) * sp_re71$
 $sp_\$pmt72_m = sp_\$pmt71_m(-1) * sp_re72$
 $sp_\$pmt73_m = sp_\$pmt72_m(-1) * sp_re73$
 $sp_\$pmt74_m = sp_\$pmt73_m(-1) * sp_re74$
 $sp_\$pmt75_m = sp_\$pmt74_m(-1) * sp_re75$
 $sp_\$pmt76_m = sp_\$pmt75_m(-1) * sp_re76$
 $sp_\$pmt77_m = sp_\$pmt76_m(-1) * sp_re77$
 $sp_\$pmt78_m = sp_\$pmt77_m(-1) * sp_re78$
 $sp_\$pmt79_m = sp_\$pmt78_m(-1) * sp_re79$
 $sp_\$pmt80_m = sp_\$pmt79_m(-1) * sp_re80$
 $sp_\$pmt81_m = sp_\$pmt80_m(-1) * sp_re81$
 $sp_\$pmt82_m = sp_\$pmt81_m(-1) * sp_re82$
 $sp_\$pmt83_m = sp_\$pmt82_m(-1) * sp_re83$
 $sp_\$pmt84_m = sp_\$pmt83_m(-1) * sp_re84$
 $sp_\$pmt85_m = sp_\$pmt84_m(-1) * sp_re85$
 $sp_\$pmt86_m = sp_\$pmt85_m(-1) * sp_re86$
 $sp_\$pmt87_m = sp_\$pmt86_m(-1) * sp_re87$
 $sp_\$pmt88_m = sp_\$pmt87_m(-1) * sp_re88$
 $sp_\$pmt89_m = sp_\$pmt88_m(-1) * sp_re89$
 $sp_\$pmt90_m = sp_\$pmt89_m(-1) * sp_re90$
 $sp_\$pmt91_m = sp_\$pmt90_m(-1) * sp_re91$
 $sp_\$pmt92_m = sp_\$pmt91_m(-1) * sp_re92$
 $sp_\$pmt93_m = sp_\$pmt92_m(-1) * sp_re93$
 $sp_\$pmt94_m = sp_\$pmt93_m(-1) * sp_re94$
 $sp_\$pmt95ov_m = sp_\$pmt94_m(-1) * sp_re95ov + sp_r95_m + (1 - sp_r95_m) * sp_\$pmt95ov_m(-1) * sp_re95ov$

$sp_\$pmt65_f = sp_\$pmt65_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmt66_f = sp_\$pmt66_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmt67_f = sp_\$pmt67_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmt68_f = sp_\$pmt67_f(-1) * sp_re68$
 $sp_\$pmt69_f = sp_\$pmt68_f(-1) * sp_re69$
 $sp_\$pmt70_f = sp_\$pmt69_f(-1) * sp_re70$
 $sp_\$pmt71_f = sp_\$pmt70_f(-1) * sp_re71$
 $sp_\$pmt72_f = sp_\$pmt71_f(-1) * sp_re72$
 $sp_\$pmt73_f = sp_\$pmt72_f(-1) * sp_re73$
 $sp_\$pmt74_f = sp_\$pmt73_f(-1) * sp_re74$
 $sp_\$pmt75_f = sp_\$pmt74_f(-1) * sp_re75$
 $sp_\$pmt76_f = sp_\$pmt75_f(-1) * sp_re76$
 $sp_\$pmt77_f = sp_\$pmt76_f(-1) * sp_re77$
 $sp_\$pmt78_f = sp_\$pmt77_f(-1) * sp_re78$
 $sp_\$pmt79_f = sp_\$pmt78_f(-1) * sp_re79$
 $sp_\$pmt80_f = sp_\$pmt79_f(-1) * sp_re80$
 $sp_\$pmt81_f = sp_\$pmt80_f(-1) * sp_re81$
 $sp_\$pmt82_f = sp_\$pmt81_f(-1) * sp_re82$
 $sp_\$pmt83_f = sp_\$pmt82_f(-1) * sp_re83$
 $sp_\$pmt84_f = sp_\$pmt83_f(-1) * sp_re84$
 $sp_\$pmt85_f = sp_\$pmt84_f(-1) * sp_re85$
 $sp_\$pmt86_f = sp_\$pmt85_f(-1) * sp_re86$
 $sp_\$pmt87_f = sp_\$pmt86_f(-1) * sp_re87$

$sp_spmt88_f = sp_spmt87_f(-1) * sp_re88$
 $sp_spmt89_f = sp_spmt88_f(-1) * sp_re89$
 $sp_spmt90_f = sp_spmt89_f(-1) * sp_re90$
 $sp_spmt91_f = sp_spmt90_f(-1) * sp_re91$
 $sp_spmt92_f = sp_spmt91_f(-1) * sp_re92$
 $sp_spmt93_f = sp_spmt92_f(-1) * sp_re93$
 $sp_spmt94_f = sp_spmt93_f(-1) * sp_re94$
 $sp_spmt95ov_f = sp_spmt94_f(-1) * sp_re95ov * sp_r95_f + (1 - sp_r95_f) * sp_spet95ov_f(-1) * sp_re95ov$

'(3)年齢別給付費

$sp_bmt65_m = n_pop65m * sp_smmt65_m * sp_spmt65_m$
 $sp_bmt66_m = n_pop66m * sp_smmt66_m * sp_spmt66_m$
 $sp_bmt67_m = n_pop67m * sp_smmt67_m * sp_spmt67_m$
 $sp_bmt68_m = n_pop68m * sp_smmt68_m * sp_spmt68_m$
 $sp_bmt69_m = n_pop69m * sp_smmt69_m * sp_spmt69_m$
 $sp_bmt70_m = n_pop70m * sp_smmt70_m * sp_spmt70_m$
 $sp_bmt71_m = n_pop71m * sp_smmt71_m * sp_spmt71_m$
 $sp_bmt72_m = n_pop72m * sp_smmt72_m * sp_spmt72_m$
 $sp_bmt73_m = n_pop73m * sp_smmt73_m * sp_spmt73_m$
 $sp_bmt74_m = n_pop74m * sp_smmt74_m * sp_spmt74_m$
 $sp_bmt75_m = n_pop75m * sp_smmt75_m * sp_spmt75_m$
 $sp_bmt76_m = n_pop76m * sp_smmt76_m * sp_spmt76_m$
 $sp_bmt77_m = n_pop77m * sp_smmt77_m * sp_spmt77_m$
 $sp_bmt78_m = n_pop78m * sp_smmt78_m * sp_spmt78_m$
 $sp_bmt79_m = n_pop79m * sp_smmt79_m * sp_spmt79_m$
 $sp_bmt80_m = n_pop80m * sp_smmt80_m * sp_spmt80_m$
 $sp_bmt81_m = n_pop81m * sp_smmt81_m * sp_spmt81_m$
 $sp_bmt82_m = n_pop82m * sp_smmt82_m * sp_spmt82_m$
 $sp_bmt83_m = n_pop83m * sp_smmt83_m * sp_spmt83_m$
 $sp_bmt84_m = n_pop84m * sp_smmt84_m * sp_spmt84_m$
 $sp_bmt85_m = n_pop85m * sp_smmt85_m * sp_spmt85_m$
 $sp_bmt86_m = n_pop86m * sp_smmt86_m * sp_spmt86_m$
 $sp_bmt87_m = n_pop87m * sp_smmt87_m * sp_spmt87_m$
 $sp_bmt88_m = n_pop88m * sp_smmt88_m * sp_spmt88_m$
 $sp_bmt89_m = n_pop89m * sp_smmt89_m * sp_spmt89_m$
 $sp_bmt90_m = n_pop90m * sp_smmt90_m * sp_spmt90_m$
 $sp_bmt91_m = n_pop91m * sp_smmt91_m * sp_spmt91_m$
 $sp_bmt92_m = n_pop92m * sp_smmt92_m * sp_spmt92_m$
 $sp_bmt93_m = n_pop93m * sp_smmt93_m * sp_spmt93_m$
 $sp_bmt94_m = n_pop94m * sp_smmt94_m * sp_spmt94_m$
 $sp_bmt95ov_m = n_pop95ovm * sp_smmt95ov_m * sp_spmt95ov_m$

$sp_bmt65_f = n_pop65f * sp_smmt65_f * sp_spmt65_f$
 $sp_bmt66_f = n_pop66f * sp_smmt66_f * sp_spmt66_f$
 $sp_bmt67_f = n_pop67f * sp_smmt67_f * sp_spmt67_f$
 $sp_bmt68_f = n_pop68f * sp_smmt68_f * sp_spmt68_f$
 $sp_bmt69_f = n_pop69f * sp_smmt69_f * sp_spmt69_f$
 $sp_bmt70_f = n_pop70f * sp_smmt70_f * sp_spmt70_f$
 $sp_bmt71_f = n_pop71f * sp_smmt71_f * sp_spmt71_f$
 $sp_bmt72_f = n_pop72f * sp_smmt72_f * sp_spmt72_f$
 $sp_bmt73_f = n_pop73f * sp_smmt73_f * sp_spmt73_f$
 $sp_bmt74_f = n_pop74f * sp_smmt74_f * sp_spmt74_f$
 $sp_bmt75_f = n_pop75f * sp_smmt75_f * sp_spmt75_f$
 $sp_bmt76_f = n_pop76f * sp_smmt76_f * sp_spmt76_f$
 $sp_bmt77_f = n_pop77f * sp_smmt77_f * sp_spmt77_f$
 $sp_bmt78_f = n_pop78f * sp_smmt78_f * sp_spmt78_f$
 $sp_bmt79_f = n_pop79f * sp_smmt79_f * sp_spmt79_f$
 $sp_bmt80_f = n_pop80f * sp_smmt80_f * sp_spmt80_f$
 $sp_bmt81_f = n_pop81f * sp_smmt81_f * sp_spmt81_f$
 $sp_bmt82_f = n_pop82f * sp_smmt82_f * sp_spmt82_f$
 $sp_bmt83_f = n_pop83f * sp_smmt83_f * sp_spmt83_f$
 $sp_bmt84_f = n_pop84f * sp_smmt84_f * sp_spmt84_f$
 $sp_bmt85_f = n_pop85f * sp_smmt85_f * sp_spmt85_f$
 $sp_bmt86_f = n_pop86f * sp_smmt86_f * sp_spmt86_f$
 $sp_bmt87_f = n_pop87f * sp_smmt87_f * sp_spmt87_f$
 $sp_bmt88_f = n_pop88f * sp_smmt88_f * sp_spmt88_f$

sp_bmt89_f = n_pop89f * sp_\$mmt89_f * sp_\$pmt89_f
 sp_bmt90_f = n_pop90f * sp_\$mmt90_f * sp_\$pmt90_f
 sp_bmt91_f = n_pop91f * sp_\$mmt91_f * sp_\$pmt91_f
 sp_bmt92_f = n_pop92f * sp_\$mmt92_f * sp_\$pmt92_f
 sp_bmt93_f = n_pop93f * sp_\$mmt93_f * sp_\$pmt93_f
 sp_bmt94_f = n_pop94f * sp_\$mmt94_f * sp_\$pmt94_f
 sp_bmt95ov_f = n_pop95ovf * sp_\$mmt95ov_f * sp_\$pmt95ov_f

'(4)給付費

sp_bmt_m = sp_bmt65_m + sp_bmt66_m + sp_bmt67_m + sp_bmt68_m + sp_bmt69_m + sp_bmt70_m + sp_bmt71_m + sp_bmt72_m
 + sp_bmt73_m + sp_bmt74_m + sp_bmt75_m + sp_bmt76_m + sp_bmt77_m + sp_bmt78_m + sp_bmt79_m + sp_bmt80_m +
 sp_bmt81_m + sp_bmt82_m + sp_bmt83_m + sp_bmt84_m + sp_bmt85_m + sp_bmt86_m + sp_bmt87_m + sp_bmt88_m +
 sp_bmt89_m + sp_bmt90_m + sp_bmt91_m + sp_bmt92_m + sp_bmt93_m + sp_bmt94_m + sp_bmt95ov_m

sp_bmt_f = sp_bmt65_f + sp_bmt66_f + sp_bmt67_f + sp_bmt68_f + sp_bmt69_f + sp_bmt70_f + sp_bmt71_f + sp_bmt72_f +
 sp_bmt73_f + sp_bmt74_f + sp_bmt75_f + sp_bmt76_f + sp_bmt77_f + sp_bmt78_f + sp_bmt79_f + sp_bmt80_f + sp_bmt81_f +
 sp_bmt82_f + sp_bmt83_f + sp_bmt84_f + sp_bmt85_f + sp_bmt86_f + sp_bmt87_f + sp_bmt88_f + sp_bmt89_f + sp_bmt90_f +
 sp_bmt91_f + sp_bmt92_f + sp_bmt93_f + sp_bmt94_f + sp_bmt95ov_f

sp_bmt = sp_bmt_m + sp_bmt_f

'(5)受給権者数

sp_nmt_m = n_pop65m * sp_\$mmt65_m + n_pop66m * sp_\$mmt66_m + n_pop67m * sp_\$mmt67_m + n_pop68m * sp_\$mmt68_m +
 n_pop69m * sp_\$mmt69_m + n_pop70m * sp_\$mmt70_m + n_pop71m * sp_\$mmt71_m + n_pop72m * sp_\$mmt72_m + n_pop73m *
 sp_\$mmt73_m + n_pop74m * sp_\$mmt74_m + n_pop75m * sp_\$mmt75_m + n_pop76m * sp_\$mmt76_m + n_pop77m * sp_\$mmt77_m
 + n_pop78m * sp_\$mmt78_m + n_pop79m * sp_\$mmt79_m + n_pop80m * sp_\$mmt80_m + n_pop81m * sp_\$mmt81_m + n_pop82m *
 sp_\$mmt82_m + n_pop83m * sp_\$mmt83_m + n_pop84m * sp_\$mmt84_m + n_pop85m * sp_\$mmt85_m + n_pop86m * sp_\$mmt86_m
 + n_pop87m * sp_\$mmt87_m + n_pop88m * sp_\$mmt88_m + n_pop89m * sp_\$mmt89_m + n_pop90m * sp_\$mmt90_m + n_pop91m *
 sp_\$mmt91_m + n_pop92m * sp_\$mmt92_m + n_pop93m * sp_\$mmt93_m + n_pop94m * sp_\$mmt94_m + n_pop95ovm *
 sp_\$mmt95ov_m

sp_nmt_f = n_pop65f * sp_\$mmt65_f + n_pop66f * sp_\$mmt66_f + n_pop67f * sp_\$mmt67_f + n_pop68f * sp_\$mmt68_f + n_pop69f *
 sp_\$mmt69_f + n_pop70f * sp_\$mmt70_f + n_pop71f * sp_\$mmt71_f + n_pop72f * sp_\$mmt72_f + n_pop73f * sp_\$mmt73_f + n_pop74f *
 sp_\$mmt74_f + n_pop75f * sp_\$mmt75_f + n_pop76f * sp_\$mmt76_f + n_pop77f * sp_\$mmt77_f + n_pop78f * sp_\$mmt78_f +
 n_pop79f * sp_\$mmt79_f + n_pop80f * sp_\$mmt80_f + n_pop81f * sp_\$mmt81_f + n_pop82f * sp_\$mmt82_f + n_pop83f * sp_\$mmt83_f
 + n_pop84f * sp_\$mmt84_f + n_pop85f * sp_\$mmt85_f + n_pop86f * sp_\$mmt86_f + n_pop87f * sp_\$mmt87_f + n_pop88f *
 sp_\$mmt88_f + n_pop89f * sp_\$mmt89_f + n_pop90f * sp_\$mmt90_f + n_pop91f * sp_\$mmt91_f + n_pop92f * sp_\$mmt92_f + n_pop93f *
 sp_\$mmt93_f + n_pop94f * sp_\$mmt94_f + n_pop95ovf * sp_\$mmt95ov_f

sp_nmt = sp_nmt_m + sp_nmt_f

'③共済年金・特別支給（老齢相当）

'(1)年齢別受給権者対人口比率

sp_\$mms60_m = sp_\$mms60_m(-1) * sp_dms2_60_m
 sp_\$mms61_m = sp_\$mms61_m(-1) * sp_dms2_61_m
 sp_\$mms62_m = sp_\$mms62_m(-1) * sp_dms2_62_m
 sp_\$mms63_m = sp_\$mms63_m(-1) * sp_dms2_63_m
 sp_\$mms64_m = sp_\$mms64_m(-1) * sp_dms2_64_m
 sp_\$mms60_f = sp_\$mms60_f(-1) * sp_dms2_60_f
 sp_\$mms61_f = sp_\$mms61_f(-1) * sp_dms2_61_f
 sp_\$mms62_f = sp_\$mms62_f(-1) * sp_dms2_62_f
 sp_\$mms63_f = sp_\$mms63_f(-1) * sp_dms2_63_f
 sp_\$mms64_f = sp_\$mms64_f(-1) * sp_dms2_64_f

'(2)年齢別平均年金給付額（定額部分）

sp_\$pms1_60_m = sp_\$pms1_60_m(-1) * sp_rez
 sp_\$pms1_61_m = sp_\$pms1_61_m(-1) * sp_rez
 sp_\$pms1_62_m = sp_\$pms1_62_m(-1) * sp_rez
 sp_\$pms1_63_m = sp_\$pms1_63_m(-1) * sp_rez
 sp_\$pms1_64_m = sp_\$pms1_64_m(-1) * sp_rez

sp_\$pms1_60_f = sp_\$pms1_60_f(-1) * sp_rez
 sp_\$pms1_61_f = sp_\$pms1_61_f(-1) * sp_rez

$sp_spms1_62_f = sp_spms1_62_f(-1) * sp_rez$
 $sp_spms1_63_f = sp_spms1_63_f(-1) * sp_rez$
 $sp_spms1_64_f = sp_spms1_64_f(-1) * sp_rez$

'(3)年齢別平均年金給付額（報酬比例部分）

$sp_spms2_60_m = sp_spms2_60_m(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_61_m = sp_spms2_61_m(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_62_m = sp_spms2_62_m(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_63_m = sp_spms2_63_m(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_64_m = sp_spms2_64_m(-1) * sp_rez$

$sp_spms2_60_f = sp_spms2_60_f(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_61_f = sp_spms2_61_f(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_62_f = sp_spms2_62_f(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_63_f = sp_spms2_63_f(-1) * sp_rez$
 $sp_spms2_64_f = sp_spms2_64_f(-1) * sp_rez$

'(4)年齢別給付費

$sp_bms60_m = n_pop60m * sp_smms60_m * (sp_spms1_60_m * sp_dms1_60_m + sp_spms2_60_m * sp_dms2_60_m)$
 $sp_bms61_m = n_pop61m * sp_smms61_m * (sp_spms1_61_m * sp_dms1_61_m + sp_spms2_61_m * sp_dms2_61_m)$
 $sp_bms62_m = n_pop62m * sp_smms62_m * (sp_spms1_62_m * sp_dms1_62_m + sp_spms2_62_m * sp_dms2_62_m)$
 $sp_bms63_m = n_pop63m * sp_smms63_m * (sp_spms1_63_m * sp_dms1_63_m + sp_spms2_63_m * sp_dms2_63_m)$
 $sp_bms64_m = n_pop64m * sp_smms64_m * (sp_spms1_64_m * sp_dms1_64_m + sp_spms2_64_m * sp_dms2_64_m)$

$sp_bms60_f = n_pop60f * sp_smms60_f * (sp_spms1_60_f * sp_dms1_60_f + sp_spms2_60_f * sp_dms2_60_f)$
 $sp_bms61_f = n_pop61f * sp_smms61_f * (sp_spms1_61_f * sp_dms1_61_f + sp_spms2_61_f * sp_dms2_61_f)$
 $sp_bms62_f = n_pop62f * sp_smms62_f * (sp_spms1_62_f * sp_dms1_62_f + sp_spms2_62_f * sp_dms2_62_f)$
 $sp_bms63_f = n_pop63f * sp_smms63_f * (sp_spms1_63_f * sp_dms1_63_f + sp_spms2_63_f * sp_dms2_63_f)$
 $sp_bms64_f = n_pop64f * sp_smms64_f * (sp_spms1_64_f * sp_dms1_64_f + sp_spms2_64_f * sp_dms2_64_f)$

'(5)給付費

$sp_bms_m = sp_bms60_m + sp_bms61_m + sp_bms62_m + sp_bms63_m + sp_bms64_m$

$sp_bms_f = sp_bms60_f + sp_bms61_f + sp_bms62_f + sp_bms63_f + sp_bms64_f$

$sp_bms = sp_bms_m + sp_bms_f$

'(6)受給権者数

$sp_nms_m = n_pop60m * sp_smms60_m + n_pop61m * sp_smms61_m + n_pop62m * sp_smms62_m + n_pop63m * sp_smms63_m$
 $+ n_pop64m * sp_smms64_m$

$sp_nms_f = n_pop60f * sp_smms60_f + n_pop61f * sp_smms61_f + n_pop62f * sp_smms62_f + n_pop63f * sp_smms63_f + n_pop64f$
 $* sp_smms64_f$

$sp_nms = sp_nms_m + sp_nms_f$

'④共済年金・特別支給（通老相当）

'(1)年齢別受給権者対人口比率

$sp_smmst60_m = sp_smmst60_m(-1) * sp_dms2_60_m$
 $sp_smmst61_m = sp_smmst61_m(-1) * sp_dms2_61_m$
 $sp_smmst62_m = sp_smmst62_m(-1) * sp_dms2_62_m$
 $sp_smmst63_m = sp_smmst63_m(-1) * sp_dms2_63_m$
 $sp_smmst64_m = sp_smmst64_m(-1) * sp_dms2_64_m$

$sp_smmst60_f = sp_smmst60_f(-1) * sp_dms2_60_f$
 $sp_smmst61_f = sp_smmst61_f(-1) * sp_dms2_61_f$
 $sp_smmst62_f = sp_smmst62_f(-1) * sp_dms2_62_f$
 $sp_smmst63_f = sp_smmst63_f(-1) * sp_dms2_63_f$
 $sp_smmst64_f = sp_smmst64_f(-1) * sp_dms2_64_f$

'(2)年齢別平均年金給付額（定額部分）

$sp_\$pmst1_60_m = sp_\$pmst1_60_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_61_m = sp_\$pmst1_61_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_62_m = sp_\$pmst1_62_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_63_m = sp_\$pmst1_63_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_64_m = sp_\$pmst1_64_m(-1) * sp_rez$

$sp_\$pmst1_60_f = sp_\$pmst1_60_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_61_f = sp_\$pmst1_61_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_62_f = sp_\$pmst1_62_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_63_f = sp_\$pmst1_63_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst1_64_f = sp_\$pmst1_64_f(-1) * sp_rez$

'(3)年齢別平均年金給付額 (報酬比例部分)

$sp_\$pmst2_60_m = sp_\$pmst2_60_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_61_m = sp_\$pmst2_61_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_62_m = sp_\$pmst2_62_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_63_m = sp_\$pmst2_63_m(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_64_m = sp_\$pmst2_64_m(-1) * sp_rez$

$sp_\$pmst2_60_f = sp_\$pmst2_60_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_61_f = sp_\$pmst2_61_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_62_f = sp_\$pmst2_62_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_63_f = sp_\$pmst2_63_f(-1) * sp_rez$
 $sp_\$pmst2_64_f = sp_\$pmst2_64_f(-1) * sp_rez$

'(4)年齢別給付費

$sp_bmst60_m = n_pop60m * sp_\$mmst60_m * (sp_\$pmst1_60_m * sp_dms1_60_m + sp_\$pmst2_60_m * sp_dms2_60_m)$
 $sp_bmst61_m = n_pop61m * sp_\$mmst61_m * (sp_\$pmst1_61_m * sp_dms1_61_m + sp_\$pmst2_61_m * sp_dms2_61_m)$
 $sp_bmst62_m = n_pop62m * sp_\$mmst62_m * (sp_\$pmst1_62_m * sp_dms1_62_m + sp_\$pmst2_62_m * sp_dms2_62_m)$
 $sp_bmst63_m = n_pop63m * sp_\$mmst63_m * (sp_\$pmst1_63_m * sp_dms1_63_m + sp_\$pmst2_63_m * sp_dms2_63_m)$
 $sp_bmst64_m = n_pop64m * sp_\$mmst64_m * (sp_\$pmst1_64_m * sp_dms1_64_m + sp_\$pmst2_64_m * sp_dms2_64_m)$

$sp_bmst60_f = n_pop60f * sp_\$mmst60_f * (sp_\$pmst1_60_f * sp_dms1_60_f + sp_\$pmst2_60_f * sp_dms2_60_f)$
 $sp_bmst61_f = n_pop61f * sp_\$mmst61_f * (sp_\$pmst1_61_f * sp_dms1_61_f + sp_\$pmst2_61_f * sp_dms2_61_f)$
 $sp_bmst62_f = n_pop62f * sp_\$mmst62_f * (sp_\$pmst1_62_f * sp_dms1_62_f + sp_\$pmst2_62_f * sp_dms2_62_f)$
 $sp_bmst63_f = n_pop63f * sp_\$mmst63_f * (sp_\$pmst1_63_f * sp_dms1_63_f + sp_\$pmst2_63_f * sp_dms2_63_f)$
 $sp_bmst64_f = n_pop64f * sp_\$mmst64_f * (sp_\$pmst1_64_f * sp_dms1_64_f + sp_\$pmst2_64_f * sp_dms2_64_f)$

'(5)給付費

$sp_bmst_m = sp_bmst60_m + sp_bmst61_m + sp_bmst62_m + sp_bmst63_m + sp_bmst64_m$

$sp_bmst_f = sp_bmst60_f + sp_bmst61_f + sp_bmst62_f + sp_bmst63_f + sp_bmst64_f$

$sp_bmst = sp_bmst_m + sp_bmst_f$

'(6)受給権者数

$sp_nmst_m = n_pop60m * sp_\$mmst60_m + n_pop61m * sp_\$mmst61_m + n_pop62m * sp_\$mmst62_m + n_pop63m * sp_\$mmst63_m + n_pop64m * sp_\$mmst64_m$

$sp_nmst_f = n_pop60f * sp_\$mmst60_f + n_pop61f * sp_\$mmst61_f + n_pop62f * sp_\$mmst62_f + n_pop63f * sp_\$mmst63_f + n_pop64f * sp_\$mmst64_f$

$sp_nmst = sp_nmst_m + sp_nmst_f$

'⑤退職共済年金給付費・受給権者数

$sp_bmr = sp_bm + sp_bmt + sp_bms + sp_bmst + sp_bmofx * sp_rbfo_adj$

$sp_nmr = sp_nm + sp_nmt + sp_nms + sp_nmst$

'⑥障害共済年金・遺族共済年金給付費

$sp_brmsd = sp_bmr * sp_\$rmsd$

'⑦共済年金給付費

$$sp_bma = (sp_bmr + sp_bmsd) * sp_\$rmr$$

'※その他変数 (95歳以上人口に占める95歳人口の割合)

$$sp_r95_m = n_pop95m / n_pop95ovm$$

$$sp_r95_f = n_pop95f / n_pop95ovf$$

$$sp_r95 = (n_pop95m + n_pop95f) / (n_pop95ovm + n_pop95ovf)$$

'3)保険料サブブロック

'A 国民年金の被保険者数

'公的年金被保険者数(sp_y)は、20歳～59歳人口(n_pop2059)に被保険者数対人口比率(sp_ry)を乗じる

$$sp_y = sp_ry * n_pop2059$$

'①1号被保険者数

'(1)1号被保険者数(sp_y1)は公的年金被保険者数(sp_y)から2号・3号被保険者数(sp_y2, sp_y3)を差し引いて計算する

$$sp_y1 = sp_y - sp_y2 - sp_y3$$

'(2)1号・任意加入被保険者数(sp_y1_6064)は、1号被保険者数(sp_y1)に任意加入率(sp_ry1_6064)を乗じて計算する

$$sp_y1_6064 = sp_ry1_6064 * sp_y1$$

'(3)1号被保険者数の内訳(全額納付、一部免除(1/4、1/2、3/4)、全額免除)は、強制加入の1号被保険者数(sp_y1-sp_y1_6064)にそれぞれの免除率等(sp_ry1_Z)を乗じて計算する

$$sp_y1_1 = sp_ry1_1 * (sp_y1 - sp_y1_6064)$$

$$sp_y1_2 = sp_ry1_2 * (sp_y1 - sp_y1_6064)$$

$$sp_y1_3 = sp_ry1_3 * (sp_y1 - sp_y1_6064)$$

$$sp_y1_4 = sp_ry1_4 * (sp_y1 - sp_y1_6064)$$

$$sp_y1_5 = sp_ry1_5 * (sp_y1 - sp_y1_6064)$$

'(4)1号・未納・未加入者数(sp_y1_x)は強制加入の1号被保険者数(sp_y1-sp_y1_6064)に未納・未加入者比率(sp_ry1_x)を乗じて計算する

$$sp_y1_x = sp_ry1_x * (sp_y1 - sp_y1_6064)$$

'(5)1号・拠出金算定対象外の被保険者数(sp_y1uc)は、全額免除被保険者数、未納・未加入者数(sp_y1_5, sp_y1_x)の合計

$$sp_y1uc = sp_y1_5 + sp_y1_x$$

'②2号被保険者数

'(1)2号被保険者数(sp_y2)は15歳～19歳・20～59歳・60歳～64歳の被保険者数(sp_y2_1519, sp_y2_2059, sp_y2_6064)の合計

$$sp_y2 = sp_y2_1519 + sp_y2_2059 + sp_y2_6064$$

'(2)性別Z(Z=m;男, z=f;女)の2号被保険者数(sp_y2_Z)は15歳～19歳・20～59歳・60歳～64歳の被保険者数(sp_y2_1519_Z, sp_y2_2059_Z, sp_y2_6064_Z)の合計

$$sp_y2_m = sp_y2_1519_m + sp_y2_2059_m + sp_y2_6064_m$$

$$sp_y2_f = sp_y2_1519_f + sp_y2_2059_f + sp_y2_6064_f$$

'(3)年齢XからY(X,Y)=(15,19),(20,59),(60,64)の2号被保険者数(sp_y2_XY)は各コーホートの性別ごとの被保険者数(sp_y2_XY_m, sp_y2_XY_f)の合計

$$sp_y2_1519 = sp_y2_1519_m + sp_y2_1519_f$$

$$sp_y2_2059 = sp_y2_2059_m + sp_y2_2059_f$$

$$sp_y2_6064 = sp_y2_6064_m + sp_y2_6064_f$$

'(4)年齢XからY(X,Y)=(15,19),(20,59),(60,64)の性別Z(Z=m;男,Z=f;女)の2号被保険者数(sp_y2_XY_Z)は各コーホートの性別人口(n_popXYz)に2号被保険者比率(sp_ry2_XY_Z)を乗じて求める

$$sp_y2_1519_m = sp_ry2_1519_m * n_pop1519m$$

$$sp_y2_1519_f = sp_ry2_1519_f * n_pop1519f$$

sp_y2_2059_m = sp_\$r2_2059_m * n_pop2059m
sp_y2_2059_f = sp_\$r2_2059_f * n_pop2059f

sp_y2_6064_m = sp_\$r2_6064_m * n_pop6064m
sp_y2_6064_f = sp_\$r2_6064_f * n_pop6064f

'③3号被保険者数

'3号被保険者数(sp_y3)は20～59歳の各性の被保険者数(sp_y3_m, sp_y3_f)の合計

sp_y3 = sp_y3_m + sp_y3_f

'性別Z(Z=m;男, Z=f;女)の3号被保険者数(sp_y3_Z)は各コーホートの性別人口(n_popXYz)に3号被保険者比率(sp_\$r3_z)を乗じて求める

sp_y3_m = sp_\$r3_m * n_pop2059m
sp_y3_f = sp_\$r3_f * n_pop2059f

'B 国民年金保険料

'①保険料改定率

'保険料改定率(sp_rqn)は国民年金法第87条の1の規定に基づき計算する

sp_rqn = e_cpi (-2) / e_cpi (-3) * ((sp_w (-3) / sp_w (-6)) / (e_cpi (-3) / e_cpi (-6))) ^ (1 / 3) * sp_rqn (-1)

'②保険料単価

'保険料(sp_qn)は基準値 (国民年金法第87条の1で規定される各年度の値) (sp_\$qn)に改定率(sp_rqn)を乗じる

sp_qn = sp_\$qn * sp_rqn

'③付加保険料単価

'付加保険料(sp_qna)は基準値 (国民年金法第87条の2で規定される金額 (400円)) (sp_\$qnadd)に保険料改定率(sp_rqn)を乗じる

sp_qna = sp_\$qna * sp_rqn

'④保険料収入

'(1)国民年金保険料収入 (単純計算値)

'保険料収入の理論値(sp_cn_es)は、保険料単価(sp_qn)と、任意加入被保険者数(sp_y1_6064)、全納被保険者数(sp_y1_1)、4分の1免除被保険者数(sp_y1_2)×3/4、2分の1免除被保険者数(sp_y1_3)×1/2、4分の3免除被保険者数(sp_y1_4)×1/4のそれぞれの積を合計した上で、付加保険料収入(sp_cna)を加えて求める

sp_cn_es = (sp_qn * (sp_y1_6064 + sp_y1_1 + 3 / 4 * sp_y1_2 + 1 / 2 * sp_y1_3 + 1 / 4 * sp_y1_4) * 1000 + sp_cna)

'(2)付加保険料収入

'付加保険料収入(sp_cna)は付加保険料単価(sp_qna)に付加保険料納付者数 (1号被保険者数(sp_y1)と付加保険料納付者数対1号被保険者数比率(sp_\$madd)の積) を乗じて計算する

sp_cna = sp_qna * sp_\$madd * sp_y1 * 1000

'(3)保険料収入

'保険料収入(sp_cn)は、単純計算値と年金財政検証の保険料収入との乖離を調整する比率(sp_\$rcn_adj)を乗じて計算する

sp_cn = sp_\$rcn_adj * sp_cn_es

'C 厚生年金被保険者数

'①厚生年金被保険者数

'(1)厚生年金被保険者数(sp_ye)は15歳～19歳・20～59歳・60歳～64歳の被保険者数(sp_ye1519, sp_ye2059, sp_ye6064)の合計

sp_ye = sp_ye1519 + sp_ye2059 + sp_ye6064

'(2)年齢XからY(X,Y)=(15,19),(20,59),(60,64))の厚生年金被保険者数(sp_yeXY)は各コーホートの性別ごとの被保険者数(sp_yeXY_m, sp_yeXY_f)の合計

sp_ye1519 = sp_ye1519_m + sp_ye1519_f
sp_ye2059 = sp_ye2059_m + sp_ye2059_f
sp_ye6064 = sp_ye6064_m + sp_ye6064_f

'(3)年齢XからY(X,Y)=(15,19),(2059),(60,64))の性別Z(Z=m;男, Z=f;女)の被保険者数(sp_yeXY_Z)は各コーホートの性別人口(sp_y2XY_Z)に厚生年金被保険者比率(sp_\$re_XY_Z)を乗じて求める

$sp_ye1519_m = sp_y2_1519_m * sp_\re_1519_m
 $sp_ye1519_f = sp_y2_1519_f * sp_\re_1519_f

$sp_ye6064_m = sp_y2_6064_m * sp_\re_6064_m
 $sp_ye6064_f = sp_y2_6064_f * sp_\re_6064_f

'(4)性別Zの20歳～59歳の厚生年金被保険者数(sp_ye2059_Z)は、性別Zの厚生年金被保険者数(右辺第1項)から15歳～19歳と60歳～64歳の被保険者数(sp_ye1519_Z, sp_ye6064_Z)を差し引いて定義
'なお、性別Zの厚生年金被保険者数は2号被保険者数(sp_y2_Z)に厚生年金被保険者比率(sp_\$re_Z)を乗じて計算

$sp_ye2059_m = sp_y2_m * sp_\$re_m - (sp_ye1519_m + sp_ye6064_m)$
 $sp_ye2059_f = sp_y2_f * sp_\$re_f - (sp_ye1519_f + sp_ye6064_f)$

'②3号被保険者数のうち厚生年金被保険者の扶養配偶者数
'3号被保険者数のうち厚生年金被保険者の扶養配偶者数(sp_ye3)は3号被保険者数に厚生年金被保険者扶養配偶者比率(sp_\$re_3)を乗じて計算

$sp_ye3 = sp_\$re3 * sp_y3$

'D 厚生年金保険料

'①保険料率

'厚生年金保険料率(sp_qe)は、厚生年金法第81条に規定される各年度の規定保険料率（各年度9月～翌年度8月に適用される）(sp_\$qe)を年度換算する

$sp_qe = 7 / 12 * sp_\$qe + 5 / 12 * sp_\$qe(-1)$

'②保険料収入（単純計算値）

'保険料収入の単純計算値(sp_ce_es)は、厚生年金保険料率(sp_qe)と、一人当たり賃金水準(sp_we)、厚生年金の被保険者数(sp_ye)の積によって計算する

$sp_ce_es = sp_qe * sp_we * sp_ye * 1000$

'一人当たり賃金水準(sp_we)は、賃金変動率で延伸する

$sp_we = sp_we(-1) * (sp_w / sp_w(-1))$

'③保険料収入

'保険料収入(sp_ce)は、単純計算値(sp_ce_es)と年金財政検証の保険料収入との乖離を調整する比率(sp_\$rce_adj)を乗じて計算する

$sp_ce = sp_\$rce_adj * sp_ce_es$

'E 共済年金被保険者数

'①共済年金被保険者数

'(1)共済年金の被保険者数の合計は、国民年金2号被保険者数から厚生年金被保険者数を差し引いて計算する

$sp_ym = sp_y2 - sp_ye$

'(2)国共済被保険者数(sp_ymcg)は15歳～19歳・20～59歳・60歳～64歳の被保険者数(sp_ymcg1519, sp_ymcg2059, sp_ymcg6064)の合計（地共済も同様）

$sp_ymcg = sp_ymcg1519 + sp_ymcg2059 + sp_ymcg6064$

$sp_ymlg = sp_ymlg1519 + sp_ymlg2059 + sp_ymlg6064$

'(3)年齢XからY((X,Y)=(15,19),(20,59),(60,64))の国共済被保険者数(sp_ymXY)は各年齢階層の性別ごとの被保険者数(sp_ymcgXY_m, sp_ymcgXY_f)の合計（地共済も同様）

$sp_ymcg1519 = sp_ymcg1519_m + sp_ymcg1519_f$

$sp_ymcg2059 = sp_ymcg2059_m + sp_ymcg2059_f$

$sp_ymcg6064 = sp_ymcg6064_m + sp_ymcg6064_f$

$sp_ymlg1519 = sp_ymlg1519_m + sp_ymlg1519_f$

$sp_ymlg2059 = sp_ymlg2059_m + sp_ymlg2059_f$

$sp_ymlg6064 = sp_ymlg6064_m + sp_ymlg6064_f$

'(4)年齢XからY((X,Y)=(15,19),(20,59),(60,64))の性別Z(Z=m;男, Z=f;女)の被保険者数(sp_ymXY_Z)は各年齢階層の性別人口(sp_y2XY_Z)に国共済被保険者比率(sp_\$recg_XY_Z)を乗じて求める（地共済も同様）

$sp_ymcg1519_m = sp_y2_1519_m * sp_\$rmcg_1519_m$

$sp_ymcg1519_f = sp_y2_1519_f * sp_\$mrcg_1519_f$

$sp_ymcg6064_m = sp_y2_6064_m * sp_\$mrcg_6064_m$
 $sp_ymcg6064_f = sp_y2_6064_f * sp_\$mrcg_6064_f$

$sp_ymlg1519_m = sp_y2_1519_m * sp_\$rmlg_1519_m$
 $sp_ymlg1519_f = sp_y2_1519_f * sp_\$rmlg_1519_f$

$sp_ymlg6064_m = sp_y2_6064_m * sp_\$rmlg_6064_m$
 $sp_ymlg6064_f = sp_y2_6064_f * sp_\$rmlg_6064_f$

'(5)性別Zの20歳～59歳の国共済被保険者数(sp_je2059_Z)は、性別Zの国共済被保険者数(2号被保険者数(sp_y2_Z)に国共済被保険者比率(sp_ \$mrcg_Z)を乗じて計算) から15歳～19歳と60歳～64歳の被保険者数(sp_ym1519_Z, sp_ym6064_Z)を差し引いて計算(地共済も同様)

$sp_ymcg2059_m = sp_y2_m * sp_\$mrcg_m - (sp_ymcg1519_m + sp_ymcg6064_m)$
 $sp_ymcg2059_f = sp_y2_f * sp_\$mrcg_f - (sp_ymcg1519_f + sp_ymcg6064_f)$

$sp_ymlg2059_m = sp_y2_m * sp_\$rmlg_m - (sp_ymlg1519_m + sp_ymlg6064_m)$
 $sp_ymlg2059_f = sp_y2_f * sp_\$rmlg_f - (sp_ymlg1519_f + sp_ymlg6064_f)$

'②3号被保険者数のうち共済年金被保険者の扶養配偶者数

'3号被保険者のうち国共済被保険者の扶養配偶者数(sp_ymcg3)は3号被保険者数に国共済被保険者扶養配偶者比率(sp_ \$mrcg_3)を乗じて計算(地共済も同様)

$sp_ymcg3 = sp_\$mrcg3 * sp_y3$

$sp_ymlg3 = sp_\$rmlg3 * sp_y3$

'F 共済年金掛金

'①掛金率

'共済年金掛金率(sp_qm)は、各年度の規定掛金率(各年度9月～翌年度8月に適用される)(sp_ \$qm)を年度換算する。

$sp_qm = 7 / 12 * sp_\$qm + 5 / 12 * sp_\$qm(-1)$

'②掛金収入(単純計算値)

'掛金収入の単純計算値(sp_cm_es)は、掛金率(sp_qm)と、一人当たり賃金水準(sp_wm)、共済年金の2号被保険者数(sp_ym)の積によって計算する

$sp_cm_es = sp_qm * sp_wm * sp_ym * 1000$

'一人当たり賃金水準(sp_wm)は、賃金変動率で延伸する

$sp_wm = sp_wm(-1) * (sp_w / sp_w(-1))$

'③掛金収入

'掛金収入(sp_cm)は、単純計算値(sp_cm_es)と年金財政検証の掛金収入との乖離を調整する比率(sp_ \$rcm_adj)を乗じて計算する

$sp_cm = sp_\$rcm_adj * sp_cm_es$

'5)財政サブブロック

'A 基礎年金財政

'(1)基礎年金給付費

'基礎年金給付費は、新法老齢年金とみなし基礎年金の合計

$sp_fb_exp = sp_bba$

'(2)基礎年金拠出金算定対象額

'拠出金算定対象額(sp_fb_btr)は、基礎年金給付額から特別国庫負担相当額を除いた金額であり、基礎年金給付費(sp_fb_exp)に一定率を乗じて計算

$sp_fb_btr = sp_\$rtrbp * sp_fb_exp$

'B 国民年金

'①収入

'(1)国民年金の収入

'国民年金の収入(sp_fn_rev)は、保険料収入(sp_cn)・国庫負担(sp_fn_trcg)・運用収入(sp_fn_rfnd) その他の収入(sp_ \$fn_ro)の合計として計算する

$sp_fn_rev = sp_cn + sp_fn_trcg + sp_fn_rfnd + sp_\fn_ro

'(2)国庫負担

'国庫負担(sp_fn_trcg)は基礎年金拠出金(sp_fn_trbp)に国庫負担率(sp_\$trcg)を乗じ、特別国庫負担相当額、独自給付のうち国庫が負担する額を合計して計算する。

$$sp_fn_trcg = sp_\$trcg * sp_fn_trbp + (sp_fb_exp - sp_fb_btr) + sp_\$rbrn_trcg * sp_bn$$

'(3)運用収入

'運用収入(sp_fn_rfnd)は1年前の積立金(sp_fn_fnd(-1))に運用利回り(sp_rgb)を乗じたものと、保険料収入(sp_cn)と国庫負担(sp_fn_trcg)の合計額から支出合計(sp_fn_exp)を除いたものに運用利回りの平方根を乗じたものの合計。

$$sp_fn_rfnd = sp_fn_fnd(-1) * sp_rgb + (sp_cn + sp_fn_trcg - sp_fn_exp) * ((1 + sp_rgb)^{(1/2)} - 1)$$

'②支出

'(1)国民年金の支出

'国民年金の支出(sp_fn_exp)は、独自給付(sp_bn)・基礎年金拠出金(特別国庫負担込み)(sp_fn_trbp2)とその他の支出(sp_\$fn_po)の合計として計算する

$$sp_fn_exp = sp_bn + sp_fn_trbp2 + sp_\$fn_po$$

'(2)独自給付額

'基礎年金給付費(sp_bba)に独自給付額対基礎年金給付費比率(sp_\$rbrn)を乗じる

$$sp_bn = sp_\$rbrn * sp_bba$$

'(3)基礎年金拠出金

'拠出金算定対象額(sp_fb_btr)に国民年金制度による負担率(右辺の後半部分)を乗じる

'負担率は、1号被保険者数(sp_y1)から1号被保険者のうち算定対象外の被保険者数(sp_y1uc)を差し引いたものを拠出金算定対象者数(分母)で除して求める。

'拠出金(特別国庫負担込み)は、拠出金に基礎年金給付と拠出金算定対象額の差を加える

$$sp_fn_trbp = sp_fb_btr * ((sp_y1 - sp_y1uc) / (sp_y - sp_y1uc - sp_y2_1519 - sp_y2_6064))$$

$$sp_fn_trbp2 = sp_fn_trbp + (sp_fb_exp - sp_fb_btr)$$

'③財政収支

'(1)財政収支

'財政収支(sp_fn_b)

$$sp_fn_b = sp_fn_rev - sp_fn_exp$$

'(2)積立金(sp_fn_fnd)

$$sp_fn_fnd = sp_fn_fnd(-1) + sp_fn_b$$

'C 福祉年金

'(1)福祉年金の支出

'支出(sp_fw_exp)は、給付単価(sp_pw)と受給権者数(sp_nw)を乗じる

'なお、この額と同額が国庫負担金として福祉年金勘定の収入に計上される。

$$sp_fw_exp = sp_pw * sp_nw$$

'(2)給付単価

'給付単価(sp_pw)は1年前の単価(sp_pw(-1))に旧法老齢年金の改定基準(sp_rbfo)を乗じて計算する

$$sp_pw = sp_pw(-1) * sp_rbfo$$

'(3)受給権者数

'受給権者数(sp_nw)は1期前の受給者数(sp_nw(-1))に生存率(sp_\$sw)を乗じて計算する。

$$sp_nw = sp_nw(-1) * sp_\$sw$$

'D 厚生年金

'①収入

'(1)厚生年金の収入

'厚生年金の収入(sp_fe_rev)は、保険料収入(sp_ce)・国庫負担(sp_fe_trcg)・その他の収入(sp_\$fe_ro)の合計として計算する

$$sp_fe_rev = sp_ce + sp_fe_trcg + sp_fe_rfnd + sp_\$fe_ro$$

'(2)運用収入

'運用収入(sp_fe_rfnd)は1年前の積立金(sp_fe_fnd(-1))に運用利回り(sp_rgb)を乗じたものと、保険料収入(sp_ce)と国庫負担(sp_fe_trcg)の合計額から支出合計(sp_fe_exp)を除いたものに運用利回りの平方根を乗じたものの合計。

$$sp_fe_rfnd = sp_fe_fnd(-1) * sp_rgb + (sp_ce + sp_fe_trcg - sp_fe_exp) * ((1 + sp_rgb)^{(1/2)} - 1)$$

'(3)国庫負担

'国庫負担(sp_fe_trcg)は基礎年金拠出金(sp_fe_trbp)に国庫負担率(sp_\$trcg)を乗じたものに、厚生年金追加国庫負担額(sp_\$fe_trcgsp)を加えて計算する

$$sp_fe_trcg = sp_\$trcg * sp_fe_trbp + sp_\$fe_trcgsp$$

'②支出

'(1)厚生年金の支出

'厚生年金の支出(sp_fe_exp)は、給付費(sp_bea)・基礎年金拠出金(sp_fe_trbp)とその他の支出(sp_\$fe_po)の合計として計算する

$$sp_fe_exp = sp_bea + sp_fe_trbp + sp_\$fe_po$$

'(2)基礎年金拠出金

'拠出金算定対象額(sp_fb_btr)に厚生年金の負担率(右辺の後半部分)を乗じる

'負担率は、算定対象となる厚生年金の被保険者数及び扶養配偶者数(sp_ye2059, sp_ye3)を拠出金算定対象者数(分母)で除して求める

$$sp_fe_trbp = sp_fb_btr * (sp_ye2059 + sp_ye3) / (sp_y - sp_y1uc - sp_y2_1519 - sp_y2_6064)$$

'③財政収支

'(1)財政収支

'財政収支(sp_fe_b)

$$sp_fe_b = sp_fe_rev - sp_fe_exp$$

'(2)積立金(sp_fe_fnd)

$$sp_fe_fnd = sp_fe_fnd(-1) + sp_fe_b$$

'E 共済年金

'①収入

'(1)共済年金の収入

'収入(sp_fm_rev)は掛金収入(sp_cm)・国庫公経済負担(sp_fm_trcg)・国共済の追加費用(sp_\$fmcg_trcg_ad)・地共済の追加費用(sp_\$fmlg_trlg_ad)と運用収入(sp_fm_rfnd)・基礎年金交付金(sp_fm_bbo)・その他収入(sp_\$fm_ro)の合計

$$sp_fm_rev = sp_cm + sp_fm_trcg + sp_\$fmcg_trcg_ad + sp_\$fmlg_trlg_ad + sp_fm_rfnd + sp_fm_bbo + sp_\$fm_ro$$

'(2)国庫・公経済負担

'国庫・公経済負担(sp_fm_trcg)は基礎年金拠出金(sp_fm_trbp)に国庫負担率(sp_\$trcg)を乗じて計算する

$$sp_fmcg_trcg = sp_\$trcg * sp_fmcg_trbp$$

$$sp_fmlg_trlg = sp_\$trcg * sp_fmlg_trbp$$

$$sp_fmsg_trcg = sp_\$trcg * sp_fmsg_trbp$$

$$sp_fm_trcg = sp_fmcg_trcg + sp_fmlg_trlg + sp_fmsg_trcg$$

'(3)運用収入

'運用収入(sp_fm_rfnd)は1年前の積立金(sp_fm_fnd(-1))に運用利回り(sp_rgb)を乗じたものと、保険料収入(sp_cm)と国庫負担(sp_fm_trcg)の合計額から支出合計(sp_fm_exp)を除いたものに運用利回りの平方根を乗じたものの合計

$$sp_fm_rfnd = sp_fm_fnd(-1) * sp_rgb + (sp_cm + sp_fm_trcg - sp_fm_exp) * ((1 + sp_rgb)^{(1/2)} - 1)$$

'(4)基礎年金交付金

$$sp_fm_bbo = sp_bbocg + sp_bbolg + sp_bbosg$$

'②支出

'(1)共済年金の支出

'共済年金の支出(sp_fm_exp)は、年金給付(sp_fm_bm)・基礎年金拠出金(sp_fm_trbp)とその他の支出(sp_\$fm_po)の合計

$$sp_fm_exp = sp_fm_bm + sp_fm_trbp + sp_\$fm_po$$

'(2)給付額 (みなし基礎年金を含む)

$$sp_fm_bm = sp_bma + sp_fm_bbo$$

'(3)基礎年金拠出金

'国共済、地共済については、拠出金算定対象額(sp_fb_btr)に共済年金(国共済、地共済)の負担率(右辺の後半部分)を乗じる

'負担率は、算定対象となる国共済の被保険者数及び扶養配偶者数(sp_ymcg2059, sp_ymcg3)を拠出金算定対象者数(分母)で除して求める(地共済も同様)

'私学共済については、拠出金算定対象額(sp_fb_btr)から各制度の基礎年金拠出金を差し引いて求める。

$$sp_fmcg_trbp = sp_fb_btr * (sp_ymcg2059 + sp_ymcg3) / (sp_y - sp_y1uc - sp_y2_1519 - sp_y2_6064)$$

$$sp_fmlg_trbp = sp_fb_btr * (sp_ymlg2059 + sp_ymlg3) / (sp_y - sp_y1uc - sp_y2_1519 - sp_y2_6064)$$

$$sp_fmsg_trbp = sp_fb_btr - sp_fn_trbp - sp_fe_trbp - sp_fmcg_trbp - sp_fmlg_trbp$$

$$sp_fm_trbp = sp_fmcg_trbp + sp_fmlg_trbp + sp_fmsg_trbp$$

'③財政収支

'(1)財政収支

'財政収支(sp_fm_b)

$$sp_fm_b = sp_fm_rev - sp_fm_exp$$

'(2)積立金(sp_fm_fnd)

$$sp_fm_fnd = sp_fm_fnd(-1) + sp_fm_b$$

'F SNAベース給付負担総額・給付負担比率

'①給付総額

$$sp_b = (sp_bba + sp_bn + sp_fw_exp + sp_bea + (sp_fm_bm - sp_fm_bbo)) * sp_b_adj$$

'②年金保険料負担総額

'雇主負担を含む合計(sp_c)

$$sp_c = (sp_cn + sp_ce + sp_cm) * sp_c_adj$$

'雇主負担のみ(sp_c_e)

$$sp_c_e = ((sp_ce + sp_cm) * (1 / 2)) * sp_c_e_adj$$

'本人負担のみ(sp_c_l)

$$sp_c_l = (sp_c - sp_c_e) * sp_c_l_adj$$

変数リスト (外生変数)

変数名(外生)	内容	種類
E_CPI	消費者物価指数(年度)	外生
E_CPICY	消費者物価指数(暦年)	外生
SP_\$FE_PO	厚生年金その他支出	外生
SP_\$FE_RO	厚生年金その他収入	外生
SP_\$FE_TRCGSP	厚生年金追加国庫負担	外生
SP_\$FM_PO	共済年金その他支出	外生
SP_\$FM_RO	共済年金その他収入	外生
SP_\$FMCG_TRCG_AD	国共済追加費用	外生
SP_\$FMLG_TRLG_AD	地共済追加費用	外生
SP_\$FN_PO	国民年金その他支出	外生
SP_\$FN_RO	国民年金その他収入	外生
SP_\$QE	厚生年金規定保険料率	外生
SP_\$QM	共済年金規定掛金率	外生
SP_\$QN	国民年金規定定額保険料	外生
SP_\$QNA	国民年金規定付加保険料	外生
SP_\$R1_1	全額納付1号被保険者比率	外生
SP_\$R1_2	1/4免除1号被保険者比率	外生
SP_\$R1_3	1/2免除1号被保険者比率	外生
SP_\$R1_4	3/4免除1号被保険者比率	外生
SP_\$R1_5	全額免除1号被保険者比率	外生
SP_\$R1_6064	任意加入1号被保険者比率	外生
SP_\$R1_X	未納被保険者比率	外生
SP_\$R2_1519_z	15~19歳2号被保険者比率	外生
SP_\$R2_2059_z	20~59歳2号被保険者比率	外生
SP_\$R2_6064_z	60~64歳2号被保険者比率	外生
SP_\$R3_z	3号被保険者比率	外生
SP_\$RBBF_ADD	老齢基礎年金フルペンション額調整率	外生
SP_\$RBN	国民年金独自給付費対基礎年金給付費比率	外生
SP_\$RBN_TRCG	国民年金独自給付のうち国庫が負担する割合	外生
SP_\$RBR	基礎年金給付費対受給権者ベース給付費比率	外生
SP_\$RBSD	基礎年金障害・遺族給付対老齢給付比率	外生
SP_\$RCE_ADJ	厚生年金保険料収入調整率	外生
SP_\$RCM_ADJ	共済年金保険料収入調整率	外生
SP_\$RCN_ADJ	国民年金保険料収入調整率	外生
SP_\$RE3	厚生年金被保険者の扶養配偶者比率(対3号被保険者数)	外生
SP_\$RE_1519_z	厚生年金15~19歳被保険者比率	外生
SP_\$RE_6064_z	厚生年金60~64歳被保険者比率	外生
SP_\$RE_z	厚生年金被保険者比率	外生
SP_\$RER	厚生年金給付費対受給者ベース給付費比率	外生
SP_\$RESD	厚生年金障害・遺族給付対老齢給付比率	外生
SP_\$RMCG3	国共済被保険者の扶養配偶者比率(対3号被保険者数)	外生
SP_\$RMCG_1519_z	国共済15~19歳被保険者比率	外生
SP_\$RMCG_6064_F	国共済60~64歳被保険者比率	外生
SP_\$RMCG_z	国共済被保険者比率	外生
SP_\$RMLG3	地共済被保険者の扶養配偶者比率(対3号被保険者数)	外生
SP_\$RMLG_1519_z	地共済15~19歳被保険者比率	外生
SP_\$RMLG_6064_z	地共済60~64歳被保険者比率	外生
SP_\$RMLG_z	地共済被保険者比率	外生
SP_\$RMR	共済年金給付費対受給者ベース給付費比率	外生
SP_\$RMSD	共済年金障害・遺族給付対老齢給付比率	外生
SP_\$RNADD	国民年金付加保険料納付者数対1号被保険者数比率	外生
SP_\$RNBB_ADD	老齢基礎年金受給権者対人口比率調整率	外生
SP_\$RNE_ADD	老齢厚生年金(老齢相当)受給権者対人口比率調整率	外生
SP_\$RNET_ADD	老齢厚生年金(通老相当)受給権者対人口比率調整率	外生
SP_\$RNM_ADD	退職共済年金(退年相当)受給権者対人口比率調整率	外生
SP_\$RNMT_ADD	退職共済年金(通退相当)受給権者対人口比率調整率	外生
SP_\$RTRBP	基礎年金拠出金算定対象額対基礎年金給付費比率	外生
SP_\$RTRCG	基礎年金国庫負担率	外生
SP_\$RY	公的年金被保険者比率	外生
SP_\$SW	福祉年金受給権者生存率	外生
SP_B_ADJ	公的年金給付額(SNAベース)調整率	外生
SP_BBOCGX	国共済・物価スライド前基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	外生
SP_BBOEX	厚生年金・物価スライド前基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	外生
SP_BBOLGX	地共済・物価スライド前基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	外生
SP_BBONX	国民年金・物価スライド前基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	外生
SP_BBOSGX	私学共済・物価スライド前基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	外生
SP_BEOFX	厚生年金旧法定額部分(みなし基礎年金除く)(物価スライド前)	外生
SP_BMOFX	共済年金旧法定額部分(みなし基礎年金除く)(物価スライド前)	外生
SP_C_ADJ	公的年金保険料収入(SNAベース)調整率	外生
SP_C_E_ADJ	公的年金保険料収入雇主負担(SNAベース)調整率	外生
SP_C_L_ADJ	公的年金保険料収入雇用量負担(SNAベース)調整率	外生
SP_DES1_xy_z	厚生年金特別支給定額部分支給年度ダミー(60~64)	外生
SP_DES2_xy_z	厚生年金特別支給報酬比例部分支給年度ダミー(60~64)	外生
SP_DMS	基礎年金マクロスライド調整期間ダミー	外生
SP_DMS1_xy_z	共済年金特別支給定額部分支給年度ダミー(60~64)	外生
SP_DMS2_xy_z	共済年金特別支給報酬比例部分支給年度ダミー(60~64)	外生
SP_DMSE	厚生年金マクロスライド調整期間ダミー	外生
SP_RGB	運用利回り	外生
SP_W	厚生年金男性被保険者の平均標準報酬額等平均	外生

変数リスト (内生変数)

変数名(内生)	内容	種類
SP_\$PExy_z	老齢厚生年金(老齢相当)各性別・年齢別給付単価(65~95ov)	内生
SP_\$PES1_xy_z	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)定額部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PES2_xy_z	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)報酬比例部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PEST1_xy_z	老齢厚生年金特別支給(通老相当)定額部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PEST2_xy_z	老齢厚生年金特別支給(通老相当)報酬比例部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PETxy_z	老齢厚生年金(通老相当)各性別・年齢別給付単価(65~95ov)	内生
SP_\$PMxy_z	退職共済年金(退年相当)各性別・年齢別給付単価(65~95ov)	内生
SP_\$PMS1_xy_z	退職共済年金特別支給(退年相当)定額部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PMS2_xy_z	退職共済年金特別支給(退年相当)報酬比例部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PMST1_xy_z	退職共済年金特別支給(通退相当)定額部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PMST2_xy_z	退職共済年金特別支給(通退相当)報酬比例部分各性別・年齢別給付単価(60~64)	内生
SP_\$PMTxy_z	退職共済年金(通退相当)各性別・年齢別給付単価(65~95ov)	内生
SP_\$RBBFxy_z	老齢基礎年金各性別・年齢別フルペンション額(60~95ov)	内生
SP_\$RNBBxy_z	老齢基礎年金各性別・年齢別受給権者対人口比率(60~95ov)	内生
SP_\$RNExy_z	老齢厚生年金(老齢相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(65~95ov)	内生
SP_\$RNESxy_z	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(60~64)	内生
SP_\$RNESTxy_z	老齢厚生年金特別支給(通老相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(60~64)	内生
SP_\$RNETxy_z	老齢厚生年金(通老相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(65~95ov)	内生
SP_\$RNMxy_z	退職共済年金(退年相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(65~95ov)	内生
SP_\$RNMSTxy_z	退職共済年金特別支給(退年相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(60~64)	内生
SP_\$RNMSTxy_z	退職共済年金特別支給(通退相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(60~64)	内生
SP_\$RNMSTxy_z	退職共済年金(通退相当)各性別・年齢別受給権者対人口比率(65~95ov)	内生
SP_B	公的年金給付額(SNAベース)	内生
SP_BB	老齢基礎年金(新法)給付費	内生
SP_BBxy_z	老齢基礎年金(新法)各性別・年齢別給付費(60~95ov)	内生
SP_BB_z	老齢基礎年金(新法)各性別給付費	内生
SP_BBA	基礎年金給付費	内生
SP_BBO	基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	内生
SP_BBOCG	国共済・基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	内生
SP_BBOE	厚生年金・基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	内生
SP_BBOLG	地共済・基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	内生
SP_BBON	国民年金・基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	内生
SP_BBOSG	私学共済・基礎年金相当給付費(みなし基礎年金給付費)	内生
SP_BBSD	基礎年金(新法)障害・遺族給付	内生
SP_BE	老齢厚生年金(老齢相当)給付費	内生
SP_BExy_z	老齢厚生年金(老齢相当)各性別・年齢別給付費(65~95ov)	内生
SP_BE_z	老齢厚生年金(老齢相当)各性別給付費	内生
SP_BEA	厚生年金給付費	内生
SP_BER	老齢厚生年金給付費	内生
SP_BES	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)給付費	内生
SP_BESxy_z	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)各性別・年齢別給付費(60~64)	内生
SP_BES_z	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)各性別給付費	内生
SP_BESD	障害・遺族厚生年金給付費	内生
SP_BEST	老齢厚生年金特別支給(通老相当)給付費	内生
SP_BESTxy_z	老齢厚生年金特別支給(通老相当)各性別・年齢別給付費(60~64)	内生
SP_BEST_z	老齢厚生年金特別支給(通老相当)各性別給付費	内生
SP_BET	老齢厚生年金(通老相当)給付費	内生
SP_BETxy_z	老齢厚生年金(通老相当)各性別・年齢別給付費(65~95ov)	内生
SP_BET_z	老齢厚生年金(通老相当)各性別給付費	内生
SP_BM	退職共済年金(退年相当)給付費	内生
SP_BMxy_z	退職共済年金(退年相当)各性別・年齢別給付費(65~95ov)	内生
SP_BM_z	退職共済年金(退年相当)各性別給付費	内生
SP_BMA	共済年金給付費	内生
SP_BMR	退職共済年金給付費	内生
SP_BMS	退職共済年金特別支給(退年相当)給付費	内生
SP_BMSxy_z	退職共済年金特別支給(退年相当)各性別・年齢別給付費(60~64)	内生
SP_BMS_z	退職共済年金特別支給(退年相当)各性別給付費	内生
SP_BMSD	障害・遺族共済年金給付費	内生
SP_BMST	退職共済年金特別支給(通退相当)給付費	内生
SP_BMSTxy_z	退職共済年金特別支給(通退相当)各性別・年齢別給付費(60~64)	内生
SP_BMST_z	退職共済年金特別支給(通退相当)各性別給付費	内生
SP_BMT	退職共済年金(通退相当)給付費	内生
SP_BMTxy_z	退職共済年金(通退相当)各性別・年齢別給付費(65~95ov)	内生
SP_BMT_z	退職共済年金(通退相当)各性別給付費	内生
SP_BN	国民年金独自給付費	内生
SP_C	公的年金保険料収入(SNAベース)	内生
SP_C_E	公的年金保険料収入雇主負担(SNAベース)	内生
SP_C_L	公的年金保険料収入雇業者負担(SNAベース)	内生
SP_CE	厚生年金保険料収入	内生
SP_CE_ES	厚生年金保険料収入調整前	内生
SP_CM	共済年金保険料収入	内生
SP_CM_ES	共済年金保険料収入調整前	内生
SP_CN	国民年金保険料収入	内生
SP_CN_ES	国民年金保険料収入調整前	内生
SP_CNA	国民年金付加保険料収入	内生
SP_FB_BTR	基礎年金拠出金算定対象額	内生
SP_FB_EXP	基礎年金支出	内生
SP_FE_B	厚生年金収支	内生

変数名(内生)	内容	種類
SP_FE_EXP	厚生年金支出	内生
SP_FE_FND	厚生年金積立金残高	内生
SP_FE_REV	厚生年金収入	内生
SP_FE_RFND	厚生年金運用収入	内生
SP_FE_TRBP	厚生年金基礎年金拠出金	内生
SP_FE_TRCG	厚生年金国庫負担(追加国庫負担を含む)	内生
SP_FM_B	共済年金収支	内生
SP_FM_BBO	共済年金みなし基礎年金給付費	内生
SP_FM_BM	共済年金給付費(みなし基礎年金給付費を含む)	内生
SP_FM_EXP	共済年金支出	内生
SP_FM_FND	共済年金積立金残高	内生
SP_FM_REV	共済年金収入	内生
SP_FM_RFND	共済年金運用収入	内生
SP_FM_TRBP	共済年金基礎年金拠出金	内生
SP_FM_TRCG	共済年金国庫公経済負担(追加費用を含まない)	内生
SP_FMCG_TRBP	国共済基礎年金拠出金	内生
SP_FMCG_TRCG	国共済国庫公経済負担(追加費用を含まない)	内生
SP_FMLG_TRBP	地共済基礎年金拠出金	内生
SP_FMLG_TRLG	地共済国庫公経済負担負担(追加費用を含まない)	内生
SP_FMSG_TRBP	私学共済基礎年金拠出金	内生
SP_FMSG_TRCG	私学共済国庫公経済負担	内生
SP_FN_B	国民年金収支	内生
SP_FN_EXP	国民年金支出	内生
SP_FN_FND	国民年金積立金残高	内生
SP_FN_REV	国民年金収入	内生
SP_FN_RFND	国民年金運用収入	内生
SP_FN_TRBP	国民年金基礎年金拠出金	内生
SP_FN_TRBP2	国民年金基礎年金拠出金(特別国庫負担を含む)	内生
SP_FN_TRCG	国民年金国庫負担(特別国庫負担を含む)	内生
SP_FW_EXP	福祉年金給付費	内生
SP_LBFxy	老齢基礎年金年齢別フルペンション額(68~95ov)	内生
SP_LBFxy_O	老齢基礎年金年齢別フルペンション額(本来水準)(68~95ov)	内生
SP_LBFxy_WM	老齢基礎年金年齢別フルペンション額(本来水準候補・マクロスライド有り)(68~95ov)	内生
SP_LBFxy_XM	老齢基礎年金年齢別フルペンション額(本来水準候補・マクロスライド無し)(68~95ov)	内生
SP_LBF_SP	老齢基礎年金年齢別フルペンション額(特例水準)	内生
SP_LBF_SP_REF	老齢基礎年金年齢別フルペンション額(参照特例水準)	内生
SP_LBFO	みなし基礎年金給付費用フルペンション額	内生
SP_LBFO_O	みなし基礎年金給付費用フルペンション額(本来水準)	内生
SP_LBFO_WM	みなし基礎年金給付費用フルペンション額(本来水準候補・マクロスライド有り)	内生
SP_LBFO_XM	みなし基礎年金給付費用フルペンション額(本来水準候補・マクロスライド無し)	内生
SP_LBFZ	老齢基礎年金新規裁定フルペンション額	内生
SP_LBFZ_O	老齢基礎年金新規裁定フルペンション額(本来水準)	内生
SP_LBFZ_WM	老齢基礎年金新規裁定フルペンション額(本来水準候補・マクロスライド有り)	内生
SP_LBFZ_XM	老齢基礎年金新規裁定フルペンション額(本来水準候補・マクロスライド無し)	内生
SP_LExy	老齢厚生年金年齢別支給水準指数(68~95ov)	内生
SP_LExy_O	老齢厚生年金年齢別本来水準指数(68~95ov)	内生
SP_LExy_WM	老齢厚生年金年齢別本来水準指数候補(マクロスライド有り)(68~95ov)	内生
SP_LExy_XM	老齢厚生年金年齢別本来水準指数候補(マクロスライド無し)(68~95ov)	内生
SP_LE_SP	老齢厚生年金年齢別特例水準指数	内生
SP_LE_SP_REF	老齢厚生年金年齢別参照特例水準指数	内生
SP_LEZ	老齢厚生年金新規裁定者支給水準指数	内生
SP_LEZ_O	老齢厚生年金新規裁定者本来水準指数	内生
SP_LEZ_WM	老齢厚生年金新規裁定者本来水準指数候補(マクロスライド有り)	内生
SP_LEZ_XM	老齢厚生年金新規裁定者本来水準指数候補(マクロスライド無し)	内生
SP_NBB	老齢基礎年金受給権者数	内生
SP_NBB_z	各性別老齢基礎年金受給権者数	内生
SP_NE	老齢厚生年金(老齢相当)受給権者数	内生
SP_NE_z	各性別老齢厚生年金(老齢相当)受給権者数	内生
SP_NER	老齢厚生年金受給権者数	内生
SP_NES	老齢厚生年金特別支給(老齢相当)受給権者数	内生
SP_NES_z	各性別老齢厚生年金特別支給(老齢相当)受給権者数	内生
SP_NEST	老齢厚生年金特別支給(通老相当)受給権者数	内生
SP_NEST_z	各性別老齢厚生年金特別支給(通老相当)受給権者数	内生
SP_NET	老齢厚生年金(通老相当)受給権者数	内生
SP_NET_z	各性別老齢厚生年金(通老相当)受給権者数	内生
SP_NM	退職共済年金(退年相当)受給権者数	内生
SP_NM_z	各性別退職共済年金(退年相当)受給権者数	内生
SP_NMR	退職共済年金受給権者数	内生
SP_NMS	退職共済年金特別支給(退年相当)受給権者数	内生
SP_NMS_z	各性別退職共済年金特別支給(退年相当)受給権者数	内生
SP_NMST	退職共済年金特別支給(通退相当)受給権者数	内生
SP_NMST_z	各性別退職共済年金特別支給(通退相当)受給権者数	内生
SP_NMT	退職共済年金(通退相当)受給権者数	内生
SP_NMT_z	各性別退職共済年金(通退相当)受給権者数	内生
SP_NW	福祉年金受給権者数	内生
SP_PW	福祉年金給付単価	内生
SP_QE	厚生年金保険料率	内生
SP_QM	共済年金保険料率	内生
SP_QN	国民年金定額保険料	内生

変数名(内生)	内容	種類
SP_QNA	国民年金付加保険料	内生
SP_R95	95歳人口対95歳以上人口比率	内生
SP_R95_z	各性別95歳人口対95歳以上人口比率	内生
SP_RBFO	みなし基礎年金給付費の改定基準	内生
SP_RBFO_ADJ	みなし基礎年金給付費の改定率	内生
SP_RBI	所得代替率	内生
SP_RExy	老齢厚生年金年齢別改定基準(68~95ov)	内生
SP_REZ	老齢厚生年金新規裁定者改定基準	内生
SP_RM	マクロスライド調整率	内生
SP_RM_ADJ	マクロスライド調整率	内生
SP_RM_REF	所得代替率が50%に到達した場合にマクロスライド調整を停止する場合の調整率	内生
SP_RP	物価変動率	内生
SP_RP_M	マクロスライド調整済み物価変動率(基礎年金)	内生
SP_RPE_M	マクロスライド調整済み物価変動率(厚生年金)	内生
SP_RQN	国民年金保険料改定率	内生
SP_RW	名目手取り賃金変動率	内生
SP_RW_M	マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率(基礎年金)	内生
SP_RWE_M	マクロスライド調整済み名目手取り賃金変動率(厚生年金)	内生
SP_RX_M	既裁定者の改定基準(基礎年金)	内生
SP_RX_XM	既裁定者の改定基準(基礎年金)(マクロスライド無し)	内生
SP_RXE_M	既裁定者の改定基準(厚生年金)	内生
SP_RXE_XM	既裁定者の改定基準(厚生年金)(マクロスライド無し)	内生
SP_RZ_M	新規裁定者の改定基準(基礎年金)	内生
SP_RZ_XM	新規裁定者の改定基準(基礎年金)(マクロスライド無し)	内生
SP_RZE_M	新規裁定者の改定基準(厚生年金)	内生
SP_RZE_XM	新規裁定者の改定基準(厚生年金)(マクロスライド無し)	内生
SP_SP	物価変動率に関するスイッチ変数	内生
SP_SW	名目手取り賃金変動率に関するスイッチ変数	内生
SP_WE	厚生年金被保険者の平均標準報酬額等平均	内生
SP_WEZ	厚生年金新規裁定者の標準的な年金額	内生
SP_WM	共済年金被保険者の平均標準報酬額等平均	内生
SP_Y	公的年金被保険者数	内生
SP_Y1	1号被保険者数	内生
SP_Y1_1	全額納付1号被保険者数	内生
SP_Y1_2	1/4免除1号被保険者数	内生
SP_Y1_3	1/2免除1号被保険者数	内生
SP_Y1_4	3/4免除1号被保険者数	内生
SP_Y1_5	全額免除1号被保険者数	内生
SP_Y1_6064	任意加入1号被保険者数	内生
SP_Y1_X	未納被保険者数	内生
SP_Y1UC	拠出金算定対象外1号被保険者数	内生
SP_Y2	2号被保険者数	内生
SP_Y2_1519	15~19歳2号被保険者数	内生
SP_Y2_1519_z	各性別15~19歳2号被保険者数	内生
SP_Y2_2059	20~59歳2号被保険者数	内生
SP_Y2_2059_z	各性別20~59歳2号被保険者数	内生
SP_Y2_6064	60~64歳2号被保険者数	内生
SP_Y2_6064_z	各性別60~64歳2号被保険者数	内生
SP_Y2_z	各性別2号被保険者数	内生
SP_Y3	3号被保険者数	内生
SP_Y3_z	各性別3号被保険者数	内生
SP_YE	厚生年金被保険者数	内生
SP_YE1519	15~19歳厚生年金被保険者数	内生
SP_YE1519_z	各性別15~19歳厚生年金被保険者数	内生
SP_YE2059	20~59歳厚生年金2号被保険者数	内生
SP_YE2059_z	各性別20~59歳厚生年金被保険者数	内生
SP_YE3	3号被保険者のうち厚生年金被保険者の扶養配偶者数	内生
SP_YE6064	60~64歳厚生年金被保険者数	内生
SP_YE6064_z	各性別60~64歳厚生年金被保険者数	内生
SP_YM	共済年金被保険者数	内生
SP_YMCG	国共済被保険者数	内生
SP_YMCG1519	15~19歳国共済被保険者数	内生
SP_YMCG1519_z	各性別15~19歳国共済被保険者数	内生
SP_YMCG2059	20~59歳国共済被保険者数	内生
SP_YMCG2059_z	各性別20~59歳国共済被保険者数	内生
SP_YMCG3	3号被保険者のうち国共済被保険者の扶養配偶者数	内生
SP_YMCG6064	60~64歳国共済被保険者数	内生
SP_YMCG6064_z	各性別60~64歳国共済被保険者数	内生
SP_YMLG	地共済被保険者数	内生
SP_YMLG1519	15~19歳地共済被保険者数	内生
SP_YMLG1519_z	各性別15~19歳地共済被保険者数	内生
SP_YMLG2059	20~59歳地共済被保険者数	内生
SP_YMLG2059_z	各性別20~59歳地共済被保険者数	内生
SP_YMLG3	3号被保険者のうち地共済被保険者の扶養配偶者数	内生
SP_YMLG6064	60~64歳地共済被保険者数	内生
SP_YMLG6064_z	各性別60~64歳地共済被保険者数	内生

(※)「_z」は各性別を表し、「_m」(男性)、「_z」(女性)のいずれかが入る。「xy」は各年齢階層を表し、「内容」欄で示した範囲の数値が入る。